

平成17年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



さわやかなスポーツを！

PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT

財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境委員会

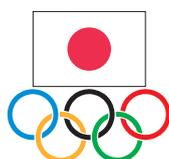


財団法人 日本オリンピック委員会 スポーツ環境専門委員会

平成17年度

スポーツ環境委員会 活動報告書

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE



スポーツ環境の啓発活動

JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE

■第20回オリンピック冬季競技大会（2006／トリノ）

●日時／2006年2月10日～26日



岡崎朋美日本代表選手団主将／MPCJOC オフィス



荒川静香選手／MPCJOC オフィス



後列：目黒萌絵選手、林弓枝選手、小野寺歩選手
前列：寺田桜子選手、本橋麻里選手／MPCJOC オフィス



ストゥピニージ宮殿にて行なわれたレセプションでインタビューに答える選手たち
加藤条治選手、及川佑選手、大菅小百合選手、高橋大輔選手、上村愛子選手

■第 20 回オリンピック冬季競技大会（2006 / トリノ）日本代表選手団結団式

●日時 / 2006 年 1 月 22 日 場所 / 新高輪プリンスホテル 参加人数 / 1000 名



小池百合子環境大臣、村主章枝日本代表選手団副将



岡部孝信日本代表選手団旗手代行、小泉純一郎首相、竹田恆和会長、森喜朗日本体育協会会長、村主章枝日本代表選手団副将、小坂憲次文部科学大臣、小池百合子環境大臣



竹田恆和会長、小池百合子環境大臣、猪谷千春 IOC 副会長



遅塚研一日本代表選手団長、小池百合子環境大臣、水野正人スポーツ環境専門委員長



■第4回 東アジア競技大会（2005 / マカオ） 結団式

●日時 / 2005年10月25日 場所 / 高輪プリンスホテル 参加人数 / 390名



徳永悠平日本代表選手団主将, 中西悠子日本代表選手団旗手



竹田恆和会長



遅塚研一常務理事、富田正一国際専門委員長



竹内譲次選手、川村卓也選手、山田大治選手

■第3回 JOC オリンピックファミリーゴルフ（新潟県中越地震被災地支援チャリティ大会）

●日時 / 2005年6月13日 場所 / 程ヶ谷カントリー倶楽部



船木正也フジテレビスポーツ部長、竹田恆和会長、小島佑介コダック（株）代表取締役社長、平間正一佐川急便（株）取締役副社長



■オリンピックコンサート 2005

●日時／ 2005年6月19日 場所／NHKホール 参加人数／2864名



■スポーツジャーナリストセミナー 2005

●日時／ 2005年9月30日 場所／共同通信社大会議室 参加人数／124名



■オリンピックフェスティバル

●日時／ 2005年10月10日 場所／駒沢オリンピック公園総合運動場 参加人数／15298名



■第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー

●日時／2005年9月16日 場所／大阪中央体育館 参加人数／211名



林務副会長・専務理事



水野正人スポーツ環境専門委員長



松岡修造スポーツ環境専門委員



山本博アスリート専門委員



泉憲大阪市都市環境局地球環境課担当係長



熊野健司大阪市ゆとりとみどり振興局施設整備課長



平松純子スポーツ環境専門委員



藤縄信夫日本サッカー協会理事・関西サッカー協会理事長



別所恭一スポーツ環境専門委員

■ IOC スポーツと環境地域セミナー（西アジア）

●日時／2005年4月18日～20日 場所／ドバイ



TORE BREVIC UNEP・IOC スポーツと環境委員（右側）、
EDWARD KENSINGTON IOC スタッフ（左側）



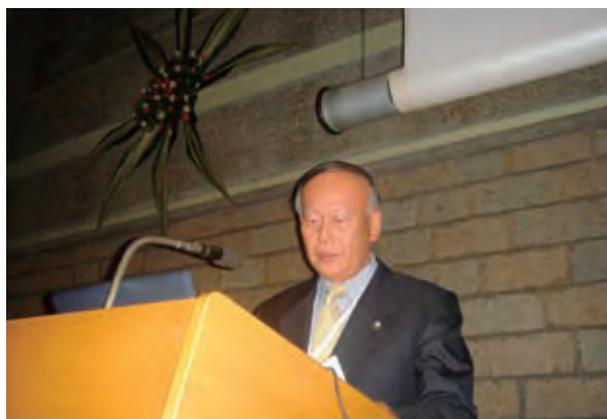
IOC スポーツと環境委員と西アジア NOC 代表者たち

■第6回 IOC スポーツと環境世界会議

●日時／2005年11月9日～10日 場所／ナイロビ



水野正人 IOC スポーツと環境委員



佐野和夫スポーツ環境専門副委員長



佐野和夫スポーツ環境専門副委員長、パル・シュミット
IOC スポーツと環境委員長、グニラ・リンドバーク IOC 副
会長



IOC スポーツと環境委員会メンバー

■第2回 JOC スポーツと環境担当者会議

●日時／2005年11月25日 場所／国立スポーツ科学センター（JISS） 参加人数／89名



市原則之常務理事



土居健太郎環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室長



和田恵子日本トライアスロン連合環境委員長



若月東兒日本山岳協会自然保護委員長



山口香スポーツ環境専門委員



豊崎謙日本セーリング連盟広報委員

■ JOC スポーツ発電リレー

リサイクル自転車を漕いで発電量を計る「JOC スポーツ発電リレー」。日頃、無意識のうちに消費されている電力エネルギーの大切さを一般の人に体感、認識してもらうために実施。



JOC スポーツ発電リレーのブース正面



武田美保オリンピックデーランアンバサダーの参加



参加証をもらった子供



荻原健司オリンピックデーランアンバサダーの応援



子供たちの参加



JOC トリノ本部（ジャパンハウス）での紹介

(財) 日本陸上競技連盟

Japan Amateur Athletic Federation

■第 89 回日本陸上競技選手権大会

●日時／ 2005 年 6 月 2 日～ 5 日 場所／ 国立霞ヶ丘競技場



河野洋平会長、櫻井孝次副会長・専務理事



小掛照二名誉副会長、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長



中央：青木半治名誉会長



■セイコースーパー陸上 2005 ヨコハマ

●日時／ 2005 年 9 月 19 日 場所／ 日産スタジアム（旧横浜国際競技場）



河野太郎神奈川陸上競技協会会長、瀬戸邦宏総務委員、牛嶋英輔総務委員、櫻井孝次副会長・専務理事、久保田克彦理事・総務委員長



■第 25 回記念 2006 大阪国際女子マラソン

●日時／ 2006 年 1 月 29 日 場所／長居陸上競技場



上治丈太郎 JOC 国際専門委員、千草宗一郎関西テレビ代表取締役社長、出馬迪男関西テレビ会長、櫻井孝次副会長・専務理事、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、益田康久電通関西支社第一営業局長



櫻井孝次副会長・専務理事、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長

(財) 日本水泳連盟

Japan Swimming Federation

■第 81 回日本選手権水泳競技大会シンクロナイズドスイミング競技

●日時／ 2005 年 4 月 2 日～ 4 日 場所／東京辰巳国際水泳場 参加人数／ 469 名



電光掲示板の下に横断幕を掲揚



小谷実可子 JOC 理事・アスリート委員長

■第 81 回日本選手権水泳競技大会競泳競技

●日時／ 2005 年 4 月 21 日～ 24 日 場所／横浜国際プール 参加人数／ 724 名



北島康介選手



佐野和夫水泳連盟スポーツ環境委員長、林利博会長、古橋廣之進名誉会長、林務副会長

■第 1 回 (財) 日本水泳連盟スポーツ環境委員会

●日時／ 2005 年 5 月 18 日 場所／岸記念体育会館



後列：小川知伸スポーツ環境委員、有久暢スポーツ環境委員、泉正文スポーツ環境委員、秋山隆司スポーツ環境委員、加藤安司スポーツ環境委員

前列：草分容子スポーツ環境委員、齋藤由紀スポーツ環境委員、岡田奉代スポーツ環境委員、水野正人 JOC スポーツ環境専門委員長、佐野和夫スポーツ環境委員長、岩崎恭子スポーツ環境委員、長谷川雪恵スポーツ環境委員

■第 35 回関東選手権飛込競技大会

●日時／ 2005 年 7 月 2 日～ 3 日

場所／川口市青木町公園飛込プール 参加人数／ 202 名



■日本シンクロチャレンジカップ 2005

●日時／2005年8月11日～14日 場所／東京辰巳国際水泳場 参加人数／325名



電光掲示板の下に横断幕を掲揚



■第73回日本高等学校選手権水泳競技大会

●日時／2005年8月17日～20日 場所／千葉県国際総合水泳場 参加人数／1887名



■第81回日本学生選手権水泳競技大会

●日時／2005年9月2日～4日 場所／なみはやドーム(大阪府立門真スポーツセンタープール) 参加人数／1200名



観客席前面に横断幕掲揚



佐野和夫水泳連盟スポーツ環境委員長、林利博会長、林務副会長

■第 60 回国民体育大会夏季大会水泳競技

●日時／ 2005 年 9 月 7 日・10 日～ 13 日 場所／ 児島地区公園水泳場（児島マリンプール）
参加人数／ 1965 名



佐野和夫水泳連盟スポーツ環境委員長

■日本スポーツマスターズ 2005 水泳競技

●日時／ 2005 年 9 月 23 日～ 24 日 場所／ 富山県総合体育センター 参加人数／ 358 名



山本浩常務理事

■第 28 回全国 JOC ジュニアオリンピックカップ水泳競技大会水球競技

●日時／ 2006 年 3 月 26 日～ 30 日 場所／ 千葉県国際総合水泳場



JOC / JASF ロゴ入り横断幕の掲揚

(財) 日本サッカー協会

Japan Football Association

■ 2006 FIFA ワールドカップドイツ アジア地区最終予選 日本 VS イラン

● 日時 / 2005 年 8 月 17 日 場所 / 横浜国際総合競技場



川淵三郎キャプテン、高円宮妃殿下、岡野俊一郎名誉会長



鈴木昌Jリーグチェアマン、小倉純二副会長、川淵三郎キャプテン、平田竹男JOCスポーツ環境専門委員



■ Jリーグにおけるスポーツ環境啓発活動



約 500 人の参加者と共にスタジアム周辺の清掃活動を実施 (ジュビロ磐田)



クラブ、ボランティア、市民団体、企業、観客が一体となり行っているスタジアムのゴミ削減、資源節約を目指した活動(ベガルタ仙台)



リユースカップの導入 (ヴァンフォーレ甲府)



観客へのリユースカップの呼びかけ (横浜F・マリノス)

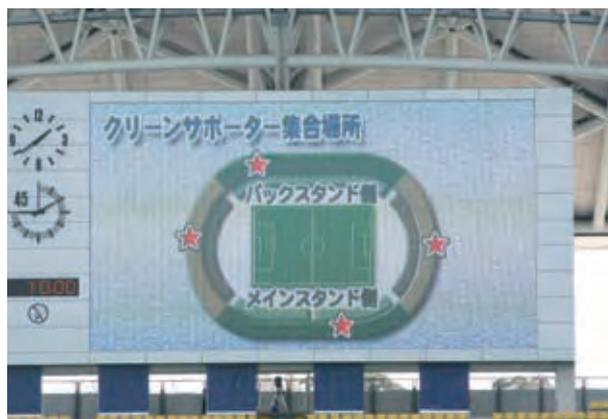
■ AFC アジアカップ予選 日本 vs インド

●日時 / 2006年2月22日 場所 / 日産スタジアム



■ KIRIN WORLD CHALLENGE キリンチャレンジカップ 2006 日本 vs エクアドル

●日時 / 2006年3月30日 場所 / 大分スポーツ公園総合競技場



(財) 全日本スキー連盟

Ski Association of Japan

■ 2005 FIS サマーグランプリ白馬ジャンプ大会

●日時／2005年9月10日～11日 場所／長野県白馬村



ブレーキングトラックに横断幕を掲揚

■ 第61回国民体育大会冬季大会スキー競技会

●日時／2006年2月19日～22日（全国代表者会議2月18日） 場所／群馬県片品村



全国代表者会議会場にポスターを掲示



選手団控え室に横断幕を掲揚



会場案内所にポスターを掲示

(財) 日本テニス協会

The Japan Tennis Association

■トヨタジュニアトーナメント 2005

●日時／ 2005年3月30日～4月2日 場所／愛知県東山公園テニスセンター 参加人数／192名



■デビスカップ 2005

●日時／ 2005年7月15日～17日 場所／なみはやドーム(大阪府立門真スポーツセンター内)



デビスカップチーム



■第23回全国小学生テニス選手権大会

●日時／ 2005年7月28日～30日 場所／第一生命保険相互会社 相楽園総合グラウンドテニスコート 参加人数／128名



入賞者及び役員



■ダンロップ 全日本ジュニアテニス選手権 '05

●日時／ 2005年8月4日～16日 場所／大阪市・鞠テニスセンター西園 参加人数／960名



松岡修造 JOC スポーツ環境専門委員

■第32回全国中学生テニス選手権大会

●日時／ 2005年8月19日～24日 場所／愛知県東山公園テニスセンター 参加人数／736名



個人戦入賞者及び大会役員

■ニッケ全日本テニス選手権大会 80th

● 2005年11月13日～20日 場所／有明コロシアム・有明テニスの森公園コート

参加人数／544名



■第16回 JTA コーチーズカンファレンス

● 2006年2月26日～27日 場所／昭和の森テニスクラブ



JTA コーチーズカンファレンス受講生



飯田藍普及指導本部長

(社) 日本アマチュアボクシング連盟

Japan Amateur Boxing Federation

■第 60 回国民体育大会秋季大会ボクシング競技

●日時／ 2005 年 10 月 23 日～ 27 日 場所／岡山市岡山ドーム



A 級審判員の面々

後列：千田清、長岡史自、大内孝子事務局員、亀井博美、
武元前川、白崎文男、山本豊弘

前列：田浦敏邦、佐藤征治、登川正広



■第 17 回全国高等学校ボクシング選抜大会

●日時／ 2006 年 3 月 22 日～ 25 日 場所／ウェルサンピア京都



(財) 日本バレーボール協会

Japan Volleyball Association

■ FIVB ワールドグランドチャンピオンズカップ 2005 男女バレーボール大会

●日時／2005年11月15日～16日 場所／東京体育館



小岸紀郎専務理事、立木正夫会長ご夫妻、松平康隆名誉会長ご夫妻



大友愛選手、竹下佳江選手



菅山かおる選手



櫻井由佳選手



(財) 日本体操協会

Japan Gymnastic Association

■第2回トップアスリートふれあい体操教室

●日時／2005年7月21日 場所／国立スポーツ科学センター 参加人数／100名



■第5回常務理事会

●日時／2005年7月29日 場所／岸記念体育会館



■全日本ジュニア体操競技選手権大会

●日時／2005年8月12日～17日
場所／横浜文化体育館



■第38回世界体操競技選手権大会

●日時／2005年11月22日～27日
場所／オーストラリア・メルボルン



水鳥寿思選手、富田洋之選手、鹿島丈博選手

(財) 日本スケート連盟

Japan Skating Federation

■ ISU ジュニアグランプリフィギュアスケート国際競技大会・SBC 杯 2005

●日時／2005年10月20日～23日 場所／岡谷市やまびこスケートの森アイスアリーナ
参加人数／220名



小野長久理事、松本充雄専務理事、林泰章理事、平松純子 JOC スポーツ環境専門委員



松本充雄専務理事、ペア入賞選手、平松純子 JOC スポーツ環境専門委員

■ SBC 杯第 12 回全日本スピードスケート距離別選手権大会

●日時／2005年10月28日～30日 場所／長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)
参加人数／4980名



亀岡寛治理事、遅塚研一 JOC 常務理事、松本充雄専務理事



松本充雄専務理事、白川博会長、林泰章長野県スケート連盟会長、亀岡寛治理事

■ 第 11 回ジュニアオリンピックカップ・ショートトラックスピードスケート選手権大会

●日時／2005年11月18日～19日 場所／名古屋市総合体育館・レインボーアイスアリーナ
参加人数／209名



須貝安博理事、宮本之男理事、松本充雄専務理事、亀岡寛治理事



亀岡寛治理事による開会式挨拶

■ 2005NHK 杯国際フィギュアスケート競技大会

●日時／ 2005年12月1日～4日 場所／なみはやドーム（大阪府立門真スポーツセンター）
参加人数／ 130名



中野友加里選手、安藤美姫選手、キャロル・ヘイス・ジェンキンスコーチ、佐藤信夫コーチ、尼子健二理事



尼子健二理事、ハリーナ・ゴルドン・ポルトラックレフェリー、平松純子 JOC スポーツ環境専門委員、リタ・ゾネケン 技術役員

■ 第 16 回全日本ショートトラックスピードスケート距離別選手権大会

●日時／ 2005年12月2日～4日 場所／長野県帝産アイススケートトレーニングセンター
参加人数／ 158名



宮本之男理事、亀岡寛治理事、須貝安博理事



監督会議にて挨拶をする宮本之男理事

■ 第 74 回全日本スピードスケート選手権大会

●日時／ 2005年12月20日～22日 場所／長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)
参加人数／ 1979名



松本充雄専務理事、有賀豊文理事



■第 74 回全日本フィギュアスケート選手権大会

●日時／ 2005 年 12 月 23 日～ 25 日 場所／国立代々木競技場第 1 体育館



浅田真央選手、村主章枝選手、荒川静香選手



■第 32 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会

●日時／ 2005 年 12 月 26 日～ 28 日 場所／長野市オリンピック記念アリーナ(エムウェーブ)
参加人数／ 2480 名



JOC スポーツ環境専門委員会パンフレットの配布



プレスワーキングルームへのポスター掲示

■第 61 回国民体育大会冬季大会ショートトラックスピードスケート競技会

●日時／ 2006 年 1 月 28 日～ 29 日 場所／苫小牧市白鳥アリーナ



兵庫県選手団



(財) アイスホッケー連盟

Japan Ice Hockey Federation

■第61回国民体育大会冬季大会アイスホッケー競技会

●日時／2006年1月28日～2月1日 場所／苫小牧市白鳥アリーナ



市川俊介審判委員、ホッカネン・キモ審判委員、小野太審判委員、滝澤真一審判委員



石岡敏選手

(財) 日本レスリング協会

Japan Wrestling Association

■第22回全国少年少女レスリング選手権大会

●日時／2005年7月22日～24日 場所／三重県営サンアリーナ 参加人数／1197名



今泉雄策全国少年少女レスリング連盟理事長、福田富昭会長、岩名秀樹全国少年少女レスリング連盟会長



伊調馨選手、伊調千春選手、吉田沙保里選手、栄和人女子強化コーチ

■2005カデットアジアレスリング選手権大会

●日時／2005年7月28日～30日 場所／茨城県大洗総合公園体育館 参加人数／310名



横断幕の掲揚



福田富昭会長、田山東湖茨城県レスリング協会会長、高田裕司専務理事

■第52回全国高等学校レスリング選手権大会

●日時／2005年8月2日～5日 場所／佐倉市市民体育館



福田富昭会長

■機関紙「OLYMPIC WRESTLING」



■第 60 回国民体育大会秋季大会レスリング競技会

●日時／ 2005 年 10 月 23 日～ 26 日 場所／ 倉敷市水島緑地福田公園体育館



岡山国体マスコット「ももっち」



■第 22 回全国社会人オープンレスリング選手権大会 第 11 回社会人段別レスリング選手権大会

●日時／ 2005 年 11 月 19 日～ 20 日 場所／ (財) スポーツ会館・総合体育館



宮原厚次社会人レスリング連盟理事、坂本日登美選手、村上功社会人レスリング連盟理事長、井上謙二選手、藤森安一社会人レスリング連盟事務局長

■平成 17 年度全日本レスリング選手権大会

●日時／ 2005 年 12 月 21 日～ 23 日 場所／国立代々木第二体育館 参加人数／ 282 名



高田裕司専務理事と平成 17 年度年間最優秀選手受賞者

■第 14 回少年少女レスリング東京選手権大会 第 10 回全国少年少女選抜レスリング東京大会

●日時／ 2006 年 1 月 14 日～ 15 日 場所／国立オリンピック記念青少年総合センター
参加人数／ 572 名



福田富昭会長、菅芳松事務局長代行

■ジャパンビバレッジクイーンズカップ 2006

●日時／ 2006 年 3 月 28 日 場所／駒沢オリンピック公園総合運動場 参加人数／ 408 名



72kg 級優勝浜口京子選手

(財) 日本セーリング連盟

Japan Sailing Federation

■各種レース会場で掲揚された環境キャンペーンの横断幕



■環境シンポジウムを開催し、広報誌に掲載



(社) 日本ウエイトリフティング協会

Japan Weightlifting Association

■第 37 回アジア選手権大会

●日時／ 2005 年 9 月 26 日～ 10 月 1 日 場所／ドバイ (UAE)



知念令子理事、Dr.Tamás AJÁN 国際ウエイトリフティング連盟会長

■第 26 回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会

●日時／ 2006 年 3 月 11 日～ 12 日 場所／茨城県立石岡第一高校多目的ホール 参加人数／ 93 名



櫻井勝利副会長、上地克彦最優秀選手、松本萌波最優秀選手、篠宮稔専務理事

■平成 17 年度第 21 回全国高等学校ウエイトリフティング競技選抜大会

●日時／ 2006 年 3 月 27 日～ 28 日 場所／長崎県立諫早農業高校体育館 参加人数／ 133 名



文屋紀彦選手 (62kg 級 2 位)、和田大河選手 (62kg 級優勝)、平塚健太選手 (62kg 級 3 位)

(財) 日本ハンドボール協会

Japan Handball Association

■第 10 回ヒロシマ国際ハンドボール大会

●日時／ 2005 年 7 月 21 日～ 24 日 場所／広島県東区スポーツセンター 参加人数／ 5200 名



市原則之副会長、朴千祚 (パクチョンジャ) 前韓国ハンドボール協会第一副会長



西元義昭広島県ハンドボール協会副会長、山下泉副会長

■第 60 回国民体育大会秋季大会ハンドボール競技

●日時／ 2006 年 10 月 22 日～ 27 日 場所／岡山県真庭市
落合総合公園白梅総合体育館他 参加人数／ 11500 名



■第 14 回 JOC ジュニアオリンピックカップ 2005 ハンドボール大会

●日時／ 2005 年 12 月 24 日～ 27 日 場所／
堺市家原大池体育館他 参加人数／ 8700 名



■平成 17 年度第 57 回全日本総合ハンドボール選手権大会

●日時／ 2005 年 12 月 21 日～ 25 日
場所／福井県営体育館他 参加人数／ 6700 名



■平成 17 年度第 1 回春の全国中学生ハンドボール選手権大会

●日時／ 2006 年 3 月 26 日～ 29 日 場所／富山県氷見
市ふれあいスポーツセンター他 参加人数／ 11500 名



(財) 日本卓球協会

Japan Table Tennis Association

■平成 17 年度全日本卓球選手権大会 (ホープス・カブ・バンビの部)

●日時 / 2005 年 7 月 29 日～ 31 日 場所 / 神戸総合運動公園体育館



福原薫大会副会長、江口富士枝名誉副会長

■平成 17 年度全日本卓球選手権大会 (団体の部)

●日時 / 2005 年 9 月 30 日～ 10 月 2 日 場所 / 豊岡市総合体育館



八尾正博大会委員長、木村興治大会長代理



■全国理事長会議

●日時 / 2005 年 10 月 22 日 場所 / アーク
ホテル岡山 参加人数 / 70 名



山口宇宙副会長、大林剛郎会長、三浦正英副会長

■平成 17 年度全日本卓球選手権大会 (一般・ジュニアの部)

●日時 / 2006 年 1 月 10 日～ 15 日
場所 / 東京体育館



小川敏夫大会競技副委員長、田中恒夫大会競技委員長、齊藤進常務理事、竹内敏子環境委員長、木村興治専務理事、原田宜亮環境副委員長

(社) 日本馬術連盟

Japan Equestrian Federation

■全日本ジュニア馬場馬術大会 2005

- 日時／ 2005年7月30日～31日
- 場所／ 御殿場市馬術スポーツセンター
- 参加人数／ 200人



嘉納寛治理事長、米山順副会長、常陸宮妃殿下、富澤香代子副会長

■全日本エンデュランス馬術大会 2005

- 日時／ 2005年9月24日
- 場所／ 鹿追町ライディングパーク
- 参加人数／ 100人



■全日本障害馬術大会 2005



杉谷泰造選手、Nジョイントベンチャ号

■機関紙「馬術情報」



7ページから8ページにカラー刷りポスターを掲載

(社) 日本フェンシング協会

Federation Japonaise d'Esgrime

■第 13 回 JOC ジュニアオリンピックカップフェンシング大会

●日時 / 2005 年 12 月 24 日～ 27 日 場所 / 駒沢オリンピック公園体育館



決勝会場ディスプレイ



各国国旗と環境ポスター



外国選手と横断幕



国旗掲揚と横断幕

(財) 全日本柔道連盟

All Japan Judo Federation

■ 1990年より活動を開始したリサイクル柔道着



■ 柔道ルネサンス活動—トップアスリート達による啓発活動



上野雅恵選手、野村忠宏選手



谷本歩実選手、古賀稔彦コーチ

■ 平成 17 年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会

● 日時 / 2005年11月19日～20日 場所 / 千葉ポートアリーナ



鈴木桂治選手



泉浩選手



山下泰裕理事

(財) 日本バドミントン協会

Nippon Badminton Association

■競技大会におけるゴミの分別



(財) 全日本弓道連盟

All Nippon Kyudo Federation

■第 60 回国民体育大会秋季大会弓道競技会

●日時／ 2005 年 10 月 23 日～ 26 日 場所／ 玉野市民総合運動公園弓道場 参加人数／ 508 名



(社) 日本ライフル射撃協会

National Rifle Association of Japan

■平成 17 年度第 7 回全日本ライフル射撃競技大会 (50m 種目)

- 日時 / 2005 年 4 月 22 日～ 24 日
- 場所 / 藤枝市スポーツ・パル高根の郷
- 参加人数 / 69 名



佐々木垂子選手、山下敏和選手



■第 60 回国民体育大会秋季大会ライフル射撃競技会

- 日時 / 2005 年 10 月 23 日～ 26 日
- 場所 / 岡山県ライフル射撃場他
- 参加人数 / 486 名



菊地隆会長、内山弘行参事、石崎和男事務局長、杉浦赤弥副会長、來栖行正常務理事



(財) 日本ラグビーフットボール協会

The Japan Rugby Football Union

■協会事務局にポスターを掲示



事務局にポスターを掲示



(社) 全日本アーチェリー連盟

All Japan Archery Federation

■第 47 回全日本ターゲットアーチェリー選手権大会

●日時／ 2005 年 11 月 4 日～ 6 日 場所／静岡県つま恋多目的広場 参加人数／ 123 名



飯塚十朗副会長、松下紗耶未選手、浅野真弓選手

■平成 17 年度全国指導者講習会

●日時／ 2005 年 11 月 26 日～ 27 日 場所／長野市信州松代ロイヤルホテル坂城町文化センター
体育館 参加人数／ 47 名



島田晴男専務理事（中央）と上田西高校アーチェリー部員

(財) 全日本空手道連盟

Japan Karatedo Federation

■第5回全日本少年少女空手道選手権大会

●日時／2005年7月31日

場所／東京武道館



蓮見圭一副会長



蓮見圭一副会長

■平成17年度全日本少年武道錬成大会 空手道 (第28回)

●日時／2005年7月30日

場所／日本武道館



大会パンフレットにてゴミの分別を啓発

(財) 全日本ボウリング協会

Japan Bowling Congress

■平成 17 年度 JBC 公認第 3 種審判員認定会

●日時／ 2005 年 4 月 2 日 場所／ 田町ハイレーン会議室 参加人数／ 60 名



赤木恭平会長、相澤隆也専務理事

■ NHK 杯第 39 回全日本選抜ボウリング選手権大会

●日時／ 2005 年 5 月 13 日～ 15 日 場所／ 国分寺パークレーン 参加人数／ 300 名



赤木恭平会長、相澤隆也専務理事



■文部科学大臣杯第 44 回全日本ボウリング選手権大会

●日時／ 2006 年 3 月 18 日～ 21 日 場所／ 品川プリンスホテルボウリングセンター他
参加人数／ 600 名



相澤隆也専務理事、赤木恭平会長

全日本アマチュア野球連盟

Baseball Federation of Japan

■アオダモ育成の会

バット材として使われるアオダモの木の植樹活動



前列左から2番目：大本修代表、前列右から2番目：牧野直隆高野連会長、前列1番右：判次雄林野庁長官、後列中央：松前全日本アマチュア野球連盟副会長

■第32回社会人野球日本選手権

●日時／2005年11月19日～28日 場所／大阪ドーム



後勝全日本アマチュア野球連盟事務局長

■第78回選抜高等学校野球大会

●日時／2006年3月23日～4月4日 場所／阪神甲子園球場



菊本康久日本高等学校野球連盟副会長、脇村春夫日本高等学校野球連盟会長、水野正人JOCスポーツ環境専門委員長



(社) 日本トライアスロン連合

Japan Triathlon Union

■ 2005ITU トライアスロン世界選手権蒲郡大会

●日時／ 2005年9月10日～11日 場所／愛知県蒲郡競艇場 参加人数／350人



■ 第11回日本トライアスロン選手権東京港大会

●日時／ 2005年10月23日 場所／お台場海浜公園



(財) 日本ゴルフ協会

Japan Golf Association

■第 38 回日本女子オープンゴルフ選手権競技

●日時／ 2005 年 9 月 29 日～ 10 月 2 日 場所／戸塚カントリー倶楽部



山口桃子女子競技運営委員、溝口まち子日本女子オープン競技委員長、許斐順子女子競技運営委員



■第 70 回日本オープンゴルフ選手権競技

●日時／ 2005 年 10 月 13 日～ 16 日 場所／廣野ゴルフ倶楽部



尾関秀夫常務理事、菅原春雄副会長、安西孝之会長



■全米女子プロゴルフ協会公式戦

●日時／ 2005 年 11 月 4 日～ 6 日 場所／瀬田ゴルフコース



橋本靖正スポーツニッポン新聞社代表取締役社長、山本雅弘毎日放送代表取締役社長



(社) 日本ホッケー協会

Japan Hockey Association

■第66回全日本女子ホッケー選手権大会

●日時／2005年12月8日～12月11日 場所／天理市親里ホッケー場 参加人数／1842名



(社) 日本近代五種・バイアスロン連合

Modern Pentathlon & Biathlon Union of Japan



射撃場における廃弾（鉛）の処理

(社) 全日本銃剣道連盟

Japan Amateur Jukendo Federation

■第60回国民体育大会秋季大会銃剣道競技会

●日時／2005年10月23日～25日

場所／奈義町立奈義中学校屋内運動場



(財) 日本ソフトテニス連盟

Japan Soft Tennis Association

■第60回 天皇賜杯・皇后賜杯 全日本ソフトテニス選手権大会

●日時／2005年9月23日～25日

場所／厚木市荻野運動公園体育館



JOC 環境パートナー 佐川急便 (株)

JOC Environmental Partner Sagawa Express Co., Ltd

■エコライフフェアにブースを出展

●日時／ 2005 年 6 月 5 日 場所／ 都立代々木公園ケヤキ並木イベント広場



小池百合子環境大臣

■オリンピックコンサート 2005

●日時／ 2005 年 6 月 19 日 場所／ NHK ホール



■ 2005 環境フェスティバル 21 にブースを出展

●日時／ 11 月 12 日～ 13 日

場所／万博記念公園 自然文化園内お祭り広場他



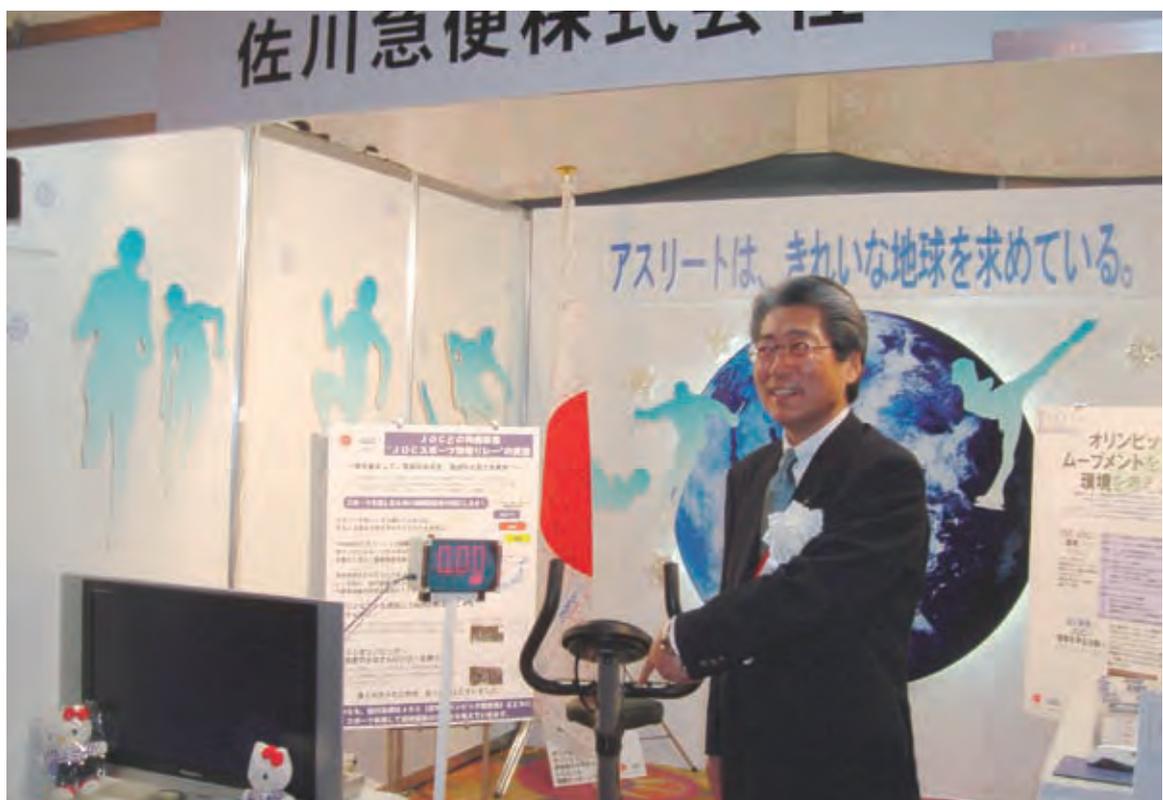
別所恭一 JOC スポーツ環境専門委員、松本秀一 管理本部 CSR 環境推進部課長



■第 20 回オリンピック冬季競技大会（2006 / トリノ） 壮行会

●日時 / 2006 年 1 月 22 日

場所 / 新高輪プリンスホテル



竹田 恒和 JOC 会長

(NPO) 日本オリンピックアカデミー

Japan Olympic Academy

■第28回日本オリンピック・アカデミーセッション

●日時／2005年10月22日 場所／筑波大学東京キャンパス



猪谷千春会長、和田恵子理事長、深川長郎副会長

■日本オリンピックアカデミー総会

●日時／2005年12月11日 場所／国立オリンピック記念青少年総合センター



小野清子副会長、猪谷千春会長



猪谷千春会長



伊藤裕三監事、齋藤浩監事

(財) 日本体育協会

Japan Sports Association

■平成 16 年度加盟団体事務局長会議

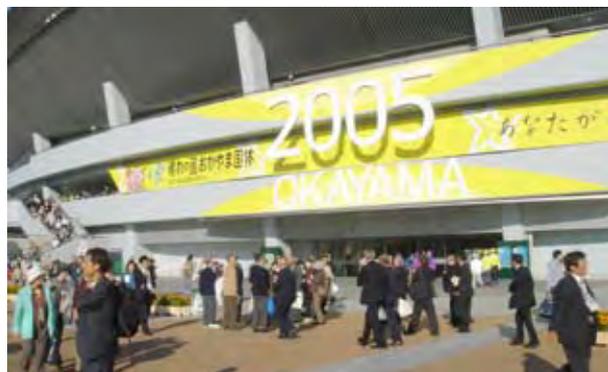
●日時／ 2005 年 4 月 20 日 場所／岸記念体育会館



岡崎助一事務局長、瀬尾洋 JOC スポーツ環境副委員長

■第 60 回国民体育大会

●日時／ 2005 年 10 月 22 日～ 27 日
場所／岡山県陸上競技場(桃太郎スタジアム)



■生涯スポーツコンベンション 2006

●日時／ 2006 年 2 月 2 日～ 3 日 場所／ホテル日航熊本他



平成 18 年度全国高等学校総合体育大会大阪府実行委員会

2006 Osaka All Japan High School Athletic Meets Organizing Committee

■ 06 総体 THE 近畿 300 日前イベント OSAKA 夢・感動フェスタ

● 2005 年 10 月 29 日 場所／大阪市中央公会堂 参加人数／ 680 名



■ 環境フェスティバル 21

● 日時／ 2005 年 11 月 12 日～ 13 日 場所／大阪府万博記念公園 参加人数／ 300 名



「体力測定」実施中！

私たちが日常生活でできる「エコ」は、必要以上の冷暖房や車の使用などを改善すること、つまり、少しの我慢と少しの努力です。

そのエコを快適に行うには、自分自身の体力を自然に負けないパワーを付けることが、必要ではないでしょうか。

私たちは、高校部体の紹介を通じていろいろなスポーツに興味をもってもらうこと、「体力測定」であなた自身の体に目を向けてもらうこと、そして、地球環境とスポーツとの関わりづきをもってもらうことを目的に参加しています。

※体力測定は「下の広場」で開催しています。お気軽にお立ち寄りください。

体力測定実施中
10:00～18:00

お祭り広場

中央口

平成 18 年度全国高等学校総合体育大会 OSAKA THE 近畿 300 日前イベント OSAKA 夢・感動フェスタ
URL: <http://www.OsakaAllHSHill Osaka.jp>

JOC スポーツ環境専門委員会

JOC Sports and Environment Commission



後列：別所恭一委員、瀬尾洋副委員長、水野正人委員長、遠藤幸一委員
前列：西脇克治委員、久保田克彦委員、鎌賀秀夫委員、佐野和夫副委員長



後列：別所恭一委員、市原則之常務理事、西脇克治委員
前列：平松純子委員、水野正人委員長、山口香委員



平田竹男委員



松岡修造委員

■ 「ISO14001 / 環境マネジメントシステム」における JOC 事務局内教育訓練





地球が暖まる。
ウィンタースポーツが消える。
私の夢が消える。

——上村愛子 (北野建設所属)

2005年 10月。上村愛子は、ジュネーブ空港で困惑していた。
トレーニング予定地であるフランス・ティエヌのゲレンデが、十分な積雪量と雪質を
確保できなかったのだ。彼女はキャンプ地を急遽変更し、スイス・ツェルマットへと向かった。
今、アスリートたちの冬季キャンプ候補地は、年々減っている。このまま温暖化が進めば、
彼女たちの戦いの場はおろか、ウィンタースポーツ全てがこの地球から消えてしまう。



みんなで止めよう温暖化

JOC in チーム・マイナス6%

ウィンタースポーツを守り続けるために、チーム・マイナス6%は、すぐにはじめられる温暖化防止のためのアクションを呼びかけています。

暖房時の室温は
20℃にしよう



エコ製品を
選んで買おう



蛇口をこまめに
しめよう



レジ袋を
断ろう



ふんわりアクセル
「eスタート」で

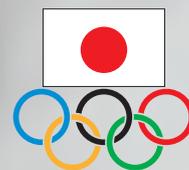


コンセントから
こまめに抜こう



あなたもチーム・マイナス6%に参加してください。 www.team-6.jp 地球温暖化対策推進本部

○参加登録へのお問い合わせ: 電話 03-3573-4026 (シー・オー・ツー・ロク)
○運営事務局受付時間: 土・日祝日を除く平日10:00~18:00



地球を暖めない。
ウィンタースポーツを消さない。
アスリートを消さない。

—— (財)日本オリンピック委員会
スポーツ環境委員会

私たち財団法人日本オリンピック委員会(JOC)は、国際オリンピック委員会(IOC)のスポーツと環境委員会の活動に呼応して、世界平和を願うスポーツの祭典「オリンピック」を地球環境について考える絶好のチャンスであると認識しています。選手やチーム、運営や施設、私たちの活動を通じてスポーツを愛する全ての人に地球環境を守り続ける大切さを知って欲しい。100年後も、スポーツを楽しめる地球であり続けるために、私たちは「チーム・マイナス6%」の活動に協力しています。

この星にスポーツを

Coca-Cola

Mizuno



asics

AJINOMOTO.

KONAMI
SPORTS CLUB

Kubota

読売新聞

Yell

Panasonic

野村ホールディングス

佐川急便

ExcelHuman

OMO 丸大食品

KIRIN

TOYOTA

NTT
Do Co Mo

YAHOO!
JAPAN

JAL

ANA

LOTTE

日清オイロガ

NISSIN 日清食品

トニーライズ

AIU保険会社

環境方針

環境基本理念

財団法人日本オリンピック委員会（JOC）は、オリンピック・ムーブメントを通じ、世界平和運動とスポーツ振興に寄与する目的に基づき、JOC事務所の環境への取り組みを実践し、環境マネジメントシステムの継続的改善を行うことにより地球環境の保全に貢献する。

行動指針

1. JOC事務所において、電力の節減、紙の有効利用などの省資源及び資源のリサイクルを推進する。
2. 新たに物品を調達するにあたってはグリーン購入を優先する。
3. 環境に関する法的要求事項及び、その他の要求事項を遵守する。
4. 環境の教育啓発活動の推進によって、全ての職員が環境方針を理解し、その実現に努めるとともに、環境方針を外部にも公表する。

平成 18 年 3 月 17 日
財団法人日本オリンピック委員会
会長 竹田 恆和

写真によるスポーツ環境の啓発活動報告	2
--------------------	---

目次

1. スポーツ環境委員会活動の意義について	64
2. 第1回 JOC スポーツと環境・地域セミナー開催報告	68
3. 第2回 スポーツと環境担当者会議開催報告	73
4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について	78
(1) JOC スポーツ環境委員会及び各団体の活動状況	78
(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧	102
(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について	104
(4) 国際大会での啓発活動	108
(5) 環境省との連携について	110
(6) スポーツと環境についてのレクチャー原稿	111
5. IOC スポーツと環境委員会について	120
(1) IOC スポーツと環境委員会	120
(2) IOC スポーツと環境・西アジア地域セミナー	121
(3) 第6回 IOC スポーツと環境世界会議	124
6. 関連資料	134
(1) JOC スポーツ環境専門委員会名簿	134
(2) IOC 組織・機構図	135
(3) IOC スポーツと環境委員会小史	136
(4) JOC スポーツ環境委員会小史	136
(5) オリンピックムーブメントアジェンダ 21 (要約)	137

1. スポーツ環境委員会活動の意義について

みんなで保とうさわやかな地球

地球温暖化防止に向けて
今こそスポーツ界は一丸となって協力しましょう

年々環境汚染が投げかける多くの現象が顕著になり、数十年後の地球環境破壊に危惧しています。南太平洋に浮かぶツバルという珊瑚礁の島の海水面は毎年少しずつ上昇し、今年の大潮でとうとう海水が島の大きな部分を侵し、樹木は枯れ井戸などが使えなくなり雨水に頼る生活になりました。

このように地球温暖化は確実に進み、多くの異常気象を引き起こしています。今年の冬は全国的に記録的な大雪で大変寒い冬でした。これは極地の地表や海面が暖められて発生した上昇気流により北極上空にある寒気団が下から押されて日本、欧州や北米上空に広がり局地的に大雪や気温低下を招いたと言う研究結果があります。

地球環境に大きな影響を与える温暖化や砂漠化、オゾンホール、酸性雨、熱帯雨林の減少などを防止する環境保全活動をスポーツ界でIOCが積極的に進め、その活動に呼応してJOCスポーツ環境専門委員会も強力に各国内競技団体、財団法人日本体育協会、都道府県体協とも連携して国民体育大会や多くの競技会に於いてスポーツ界から環境保全のメッセージを伝える啓発活動、模範的にアピールする実践活動に多くのご協力を頂きました。この場を借りてご協力いただいた皆様方に心よりお礼を申し上げます。

平成17年度は5回の委員会、啓発ポスターやパンフレットの作成、大阪に於けるスポーツと環境・地域セミナー開催、ケニア・ナイロビでの第6回IOCスポーツと環境世界会議への参加、オリンピック・デーランに於ける発電リレーを中心とする啓発活動、スポーツ団体環境担当者会議の開催、東アジア競技大会やオリンピック冬季競技大会日本代表選手団名簿への環境啓発メッセージの掲載など委員各位の結束した絶大な協力で活動を進める事ができました。心より感謝をすると同時にこの委員会の使命は果てしなく続く継続的なものであることを認識して頂き今後とも気を長くもって理解と協力をお願い致します。

平成18年3月

JOCスポーツ環境専門委員会
委員長 水野正人



スポーツと環境の近未来

NOCの中でもっとも活発に活動しているのが日本オリンピック委員会（JOC）のスポーツ環境専門委員会だ。委員会を率いる水野正人委員長に、これから10年先までにJOCや個人が行なうべき事柄について聞いた。



国際的イニシアチブを取るJOC

JOCはIOCの方針を受けて、同様の啓発・実践活動を行っているが、IOCのスポーツ環境委員会のメンバーでもある水野委員長は、IOCはNOCに対してもっとノウハウを提供する必要があるという。JOCはその活動をIOCに報告し、JOCの活動を各NOCが環境保全活動に踏み出すための手がかりとして活用することを提案するなど、常に国際的イニシアチブを取っている。

「これまで国際オリンピック委員会（IOC）は、スポーツと環境によりよいメッセージを伝える世界のロールモデルとなることを使命とし、オリンピックのグリーン化を実践してきました」

「IOCはNOCにもっと働きかけ、すべてのNOCが環境委員会を持ち、委員会と競技団体が共同でメッセージを作ったり、実践活動ができるようにならないといけません。現在日本の競技団体の実践活動は、最も基本となるゴミの分別からスタートしています。なぜ、分別するのか。混ぜたらただのゴミだけど、分ければ資源になるということを納得すると行動に移りやすいですね。日本はこれをしっかりできるように指導していますとIOCに報告し、どうぞ日本の活動をモデルケースとして、各NOCへの普及活動に利用して下さい、それが一番の早道ですよと提案しています」

理想の姿は循環型スポーツワールド

「スポーツと環境の理想の姿は、スポーツを愛するすべての人が、使うものは必ずリサイクルし、不要なものを買わず、道具を大切に使うことで年少者に譲り、社会が動くインパクトのあるメッセージを発信すること」と水野委員長。

遠い理想ではなく、この先10年の近未来ではどうだろう。6年後の2012年には京都議定書の目標が達成され、10年後の2016年には日本で開催されるオリンピックに国中が沸いているかもしれない。水野委員長は、この10年間には、はっきり

としたビジョンがあるという。

「この10年ですべきことは各競技団体が確実にスポーツと環境委員会を設立することと、真剣に啓発・実践活動を行うことです。日本のスポーツ界全体が本気で取り組む時がこの10年です。今はまだ自主的な行動とはいえ部分があるとしても、年を経るごとに確実に自らの言葉を発し、積極的に行動するようになって欲しい。これが1つのゴールなのです」

意識が高ければ、10年を待たずにこの目標は達成されるかもしれない。また、達成しなければならない事情もある。

「現在スポーツとは別のところで、ハリケーンや大雪といった自然災害のスケールが温暖化が原因で大きくなっています。これには環境省も声を大にして環境保護を訴えるようになるでしょう。その時、私が言い続けていることの意味を本当にみなさんが理解し、行動してくれると信じています」

JOCは、2003年に環境マネジメントシステム規格であるISO14001の認証登録を行った。

「JOCの後に続くNOCは今のところありません。唯一トリノ冬季大会組織委員会（TOROC）が、大会期間限定でしたが認証登録に成功しました。その陰には大変真面目に環境問題に取り組んだスタッフがいたことをお伝えしておきましょう。JOCは20年後までに日本のすべての競技団体がISOを取得して欲しいと思っています」

オリンピック招致では「環境」への配慮も必須項目だ。

「オリンピック開催候補都市には膨大なレポート作成の義務があり、その第4章で環境について述べることになっていきます。その内容は街の環境の状態、空気の質・水質・土壌に関するもの、環境に関する法律や条例や規制の現状、新しく建設される施設の環境への配慮、交通システムを含む環境への負荷など、あらゆる面からのレポートを提出することになります。開催都市決定の日、投票権のあるIOCメンバーは、投票直前に環境委員会の都市評価を目にすることになります。そこには『この都市はオリンピック開催にはまだ早い』『成熟しているけれども、交通に問題あり』『すべてにおいてエクセレント』などと書かれていて、もし甲乙つけ難い場合は『エクセレント』と書かれた都市が残ることになるのです。環境への取組みは、招致でも重要な意味を持つことを認識する時が来ています」

我々は「茹で蛙」でいいのか

水野委員長は人間の責任について次のように語った。

「蛙の習性を知っていますか？蛙は水の温度が徐々に上がっても適応して生きられる動物です。しかしずっと浸かっていると、高熱になっても気がつかず茹だって死んでしまう。ところが熱湯の中に蛙を入れると、熱さに驚いて飛び出し、生き延びることができるのです。人間も同じです。今は危機的状況という認識が薄いかもしれませんが、今ならまだ間に合います。だれかではなく、私たち一人ひとりの問題として次世代への責任を果たす役目があるのです」

温暖化が進めば日本は間違いなく亜熱帯化する。そのころ現在の亜熱帯地方はどうなっているのだろうか。スポーツと環境が目指すゴールは果てしなく遠いかもしれないが、きれいな空気の中、適正な気温の中で思いきりスポーツができる環境は、今日にでも欲しいと誰もが思うことではないだろうか。



アスリートにできる温暖化防止とは

スポーツと環境をテーマに環境保全に積極的に取り組んでいるJOCは、「チーム・マイナス6%」の理念に賛同し、そのチーム員となっている。そこで、アスリートをはじめ日常的にできるCO2削減とはどんなことがあるのか、チーム・マイナス6%の国民運動を展開している環境省地球環境局地球温暖化対策課国民生活対策室の土居健太郎室長に聞いた。



JOCは2005年、チーム・マイナス6%のメンバーになりました。

チーム・マイナス6%

少しずつ気温が上昇していけば、スポーツ存続の危機に

—地球の温度はどんな変化をしているのですか。

「日本でも、温暖化の影響は徐々に始まっています。例えば、日本でもこの100年で平均気温が1℃、東京では3℃ほど上昇しています。そのうち2℃はヒートアイランドの影響で、少なくとも1℃は温暖化とだといわれています。気温で1℃とは大したことないように思えるでしょうが、2004年の大猛暑、あれでさえ東京の平均気温と1℃程度しか変わらないんです。

このまま温暖化が進むと、この先100年で地球の平均気温は5.8℃上昇すると予測されています。実は直近の氷河期と現在では、せいぜい平均4～5℃しか変わらないんです。しかしこれは何万年という単位で上下するものだからで、100年などという短い時間でのことではありません。この先100年の上昇が地球にどれだけのダメージを与えるか、想像できますね。最悪のシナリオとしては、東京で年間の約半分が真夏日になるとも言われています。そうなると、スポーツが続けられる環境ではなくなってしまいます。もし真夏日が140日になったら、多くの競技ができなくなり、過去のものになるかもしれません。これはだれもが本意ではないでしょう」

日常生活の中にも発見がある

—チーム・マイナス6%は冷房と暖房の設定温度、エコバックの利用、エコ商品購入、エコドライブ、節水、待機電力削減と、6つのアクションを奨励しています。この中で特に取り組みやすいのはどれでしょうか。

「本来は、日常のあらゆることが環境にかかわっているのですが、やりやすくして効果が目に見えてわかりやすいものに集約したのがこの6つのアクションで、チーム・マイナス6%ではそのうちのひとつでもやってみてくださいという呼びかけをしています。

みなさんが簡単にできることのひとつに、レジ袋を減らすことがあります。現在、全国で年間300億枚のレジ袋が生産されていて、それを作ったり運んだりするのに56万キロリットル=大型タンカー2隻分の原油が必要になります。

ある自治体の調査では、ゴミ袋として活用しているのが全体の2/3、単にゴミになっているのが全体の1/3あったという結

果が得られています。単なるゴミになったレジ袋は、せいぜい10分間の移動に使っただけかもしれません。少なくともその分を減らせないかと思うのです。絶対にもらうなということではなく、いらない時にはいらないと言おうと呼びかけているんです。レジ袋に入れなくても買ったものを持てたり、買ったものをすぐに使う時はもらわなくてもいいな、と思いついて欲しいのです。この気持ちがタンカー1隻分の原油削減につながります」

—チーム・マイナス6%のメンバーには何か特典があるのでしょうか。

「他のアクションについては地域や職業などいろいろな背景がありますから、自分たちでカスタマイズしてみたいと思います。スポーツの現場では移動に使っている車の荷物を整理して車重を軽くして燃費をよくするとか、続けやすく工夫できることから取り組んでみてください。各競技団体で実行している具体的な事例を紹介してもらえると、一般の方へのPRにもなると思います。

今、チーム・マイナス6%では、チーム員になっている企業や学校同士で見学できないか、と考えています。一般では入れないところまでチーム員の特典として、企業がどんな努力をしているのかを目の当たりにすることは、楽しくもあり、学ぶことも多いですから。最新情報はホームページに公開していますので、ぜひ見に来てください」

<http://www.team-6.jp>

私もチームメンバーです!

100年後には家がなくなる!?

私は3年前に練習場付きの家を新築しましたが、海拔の低い所にある我が家は、100年後には沈んでしまうことを知りました。いやだなと思っていた時、偶然乗った電車の広告が全部チーム・マイナス6%でした。気になって調べ、すぐに個人会員になりました。ゴミの徹底分別、必ず裏紙も使う、新聞雑誌は古紙回収に出す、シャワーはマメに止めることを実行しています。スポーツの場ではまず指導者が変わることです。今後は会場のゴミ分別を自治体に明確に示してもらうなどの協力も必要だと考えています。

日本ウエイトリフティング協会理事 知念令子

アスリートが直面する「スポーツと環境」

スポーツ選手を取り巻く環境問題は、競技によって状況はさまざまだが、とりわけアウトドアスポーツの選手は、環境の変化が直接競技に影響するため事態は深刻だ。競技の現場でどんなことが起こっているのだろうか、選手に話を聞いた。

写真：アフロスポーツ

Cross-Country Skiing

成瀬野生選手（2006年トリノ冬季オリンピック クロスカントリー日本代表）

テレビや新聞などでよく地球温暖化の話題が出ますが、僕自身も年々雪が少なくなっていると感じています。3年ほど前から海外合宿に参加する機会が増えたのですが、その頃から雪不足は感じていました。雪を求めて北欧に行っても気温が下がらずに雨ばかりです。しかも気温が下がっても雪が降らないので人工降雪機を使い、スキーができる環境を作っていました。2年前のことですが、フィンランドで行われた大会は雪不足のため中止になりました。他のスキー競技でも雪不足のため試合がなくなるといことは少しずつ増えているようです。

温暖化でオゾン層が破壊され、紫外線も強くなってきています。女子選手はシミになるといって、日焼け止めを塗ったりしているようです。屋外で競技をしていると夏の日差しが強さも気温も、毎年上がっているという印象があります。

国内でも雪不足は深刻なようです。僕は12月頃にはすでに海外にすることが多いのですが、北海道で練習する選手は雪がなくて練習できないのが現状です。雪解けも早いので、このままだとスキー競技自体がなくなってしまうのでは、という話を仲間たちとすることもありますが、ですから僕もできるだけ無駄な電気は使わず、コンセントも使わないときは抜き、電気のスイッチはこまめに消すなどして、少しでも環境に配慮した行動を心がけるようにしています。



Beach Volleyball

徳野涼子選手（2004年アテネオリンピック ビーチバレー日本代表）

ビーチバレーを始めて9年になりますが、環境問題に関してシビアに感じるようになりました。ひとつはゴミ問題。私たち選手も「ビーチクリーンアップ」というものを行い、率先してビーチにいる人たちに「砂浜をきれいにしましょう」と呼びかけています。トップ選手や主催者側が大きなゴミ袋を持って砂浜をきれいにすることを呼びかけると、試合を見に来ている人たちだけではなく、海に遊びに来ている人たちもゴミが落ちていることに気づくのです。子供たちも率先して拾ってくれます。そのためかビーチバレーの大会が行なわれる海岸は徐々にではありますが、きれいになってきていると思います。しかしアメリカ西海岸のサンタ・モニカなどは違い、まだまだ世界中の人が「日本のビーチに行きたい」と憧れるレベルではありません。

もうひとつは私たちににとって切実な問題である地球温暖化です。私たちがCO₂削減は心がけていますが、この数年、目に見えて地球が変わってきているように思えます。何よりも砂浜が年々狭くなってきていることで、その変化がはっきりと分かります。数年前に比べ、砂浜に設置できるコートの数も減ってきています。ゴミ問題はもちろんのこと、地球温暖化にももう少し世界中の人たちが目を向けてくれれば、もっと地球はよくなるのではないかとビーチバレーを通して強く感じるようになりました。

Triathlon

西内洋行選手（2004年アテネオリンピック トライアスロン日本代表）

トライアスロンは海や川で泳ぐことが多く、地域によってはかなり汚染されたところで泳がなければいけないことがあります。ペットボトルや空き缶が流れてくる川、污水处理場が無く汚物がそのまま流されている海、科学的な汚染があったのか魚が死んでいるところもありました。また埋立地では、足の裏に工業用の小さなベアリングボールが刺さったことがありますが、幸い早めに発見して化膿を免れました。もちろん綺麗な場所で泳ぐこともありますが、いずれ汚くならないのではないかと危機感を覚えます。

練習では長時間自転車走りますが、場所によっては鼻の穴が真っ黒になったり、目が痛くて開けられないことがあります。私は喘息持ちなので、車の多い場所を走るときは発作が出て辛いこともあります。オーストラリアはオゾン層の破壊がひどく、日焼け予防が絶対必要です。ランニング途中の給水では、飲んだ後の容器は用意されているゴミ箱に入れるようにしています。最近では多くの大会でゴミ箱が見られるようになりました。大会によっては、所定以外の場所でゴミを捨てた選手は失格というルールを設定しています。ワールドカップでも、自転車で飲み終えたボトルは捨ててはいけないというルールが存在します。大会が終わった後、道端からボトルが出てきたら、次の年開催できなくなるかもしれませんので、主催者側も配慮しているようです。



2. 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー 開催報告

1. 趣 旨：財団法人日本オリンピック委員会（JOC）では平成13年度からスポーツ環境委員会を設置し、啓発・実践活動を推進してまいりました。この度その活動のひとつとして、第1回の地域セミナーを関西地区で開催します。このセミナーはスポーツ界における環境保全の啓発・実践活動の必要性を理解してもらうもので、最初に近畿地区のスポーツに携わっている皆様に当委員会の環境保全活動にご理解いただき、実践のご協力をお願いするものです。
2. 共 催：財団法人日本オリンピック委員会（JOC）／大阪市（JOCパートナー都市）
3. 後 援：文部科学省／環境省／財団法人日本体育協会
財団法人大阪体育協会／財団法人大阪市体育協会／財団法人大阪市スポーツ振興協会
4. 日 時：平成17年9月16日（金）14：00～17：30
5. 場 所：大阪市中央体育館 会議室
〒552-0005 大阪市港区田中3-1-40 電話：06-6576-0800
6. 出席範囲：JOC関係者（理事・監事／スポーツ環境専門委員／アスリート専門委員）
JOC加盟団体スポーツと環境担当者
近畿地区関係者（府県体育協会・教育委員会の環境担当者／スポーツ指導者）
JOCオフィシャルパートナー／ワールドワイドパートナー
JOCパートナー都市関係者 他 計 211名
7. プログラム：14：00 開会 主催者挨拶
財団法人 日本オリンピック委員会副会長兼専務理事 林 務
- 14：20 スポーツと環境保全の関り
◇IOCスポーツと環境委員会活動
水野 正人 IOCスポーツと環境委員／JOCスポーツ環境専門委員長
◇JOCスポーツ環境委員会の役割とその活動
松岡 修造 JOCスポーツ環境専門委員・環境アンバサダー
◇大阪市での環境に対する取組みについて-テーマ「大阪市環境基本計画の概要説明」
泉 憲 大阪市都市環境局地球環境課担当係長
◇大阪市スポーツ施設の環境配慮への取組みについて
山城 憲夫 大阪市ゆとりとみどり振興局施設整備課長代理
- 15：40 スポーツ界の環境保全の啓発・実践活動について
◇のじぎく兵庫国体、日本スケート連盟の環境保全啓発活動について
平松 純子 JOCスポーツ環境専門委員・環境アンバサダー
◇日本サッカー協会 関西地域の環境保全への取組みについて
藤縄 信夫 日本サッカー協会理事、関西サッカー協会理事長
◇JOCオフィシャルパートナー佐川急便株式会社の環境保全への取組みについて
別所 恭一 JOCスポーツ環境専門委員
- 16：40 オープン・ディスカッション
- 17：00 懇親会
- 17：30 閉会

パル・シュミット IOC スポーツと環境委員長からのメッセージ



Dear participants to the JOC regional Seminar on Sport and Environment.

On behalf of the Sport and Environment Commission of the IOC, I would like to congratulate the JOC regional Seminar on Sport and Environment in Osaka for Kansai area.

Abide by the Olympic Charter, the Commission has been very proactive to promote the environmental conservation in sports world promoting awareness and implementations of concrete measurements since its establishment in 1995. The Commission also hosts World Conference biyearly and annual regional seminar at various locations at least once or twice a year.

Osaka, the first city to be appointed as JOC Olympic Partner City, is also known to be active towards hosting mega events of sports as well as protection of environment, which has obtained recognition of ISO 14001 for Osaka City Hall.

I hope that all the participants learn on the importance of Sport and Environment from the seminar and become leaders of environmental conservation in Sports World.



Pál SCHMITT

Chairman

Sport and Environment Commission of the IOC

日本オリンピック委員会のスポーツと環境・地域セミナーが関西地区を対象に大阪で開催されることに対し、IOC スポーツと環境委員会を代表してお祝いを申し上げます。

1995年に創設されて以来、IOC スポーツと環境委員会はオリンピック憲章に則り、環境に対する意識の啓発と具体的な方策の実践を通じてスポーツ界における環境保全を推進してまいりました。委員会はまた隔年で世界会議、年に1,2回世界各地で地域セミナーを開催しております。

大阪市はJOCの最初のオリンピック・パートナー都市であり、国際的なスポーツのメガ・イベントを開催するなどスポーツ振興に意欲的であると同様に、環境保全に対しても大阪市庁舎でISO14001の認証登録をするなど積極的に取り組んでいます。

参加者の皆さんがスポーツと環境の重要性を学び、スポーツ界での環境保全のリーダーとられることを期待しております。

IOC スポーツと環境委員会
委員長 パル・シュミット

第1回 JOC スポーツと環境・地域セミナー出席者

平成 17 年 9 月 16 日

所属先	氏名	所属先	氏名
日本オリンピック委員会	林 務	大阪府教育委員会事務局教育振興室保健体育課	泉 尾 貢
	板 橋 一 太	大阪府立門真スポーツセンター	高 塚 健 治
	水 野 正 人	大阪府	伊 丹 昌 一
	瀬 尾 洋		竹 村 茂
	佐 野 和 夫		加 島 良 彦
	遠 藤 幸 一		道 旗 万 裕 美
	鎌 賀 秀 夫	大阪府	比 嘉 悟
	平 松 純 子	平成 18 年度全国高校総体実行委員会準備局	寺 脇 久 人
	別 所 恭 一		鶴 川 正 徳
	松 岡 修 造		溝 端 茂 樹
山 本 博	大阪陸上競技協会	石 田 雅 幸	
大阪市ゆとりとみどり振興局	坂 本 武 人		七 條 昌 一
	高 原 光 男	大阪水泳協会	三 浦 幸 一
	藤 原 武 男		兼 子 昌 和
大阪港スポーツアイランド株式会社	橋 本 利 三	日本サッカー協会	藤 縄 信 夫
	池 田 征 夫	大阪サッカー協会	山 野 喜 弘
	浅 井 嘉 子		吉 川 元 章
大阪市スポーツ振興協会	反 勝 彦	兵庫県サッカー協会	西 川 忠 志
	山 本 憲 雄	滋賀県スキー連盟	中 江 正 明
	下 野 美 登 里		川 村 正
	土 橋 貞 幸		橋 本 隆 夫
	沼 田 宏	京都府スキー連盟	浦 川 義 博
	福 島 利 昭	大阪府スキー連盟	吉 田 晃 一 郎
	井 上 元		横 山 忠 信
大阪市体育協会	岡 野 喜 代 美		渡 辺 雅 彦
	島 田 勲	兵庫県スキー連盟	東 野 喜 代 一
守山市体育協会	宇 野 博		磯 川 好 司
大阪市体育厚生協会	竹 村 治 郎		安 福 征 樹
大阪市北区体育厚生協会	下 田 三 七 男	奈良県スキー連盟	平 岡 弘 一
大阪市天王寺区体育厚生協会	大 伴 保 男	奈良市スキー協会	辻 本 嘉 直
大阪市東成区体育厚生協会	高 橋 俊 生	日本テニス協会	中 原 か お り
大阪市東区体育厚生協会	濱 田 麗 史		山 形 史 郎
大阪市城東区体育厚生協会	沼 野 博 至		大 成 圭 助
大阪市阿倍野区体育厚生協会	渡 邊 武 治	大阪ボート協会	保 田 鞆 宏
大阪市鶴見区体育厚生協会	喜 納 敏 文	大阪市ホッケー協会	中 西 祥 文
大阪市体育指導委員協議会	三 箇 美 弘	大阪府バレーボール協会	山 本 章 雄
	谷 口 正		太 田 種 俊
	清 水 三 登 子	大阪バスケットボール協会	平 井 文 徳
都島区体育指導委員協議会	小 山 積		中 井 一 彦
此花区体育指導委員協議会	藤 元 克 巳	日本アマチュアボクシング連盟	山 根 明
中央区体育指導委員協議会	巴 月 恒 子	京都府アマチュアボクシング連盟	佐 藤 征 治
西区体育指導委員協議会	熊 田 尚 代	奈良県アマチュアボクシング連盟	飯 田 紘 司
	坂 野 実 千 代	日本体操協会	山 口 彦 則
港区体育指導委員会	戸 上 辰 雄	日本スケート連盟	尼 子 健 二
淀川区体育指導委員協議会	萩 野 久 美 子	兵庫県スケート連盟	竹 内
	小 寺 静 江	日本セーリング連盟	猪 上 忠 彦
旭区体育指導委員協議会	池 之 上 貞 子	大阪市ヨット協会	岩 崎 洋 一
	平 川 容 代	日本ウエイトリフティング協会	知 念 令 子
鶴見区体育指導委員協議会	延 原 絹 子	日本ウエイトリフティング協会	知 念 秀 樹
	藤 井 恵 子	兵庫県ウエイトリフティング協会	村 田 和 謙
住吉区体育指導委員協議会	諸 橋 たち 子		羽 藤 辰 雄
	沖 妙 子	奈良県ウエイトリフティング協会	西 山 陽
東住吉区体育指導委員協議会	印 藤 匡 代	日本ハンドボール協会	殿 水 幸 雄
	盛 口 美 江 子	大阪ハンドボール協会	中 村 博 幸 次
	森 田 み ち 子		谷 口 賢 次

所属先	氏名	所属先	氏名	
大阪ハンドボール協会	勝本 章 裕	大阪体育大学	山田 由 樹	
大阪市ハンドボール連盟	山中 善之祐	世界オリンピック協会	向 真佐枝	
日本ソフトテニス連盟	宮下 恭 子	ミズノ株式会社	石 戸 隆	
	大西 貞 夫		岩 切 章 一	
	阿部 宗 一		土 師 律 夫	
日本卓球協会	竹内 敏 子	株式会社デザート	金 谷 美由紀	
大阪市馬術協会	山崎 義 信	株式会社デザート 佐川急便株式会社	木 村 光 宏	
近畿柔道連盟	貴島 徹		松 本 秀 一	
大阪府柔道連盟 (大阪体育大学)	西 中 信 治		日 山 欣 也	
			山崎 一 弘	
日本ソフトボール協会	平野 亮 策		平 尾 美 佳	
兵庫県ソフトボール協会	久保田 豊 司		松 林 寛 子	
大阪市バドミントン協会	松 本 正 一		横 田 高 広	
			藤原 三 郎	建 部 昌 紀
			宮 脇 正 晴	青 木 一 広
			村上 民 夫	忠 政 嘉 人
大阪府弓道連盟	梶 山 美咲子		中 村 和 人	
	田 代 次 雄		浜 野 恵 樹	
	坂 根 貞 幸		株式会社 JAL ブランドコミュニケーション	石 井 富美子
日本ライフル射撃協会	辻 川 正 治	株式会社電通	田 中 元 樹	
大阪府剣道連盟	田 村 恒 彦	株式会社アド電通大阪	関 利 彦	
日本近代五種・バイアスロン連合	景 山 健 司	株式会社アサツーディ・ケイ	木 下 靖	
大阪府山岳連盟	橋 詰 晴 彬		川 崎 和 行	
大阪カヌー協会	藤 木 健 策	株式会社アイアンドエス・ビービーディーオー	柄 原 克 仁	
全日本アーチェリー連盟	清水 靖 孝		樋 水 章 充	
大阪府アイスホッケー連盟	飯 塚 十 朗	株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ	樋 口 浩 章	
大阪府 (市) ボウリング協会	富 岡 明	福島区体育指導員協議会	沼 田	
		湯 口 幸 雄	住之江区体育厚生協会	久 保
兵庫県ボウリング連盟	佐 藤 弘 志	JOCHP・機関誌オリンピック編集チーム	園 田 郁 子	
大阪府武術太極拳連盟	上 方 一 哉	JOC 事務局	平 眞	
			澤 村 彰 一 郎	山 本 佳代子
			川 崎 雅 雄	石 川 宣 治
兵庫県ゴルフ協会	前 東 篤 子	大阪府ゆとりとみどり振興局	高橋 グニエル 克弥	
兵庫県綱引連盟	中 道 由美子		多 田 弘 美	
日本ダーツ協会大阪府ダーツ支部	角 谷 真 吾	大阪府スポーツ振興協会	久 保 昇 治	
武術普及委員会太極拳普及委員会	島 田 光 雄		中 浦 進	
武術普及委員会カンフー普及委員会	塚 本 聖 一	西 村 育 子		
武術普及委員会テコンドー普及委員会	李 隆 吉	西 尾 嘉 恭		
大阪府スポーツチャンバラ協会	大 野 正 和	西 徹		
みなと YMCA ウェルネスセンター	下 温 湯 拓 也	竹 田 知良子		
滋賀県体育協会	安 田 孝 雄	合計 211 名		
大阪体育協会	内 山 雅 文			
大阪体育協会	山 本 論 子			
兵庫県体育協会	小 比 賀 忠 和			
奈良県体育協会	東 嘉 伸			
	桂 千 恵子			
	北 井 清 隆			
天理市体育協会	小林 隆			
	竹 川 雅 啓			
	小 中 一 弘			
大阪府教育委員会	福 辺 令 女			
兵庫県教育委員会	南 榮 造			
和歌山県教育委員会	高 田			
長野市教育委員会	高 木 正 皓			
福岡県教育委員庁	坂 口			
福岡市国際スポーツ大会誘致委員会	小 池 秀 一			
福岡市市民局	稲 富 勉			
京都外語大学	吉 村 哲 夫			
大阪体育大学	大 野 康 光			
	天 本 俊 明			
	辻 達 夫			
	永 吉 宏 英			

第1回JOCスポーツと環境・地域セミナーJOCパートナー都市の大阪で開催



9月16日(金)、大阪市中央体育館会議室で、日本オリンピック委員会(JOC)とJOCパートナー都市である大阪市の共催で「第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー」が開催され、近畿地区競技団体関係者を中心に211名が参加した。会議は林務JOC副会長兼専務理事の主催者挨拶でスタートし、そのなかでJOCと大阪市のパートナー都市としての関係や国連、IOCやJOCの環境への取組みを紹介した。

第1部 スポーツと環境保全の関わり

JOCスポーツ環境委員会の水野委員長は、地球が抱える環境問題の具体例とIOCスポーツと環境委員会の活動として、「あらゆるスポーツ活動に関するすべての人がパートナーとなって環境に配慮する」ことを決定したトリノ決議を紹介。また環境に関わる活動は1つの大会で終わらせるのではなく、次の大会へ引き継ぐことが重要と語った。

JOCスポーツ環境委員会専門委員で環境アンバサダーを務める松岡修造委員は、テニススクールなどの会場でJOCスポーツ環境委員会が作成したポスターが効果を発揮し、試合会場にゴミがなくなりつつある。さらに効果的に行動するために、我々オリンピックが訴えることがもっともインパクトがあるはずと、会議に参加していたJOCアスリート委員の山本博選手(アーチェリー)にコメントを求めた。



スポーツ環境委員会専門委員 環境アンバサダー松岡修造委員



アスリート委員山本博選手

山本選手は「自分が子どもの頃、運動会の朝の空気がおいしかったことを覚えています。これからは勝つことだけでなく、環境に対してもプライドを持ってリーダーシップを発揮していきたい」と発言した。

松岡委員は自らの競技経験の中でただ1度だけ棄権をしたことがあり、その原因が光化学スモッグだったことから、スポー

ツ選手にはきれいな空気が必要、スポーツと環境が密接な関係にあることを会場に伝えた。また身の回りには実践可能な多くのエコ活動があるが、環境について身近に認識し、行動に移す時に必要なことは「自分の良心に従うこと」と語った。

大阪市都市環境局地球環境課担当の泉憲係長は、大阪市の環境に対する取組みを、また大阪市ゆとりみどり振興局施設整備課の山城憲夫課長代理は、大阪市のスポーツ施設の環境配慮について紹介した。

第2部 スポーツ界の環境保全の啓発・実践活動について

JOCスポーツ環境専門委員会の平松純子委員は、2006年に開催される「のじぎく兵庫国体」で、会場となる尼崎の森中央緑地のスポーツ健康増進施設は、水蓄熱層を有効利用し、1つの施設で夏季はプール、冬季はスケートリンクとして使用すると発表。また服飾でのリサイクル製品を採用、輸送ではパーク・アンド・ライド、施設の大会終了後の活用、ゴミ持ち帰り運動など、兵庫県らしい活動を実践すると紹介した。

日本サッカー協会理事兼関西サッカー協会理事長の藤縄信雄氏は、Jリーグの環境対策としてゴミ分別回収は全15クラブが実施、行政やスポンサーなどの協力が必要な「マイカップ」「リユースカップ」運動は5クラブで実施していると紹介した。Jリーグアカデミーでは練習器具を運搬する車には低公害車を導入、また関西地域の取り組みとして、今年はクールビズ対策を行い、運営役員がゆかたやはっぴを着用するクラブもあったと述べた。

JOCオフィシャルパートナーの佐川急便(株)からはJOCスポーツ環境専門委員会の別所恭一委員が、佐川急便の環境保全の取組みを発表した。

佐川急便はJOCとのパートナーシップとしてオリンピックデーラン会場で環境保全のPRを行っていることや、「スポーツ・ラブ・エコ アスリートはきれいな地球を求めている」を掲げ、「佐川急便はまちのアスリート」という気持ちで環境保全に取り組んでいると紹介した。

最後に水野委員長は「この会議に出席したみなさんが、今日からリーダーとして環境問題を考えてください。ポスターやバナーの活用、平成16年度のスポーツ環境委員会活動報告書には5分と15分のレクチャー原稿も掲載しているので、こちらも大いに利用してください。環境問題の啓発活動でもっとも重要なのは持続性です」と締めくくった。



水野委員長

3. 第2回スポーツと環境担当者会議 実施概要報告

1. 目的：本年は、国連が定めた「スポーツと体育の国際年」であり、「持続可能な開発のための教育の10年」の始まりの年である。本会は平成13年度からスポーツと環境に関する啓発・実践活動を推進してきており、本会加盟団体の環境担当者及び携わっている方々にさらに活動を理解いただき、スポーツの競技力向上を図る上で欠かせない環境保全について相互の連携を図るために標記会議を開催した。
2. 主催：財団法人日本オリンピック委員会
3. 後援：文部科学省、環境省、財団法人日本体育協会
4. 期日：平成17年11月25日（金）14：00～18：00
5. 場所：国立スポーツ科学センター（JISS）研修室
〒115-0056 北区西が丘3-15-1 TEL：03-5963-0200
6. 出席範囲：①本会役員、スポーツ環境専門委員、アスリート専門委員
②本会加盟団体環境担当（3名程度）
③JOC オフィシャルパートナー／ワールドワイドパートナー 計90名
7. プログラム：テーマ「過去から未来へ—成果と問題点」
～それぞれの環境保全・啓発活動への取り組み・事例紹介及び意見交換～

14：00	開会 主催者挨拶 日本オリンピック委員会 常務理事 市原 則之
14：05	スポーツと環境／保全・啓発活動について スポーツ環境専門委員長 水野 正人
14：30	「チームマイナス6%」について 環境省地球環境局 地球温暖化対策課国民生活対策室長 土居 健太郎
15：00	全日本柔道連盟の環境への取り組みについて スポーツ環境専門委員・環境アンバサダー 山口 香
15：20	休憩
15：30	競技団体の環境保全への取り組み事例紹介について 日本セーリング連盟 広報委員 豊崎 謙 日本山岳協会 自然保護委員長 若月 東兒 日本トライアスロン連合 環境委員長 和田 恵子
16：30	「スポーツと環境に関するアンケート」集計結果について スポーツ環境専門委員長 水野 正人
16：40	オープンディスカッション
16：50	「JOC 発電リレー」について
17：00	情報交換懇親会
18：00	閉会

第2回スポーツと環境担当者会議出席者

所属先	氏名	所属先	氏名
財団法人 日本オリンピック委員会	市 原 則 之	財団法人 全日本剣道連盟	大 島 一 晃
	水 野 正 人	社団法人 日本近代五種・バイアスロン連合	坂 野 勝
	佐 野 和 夫	財団法人 日本ラグビーフットボール協会	水 野 晴 夫
	西 脇 克 治	社団法人 日本山岳協会	若 月 東 兒
	平 松 純 子	社団法人 日本カヌー連盟	岩 上 禎 宏
	別 所 恭 一	社団法人 全日本アーチェリー連盟	茂 木 友 博
	山 口 香	財団法人 アイスホッケー連盟	橋 詰 武 彦
環境省	土 居 健太郎	社団法人 全日本銃剣道連盟	兼 坂 弘 道
財団法人 日本陸上競技連盟	有 澤 政 雄	社団法人 日本クレイ射撃協会	大 江 直 之
	瀬 戸 邦 宏	財団法人 全日本ボウリング協会	宮 内 久美子
	牛 嶋 英 輔	全日本アマチュア野球連盟	柴 田 穰
財団法人 日本水泳連盟	小 川 知 伸	社団法人 日本武術太極拳連盟	渡 辺 敏 雄
	有 久 暢	社団法人 日本トライアスロン連合	和 田 恵 子
	斎 藤 由 紀		松 生 治 子
財団法人 日本サッカー協会	上 杉 理 夫		森 重 寛
財団法人 全日本スキー連盟	池 上 三 紀		鈴 木 信 之
		塩 島 寿	財団法人 日本ゴルフ協会
財団法人 日本テニス協会	橋 爪 功	社団法人 日本ビリヤード協会	東 仙 明 彦
社団法人 日本ホッケー協会	西 中 武 士	社団法人 日本ダンススポーツ連盟	伊 藤 定
	松 尾 文 嘉	ミズノ株式会社	佐 藤 正 博
社団法人 日本アマチュアボクシング連盟	吉 森 照 夫	株式会社デサント	石 原 哲 朗
財団法人 日本バレーボール協会	中 野 淳 子	佐川急便株式会社	松 本 秀 一
財団法人 日本体操協会	吉 田 博 行	株式会社エヌ・ティ・ティドコモ	石 賀 敏 夫
財団法人 日本バスケットボール協会	阿 部 克 三	株式会社JALセールス	石 井 富美子
	松 岡 憲四郎	全日本空輸株式会社	森 本 丈 二
財団法人 日本セーリング連盟	荒 居 達 雄	株式会社ロッテ・アド	堀 本 祐 司
	岡 田 達 雄	日清オイリオグループ	村 松 義 彦
	武 林 洋 一		高 橋 伯 典
	豊 崎 謙	株式会社電通	石 橋 浩
財団法人 日本ハンドボール協会	兼 子 真		塚 田 圭 介
	大 塚 文 雄	株式会社アサツーディ・ケイ	高 瀬 修
財団法人 日本自転車競技連盟	志 摩 謙 治		松 本 芳 幸
財団法人 日本ソフトテニス連盟	瀬 戸 幹 男	株式会社博報堂	玉 田 淳 也
財団法人 日本卓球協会	竹 内 敏 子	株式会社博報堂DYメディアパートナーズ	川 廷 昌 弘
	原 田 宜 亮		前 田 能 成
財団法人 全日本軟式野球連盟	吉 田 麻 実	環境省	清 武 正 孝
社団法人 日本馬術連盟	土 橋 武 雄	財団法人 日本体育協会	加 藤 弘 和
社団法人 日本フェンシング協会	藤 原 義 和	アフロスポーツ	戸 村 功 臣
財団法人 全日本柔道連盟	前 田 梨 衣		杉 本 哲 大
財団法人 日本ソフトボール協会	鈴 木 征	フォートキシモト	岸 本 剛
	横 田 博 之	JOC HP・機関誌オリンピック編集チーム	園 田 郁 子
財団法人 日本バドミントン協会	千 葉 健 夫	JOC事務局	平 眞
	浅 岡 武		山 本 佳代子
	今 井 茂 満		石 川 宣 治
			高橋 ダニエル克弥

第2回 スポーツと環境担当者会議

平成17年11月25日（金）、日本オリンピック委員会（JOC）主催による「第2回スポーツと環境担当者会議」が開催された。



JOCは2005年、チーム・マイナス6%のメンバーになりました。

チーム・マイナス6%

会議の冒頭で水野正人スポーツ環境専門委員長は、かけがえない地球が人間の手によって受けているダメージを、地球温暖化やオゾン層破壊などに分類して紹介。また持続可能な開発とは、資源の節約をして地球のための環境維持と人間の生活のための開発に折合いをつけることと説明し、ゴミを徹底的に分別することで達成されるゼロ・エミッションを「混ぜればゴミ、分ければ資源」という言葉とともに紹介した。

国際的なスポーツと環境の関わりとしては、1990年代に当時のサマランチIOC会長が「環境」をオリンピックムーブメントに取り入れることを決定したことに始まり、それ以降※アジェンダ21、長野宣言、トリノ決議、ナイロビ宣言をIOCスポーツと環境世界会議で採択してきたこと、オリンピック憲章には現在第1章2条13項に記載されていることを紹介した。

JOCの今後の活動としては、2006年に第3回スポーツと環境担当者会議をパートナー都市である長野で「第2回JOCスポーツと環境・地域セミナー」を開催（時期は未定）するほか、将来的にはオリンピックの環境アンバサダーを育成し、啓発活動を推進するなどの構想もある。



地球温暖化防止に向けた国民運動 チーム・マイナス6%

政府が仕掛けた地球温暖化防止対策の1つとして、“夏の軽装”を提案した「クールビズ」が2005年の夏のシーズンに世代を超えて男性ファッションを中心にブームになった。この冬には普段より1枚多く着て無駄な暖房を控えようという「ウォームビズ」が女性も巻き込んだファッションとなって浸透しつつあることをご存知の方も多しことだろう。これは個人レベルで地球温暖化を身近に考える国民運動だ。



会議に参加した環境省地球環境局温暖化対策課国民生活対策室長の土居健太郎氏は、政府が推進する国民運動「チーム・マイナス6%」が誕生した経緯についてつぎのように述べた。

「地球上の生物が快適に生きられるための温室効果ガスはCO₂が0.03%、地球平均気温が15℃といわれています。このままCO₂濃度が高くなると、2100年には気温は最大5.8℃、海面は88cm上昇すると予測されています。

大気中のCO₂濃度は産業革命（18～19世紀）以降急激に上昇していて、それは地球の年齢42万年のうちのわずか250年間で30%上昇したということを意味しています。

20世紀の100年間では平均気温が0.6℃上昇し、山岳氷河が大幅に後退しています。

1997年に京都で開催された『地球温暖化防止京都会議』において、先進国などが2008～2012年で温室効果ガスの排出量を1990年のレベルより全体で5%以上削減することを約束しました。この会議で地球温暖化を解決するために世界が協力して作ったものが『京都議定書』です。この議定書での日本の約束はCO₂総排出量を6%削減することです。

京都議定書は2005年2月16日に発効しました。日本は2012年までの8年間で1990年のレベルからさらに6%のCO₂を削減しなくてはならないというのに、実際には1990年比2003年のCO₂排出量はオフィスビル等で36.1%、家庭で31.4%に増加しています。これは京都議定書の基準年（1990年）のCO₂総排出量の12億3700万トンと比較して8.3%増加していますので、日本は実際には約14%削減を実現しないと約束を達成できないということになります。

そこで国民と企業などが一丸となって京都議定書の目標を達成するための国民運動プロジェクトとして誕生したのが『チーム・マイナス6%』です。夏のクールビズでは約46万トンのCO₂削減に成功しました。暖房にたよらず、着るもので

調節しようというウォームビズでは断熱・蓄熱・発熱素材が注目されています。これらの素材はスポーツウェアに多いのでメーカーにはより効果の高い素材の開発を期待しています」

各競技団体が取り組む環境保全・啓発活動

全日本柔道連盟、日本セーリング連盟、日本山岳協会、日本トリアスロン連合から、競技団体として取り組んでいる活動について発表した。ここでは各発表内容の主旨をご紹介します。(敬称略)

全日本柔道連盟－JOCスポーツ環境専門委員・山口香

くりサイクル柔道着>1990年より発展途上国にくりサイクル柔道着を送る活動を行ない、2005年までに131カ国に31,313着を贈っている。これは、日本の学校の授業などで使用した柔道着で使われていないものを回収し、学生がボランティアで洗濯、サイズ分けなどの整理をして国際柔道連盟(IJF)に申込みがあった国に贈るといものだが、それに加え、日本の海外青年協力隊やシニアボランティアを通じて、欲しい人に直接渡すという活動も始めている。



<柔道ルネッサンス活動>柔道は本来武道であり、人間教育を主としているが、競技化するにつれ勝利至上主義に偏る傾向が見られる。柔道ルネッサンス活動は、柔道における人間教育を見直し、原点に戻ろうというもので、教育や人づくりキャンペーンを行なっている。ここには競技会場のクリーンアップ活動も含まれ、強化選手が率先し、会場に入った時より出る時の方がきれいになるようにすることを常に心掛けている。2001年にはIJFからこの活動に対しフェアプレー賞が贈られた。

<課題と取組>環境に対する意識革命と教育、人と環境に優しい柔道を中央から地方へ、日本から世界へ向けて発信する必要があると思われる。強い日本柔道が環境においてもリーダーシップを取って進めていけるよう努力したい。

日本セーリング連盟－広報委員・豊崎謙

<日本一周フラッグリレー>2002年5月から2003年1月まで行なった海の環境イベントで、海に囲まれた日本の港64港が参加し、1枚のフラッグを港から港へリレーでつなぎ、16,000人が参加した。

<環境委員会を設立>今年環境委員会が設置された。連盟ではレース時にマストにつける環境のフラッグや船体用の



ステッカーを使い啓発活動に努めている。

<環境シンポジウム開催>「愛・地球博」を記念して蒲郡で行なわれた国際セーリングシリーズで、7月18日の「海の日」に環境シンポジウムを開催。シンポジウムのテーマは「次世代へ語り継ぎたい自然環境」。

普段海に行かない人にも目を向けて欲しいという気持ちを込めて、あえて海ではなく自然環境とし、大自然を舞台に活躍する著名人を招いて行なった。

<ビーチクリーンの励行>海岸のビーチクリーンだけでなく、海上浮遊物の回収も行なっている。

<今後の課題>現在ほとんどの船体の素材として使用されている繊維強化プラスチック(Fiber Reinforced Plastics=FRP)の廃船処理問題、環境意識を育てるジュニア育成が挙げられる。

日本山岳協会－自然保護委員長・若月東兒

日本山岳協会には「自然保護委員会」が設置されていて、委員会は現在都道府県の山岳連盟から推薦された15人のメンバーで構成されている。

自然保護委員会では清掃登山などの日常的活動の他、2002年は国際山岳年であったことから、日本でも富士山シンポジウムや山の一斉ゴミ拾いを実施。

<自然保護指導員制度>現在約3,000人の自然保護指導員(任期5年)が活動をしているが、これは昭和50年代に高山植物の盗掘やゴミ放置など、目に余る問題が起きたため、山に常時行く人達で山の自然を守っていくとして出来た制度。指導員は腕章をつけて登山することで抑止力となっているが、今後は質をどう向上させていくかが課題。

<登山ブームによる屎処理問題>平成になってから、百名山の登山ブームが中高年層を中心に起こり、登山者増加にともなう山の水の汚染、屎処理問題が深刻化している。山小屋のトイレの改善に努めているが管理や資金など問題は多い。そこで登山者が携帯トイレを持参するように呼び



掛けている。山域によっては登山口で無料配付しているし、スポーツ用品店などで購入することも可能。使用したものは下山時に回収し、燃えるゴミとして処分しているが、まだ回収方法が十分とはいえず、ルールを確立することが携帯トイレの普及には重要。

日本トライアスロン連合—環境委員長・和田恵子



＜2002年＞環境委員会を設立。他の団体と同様、一番問題なのがゴミ。競技会後の会場はゴミだらけだったため、分別してゴミ回収を行なったが、自治体によっては一括処理される場合もあり、ゴミの持ち帰りの必要性を痛感した。

「水・風・大地との共生…トライアスロン」という環境スローガンを作成。

＜2003-2004年＞環境委員会の認知度が低いため、認知度を高める運動として、トライアスリートにアンケート調査を実施。

＜2005-2006年＞ヘドロ退治プロジェクトとして、埼玉スタジアム調整池の浄化に挑戦。

EM菌という善玉菌を使用し、微生物で水質浄化するという方法を5月29日から8月28日までの3カ月実施した。結果としては、水の透明度は開始時よりも終了時の方が透明度が悪くなったが、大腸菌は減少したというものだった。期待した結果にならなかった原因としては実施期間が短く、暑い時期であったということが考えられる。今後は長期間で再挑戦したい。

＜子どもたちへの環境教育＞子どもの頃から環境保全の教育を始めることが今後の課題。子どもたちの視点で一緒に取組める方法を考えたい。

—トリノ決議—

Partnerships for Sustainable Development
持続可能な開発に向けての協働体制

1. 持続可能な開発と連帯の手法としてのスポーツ (IOC・NOCs・NFs・スポーツ協会)
2. 選手の役割：メッセージの拡散 (アスリート)
3. 持続可能なスポーツイベント：コミュニティレベルの協働 (組織委員会・地域社会)
4. 競技場の持続可能なデザイン (競技場・競技施設)
5. イベントの後：環境の引継ぎ (レガシー・引継ぎ)
6. スポーツと環境のマーケティング・パートナーシップ (スポンサー)
7. スポーツイベントの持続可能性の測定と監視 (環境会計OGGI)
8. スポーツ・イベントに関わる製品やサービスの環境への配慮の促進 (供給メーカー・サービス業者)

**トリノ決議
パートナーズ**



—ナイロビ宣言要約—

IOCがオリンピック運動はスポーツ・文化・環境を三本柱とし、スポーツと環境委員会を設置して10年経過した。IOC、Ifs、NOCs、NFs、OCOGsのみならずUNEPはじめ、全ての利害関係者やNGOなどとオリンピック大会はもとより世界のスポーツ界において持続可能な開発の啓発、実践活動を推進する。

オリンピック大会と招致都市に於ける環境保全活動を過去から未来に確実に継承し進化させる。

今年度が国連のスポーツと体育の国際年であることを認識しスポーツを通じて環境の持続性と健康、教育、平和を促進し女性への役割委任、エイズ撲滅等のプログラムをスポーツ関連団体はUNEPの活動と連携して推進する。

【個人でできる6つのCO₂削減アクション】

- 28℃** 1 冷房は28℃、暖房は20℃にしよう。
- 2 過剰包装を断りエコバッグを使おう。
- 3 エコ製品を選んで買おう。
- 4 エコドライブをしよう。
- 5 蛇口をこまめにしめよう。
- 6 コンセントをこまめに抜いて待機電力を削減しよう。

【地球温暖化のことがわかるホームページ】

- チーム・マイナス6%
<http://www.team-6.jp>
- 環境省ホームページ
<http://www.env.go.jp/>
- 全国地球温暖化防止活動推進センター
<http://www.jccca.org/>
- 環のくらしホームページ
<http://www.wanokurashi.ne.jp>
- 温室効果ガスイベントリオフィスホームページ
<http://www-gio.nies.go.jp/>
- 我が家の環境大臣ホームページ
<http://www.eco-family.jp/>

4. スポーツ環境保全、啓発・実践活動状況について

(1) JOC スポーツ環境委員会及び各団体の活動状況

「もったいないふろしき」と「平和のつつみ」の二つの風呂敷

JOC スポーツ環境専門副委員長 瀬尾 洋

(財)全日本スキー連盟 常務理事／スポーツ環境委員長

地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」の活動の一つとして、身近な取り組みの一環としての「買い物でゴミを減らそう」に日本の伝統文化である風呂敷をレジ袋や紙袋の代わりに活用することでゴミが削減できるということから、小池環境大臣のプロデュースによる「もったいないふろしき」が出現した。

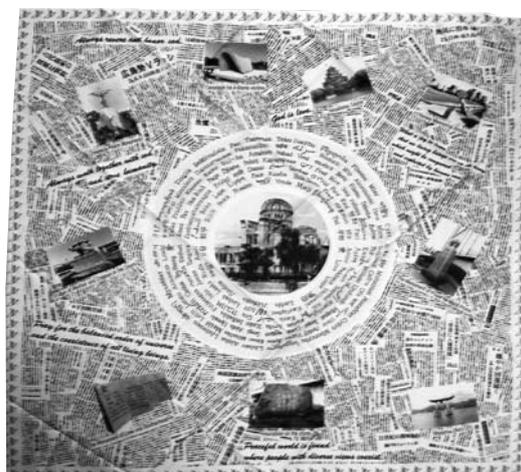
しかし、22年前（昭和59年）に「平和のつつみ」として風呂敷を製作し、多くの関係者に配った人がいる。その人は、学校法人鶴学園の創設者鶴襄氏である。若い頃から徹底した倹約家で、資源を大切にす人であった。現在91歳、いまでも資源の節減に心がけている。「もったいないふろしき」と同様に「平和のつつみ」の活用は同じであるが、その製作の趣旨は、地球上に生存するすべての生物が「平和」と「愛」に基づいて共存し、宇宙環境をとこしえに守っていくことを願ってのものである。

現在、地球の抱える「環境の悪化」は、地球の歴史上かつてない危機的状況にあり、人類は、人類以外の全生物の生存に対して全責任を負って、地球環境の正常化を図らなければならないと言及している。その願いを「平和のつつみ」に托したのである。

この二つの風呂敷には、共通した趣旨があり、小池環境大臣の発想も、広島で学校経営をされている鶴襄氏の発想も各々貴重な環境保全への提言である。



もったいないふろしき



平和のつつみ

平成 17 年度日本水泳連盟スポーツ環境委員会活動報告 および

平成 18 年度「スポーツと環境」水泳からのアクションプラン

JOC スポーツ環境専門副委員長 佐野和夫

(財)日本水泳連盟 専務理事／スポーツ環境委員長

連盟内に特別委員会として設立 1 年を経過し、その間活動内容が次第に連盟全体に浸透し始め、関係者の理解も深まり、水泳連盟内の全競技 5 種目の大会にて、活動が実践され、また、各会場では、今後の活動展開を模索しながらの 1 年となった。

1. 2005 年（平成 17 年度）活動報告

① 本連盟主催事業での、啓発活動の徹底と充実

	日時	大会名	種目	場所	参加選手
1	4月2～4日	第81回日本選手権水泳競技大会シンクロ競技	シンクロ	東京辰巳国際水泳場	328
2	4月8～10日	2005年度室内選抜飛込競技大会	飛込	東京辰巳国際水泳場	40
3	4月21～24日	第81回日本選手権水泳競技大会競泳競技	競泳	横浜国際プール	724
4	7月2～3日	第35回関東選手権飛込競技大会	飛込	川口市青木町公園プール	49
5	7月18日	OWS ジャパンオープン 2005 館山	OWS	千葉県館山市北条海岸	801
6	7月30～31日	第56回日本実業団水泳競技大会	競泳	長野市アクアウィング	1323
7	8月9～11日	第29回関東中学校水泳競技大会	競泳	横浜国際プール	1236
8	8月11～14日	日本シンクロチャレンジカップ 2005	シンクロ	東京辰巳国際水泳場	280
9	8月17～20日	第73回日本高等学校選手権水泳競技大会	競泳	千葉総合国際水泳場	1579
10		〃	飛込	千葉総合国際水泳場	50
11		〃	水球	東京辰巳国際水泳場	252
12	8月20～21日	第50回日本泳法大会	日本泳法	京都アクアリーナ	600
13	8月21～23日	第45回全国中学校水泳競技大会	競泳	三重県宮鈴鹿スポーツガーデン水泳場	1131
14		〃	飛込		91
15	8月26～30日	第28回全国JOCジュニアオリンピックカップ水泳競技大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	3616
16		〃	飛込	東京辰巳国際水泳場	119
17		〃	水球	大阪・門真スポーツセンター	965
18		〃	シンクロ	名古屋レインボープール	450
19	9月2～4日	第81回日本学生選手権水泳競技大会	競泳	大阪・門真スポーツセンター	1200
20	9月7・10～13日	第60回国民体育大会夏季大会水泳競技	競泳	児島マリンプール	1552
21		〃	飛込		130
22		〃	水球	岡山市東山プール	224
23		〃	シンクロ	児島マリンプール	60
24	9月23～24日	日本スポーツマスターズ 2005 水泳競技	競泳	富山県総合体育センター	358
25	3月	第28回全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳大会	競泳	東京辰巳国際水泳場	5307
26		〃	水球	千葉国際総合水泳場	

※各大会での主な活動内容

- ・横断幕競技場内掲載
- ・場内ポスター掲示
- ・競技会場におけるごみの分別収集
- ・プログラム配布、チラシ配布
- ・各競技会でのごみの持ち帰り
- ・OWS 競技における、競技開始前のビーチクリーン
- ・競技会開会式の挨拶にて、言葉での啓発運動 他

② 委員会開催による、各種目での実践報告と意見交換

2. 2006 年度（平成 18 年度）水泳からのアクションプラン

1) ゴミ分別の徹底

05 年より継続して大会等でのゴミ分別の徹底を役員・選手・観客の協力のもと進める。

- ・大会会場・イベント開催地・役員室等各部署でのゴミ分別のため、事前からの徹底準備。
- ・ポスターや張り紙・チラシなどによる選手・お客様へのゴミ分別等環境配慮への意識を浸透。

2) 啓発活動

ポスター・チラシ等を通じて、日本水泳連盟および JOC の「環境・社会への取り組み」を選手・一般の人に知ってもらうとともに、共に活動してもらうことを呼びかける。

提案① 大会開会挨拶時スピーチ

→大会参加選手・役員への呼びかけに、環境（水の大切さ、ゴミの分別等）保全活動について触れ、参加者への環境問題の意識向上を図る。

提案② 大会プログラムや月刊『水泳』に PR のページ

→環境活動のページを盛り込み、広報活動を行う。

提案③ 日本水泳連盟マスコット「ばちゃぼ」環境グッズの作成

→ばちゃぼ環境グッズを作成、水泳界の環境活動への取り組みに活用（日本代表選手団携行品等）

提案④ 環境・社会活動への水泳界としてのスローガン作成。

→ポスターや垂れ幕、役員シャツ（スローガンプリント）をつくり公表する。

3) 環境親善大使 設置準備

提案① 代表チーム内での情報発信を行う。→代表選手へ環境問題への意識を呼びかけ、国内・国際大会を問わず参加競技会でのゴミの処理、廃棄物管理、自陣営の後片付けを徹底する。

提案② 選手団の活動をマスメディアを通じて紹介。→活動内容及び選手たちからの呼びかけを、マスメディアを通して紹介していくことによって（大会の中休みにオーロラビジョンで映す等）、代表選手に憧れる水泳に励む子供達および一般の人たちへ非常に良い効果が想定される。

提案③ 関係する団体の環境活動に協力→関係する団体の環境活動・社会貢献活動にシンボルアスリートの派遣・協力を行う。日本水泳連盟が単独で行う社会貢献・環境活動ではなく、オフィシャルスポンサーや協力団体とのコラボレーションを行う。

シンボルアスリートの選任について

2006 年度“初代” JASF シンボルアスリートは『ばちゃぼ』とする。

※ 2 代目の選任、財源の確保などは、平成 19 年度以降の事業とする。

担当委員 有 久 暢
齋 藤 由 紀

(財) 日本体操協会 環境委員会 活動報告

JOC スポーツ環境専門委員 遠藤 幸一

(財) 日本体操協会 常務理事／環境委員長

■はじめに

前環境委員長の柳善二郎氏の構築した取り組みを継承し、本会加盟団体における環境委員会設置と自主活動への継続指導を本年度の目標として活動を進めてきました。以下、具体的な活動について報告いたします。

■活動報告

1. 加盟団体に対する環境啓発横断幕設置の協力依頼

各種大会やイベントにおいて、それぞれの加盟団体や主管組織が主体的に横断幕を設置し、環境への取り組みをアピールしました。

月	日	種別	大会名	会場	活動母体
4	30	新	第27回世界新体操選手権日本代表決定	代々木第一	本環委会
5	4	体	第38回世界体操競技選手権第2次選考会	代々木第一	本環委会
5	13	新	第3回全日本新体操ユースチャンピオンシップ	代々木第一	本環委会
7	8	体	第44回NHK杯	サンドーム福井	本環委会
7	21	体	SSF トップアスリートふれあい体操教室	JISS	本環委会
8	5	新	第57回全日本学生新体操選手権	海老名	学連
8	7	体	全国高校総体(体操競技)	千葉	高体連
8	12	新	全国高校総体(新体操)	千葉	高体連
8	12	体	2005全日本ジュニア体操競技選手権	横浜文化体育館	Jr連盟
8	19	新	第14回全日本新体操クラブ選手権大会	東京体育館	新体連盟
9	1	体	第59回全日本学生体操競技選手権	小牧市総合	学連
9	10	新	第5回全日本新体操クラブ団体選手権	千葉	新体連盟
9	17	体新	全日本社会人選手権大会	栃木・宇都宮	社連盟
10	13	体	第59回全日本体操競技選手権大会	尼崎市	ト協会
10	22	新	第23回全日本ジュニア新体操選手権	代々木第一	本環委会
10	23	体	第60回国民体育大会(体操競技)	岡山県体育館	本・岡山
10	24	新	第60回国民体育大会(新体操)	井原市民体育館	本・岡山
10	29	一	秋季日本体操祭	代々木第一	一般委会
10	29	ト	第42回全日本トランポリン選手権	浦和駒場体育館	ト協会
11	4	新	第58回全日本新体操選手権	兵庫県立総合	本環委会
11	25	ト	第11回全日本トーナメント	掛川市さんりーな	ト協会

体：体操競技 新：新体操 一：一般体操 ト：トランポリン

2. 代表選手への環境啓発活動

平成 17 年 11 月に開催された世界体操競技選手権大会にてメダルを獲得した富田洋之選手、水鳥寿思選手、鹿島丈博選手に環境保全の必要性を理解していただき、啓発活動に協力していただきました。

3. 炭酸マグネシウム対策

平成 18 年度の大会要項内に、炭酸マグネシウムの利用について制限する項目を初めて掲載しました。

4. 愛・地球博スポーツサミット 2005 への環境宣言参加

本会としても環境宣言に参加しました。なお、本会の環境宣言は下記のとおりです。
「スポーツによって養われる思いやりあるフェアな精神を環境に対しても生かしていきます」

5. トランポリン協会による競技結果の紙節減

加盟団体独自の環境に対する取り組みとして大会速報のモバイルサイト掲載を実践し、大幅な紙節減を実現しました。

■今後の課題と目標

- ・すでに取り組みが軌道に乗り始めている環境保全横断幕の設置については、継続して取り組む。
- ・加盟団体であるトランポリン協会の取り組みを他の競技においても活用できるか、模索する。
- ・炭酸マグネシウムの利用について制限した取り組みに対する効果を評価する。
- ・ブロック、各都道府県など下部組織への環境保全活動の浸透方法を検討する。



世界選手権メダリスト



本会常務理事会 (ポスター設置)

(財)日本レスリング協会「スポーツと環境保全・啓発活動」について

JOC スポーツ環境専門委員 鎌賀秀夫

(財)日本レスリング協会 スポーツ環境委員長

財団法人日本レスリング協会は、協会事務局を中心に「スポーツと環境保全・啓発活動」を、協会傘下団体に協力を仰ぎ、競技会を通じて以下の通り行った。

平成16年度は一つの大会だけの啓発活動であったが、本年度は国際大会を含め九つの大会において「スポーツと環境保全」について啓蒙活動を行うことができた。

その具体的な内容は、会場内に横断幕「この星にスポーツを」を掲示するとともに、会場玄関ホール、大会事務局内にポスターを掲示し、啓発活動を行った。なお、ポスターはその都度、綺麗に剥がし、次の競技会で再利用した。

また、会場内におけるごみの分別は、びん、カン、ペットボトル、燃えるごみ、燃えないごみを5分別にできるよう、協会独自に分別ポスターを作成し、ゴミ箱やゴミ袋を設置した所に掲示した。

その他、会場内の観客の皆さんに対して「スポーツと環境保全」について説明アナウンスを行った。

1. 会場における環境保全・啓発活動

1. 競技会場

競技会名／開催地	開催日	参加数	ポスター		パンフレット		横断幕掲 示場所
			掲示場所	枚数	配布方法	枚数	
第22回全国少年少女レスリング選手権大会 三重県伊勢市・県営サンアリーナ	17年7月22日 ～24日	138クラブ ／1197名	玄関ホール	5枚	手渡し	1197枚	体育館
全国少年少女レスリング連盟理事会・監督会議 三重県伊勢市・県営サンアリーナ	17年7月22日		会議室	5枚	-	-	-
2005カデットアジアレスリング選手権大会 茨城県大洗町・大洗総合体育館	17年7月8日 ～30日	13カ国地域 ／310名	会場	5枚	-	-	体育館
第52回全国高等学校レスリング選手権大会 千葉県佐倉市・佐倉市民体育館	17年8月2日～ 5日		会場玄関	5枚	-	-	体育館
第60回国民体育大会・晴れの国岡山国体 岡山県倉敷市・水島緑地福田公園体育館	17年10月23日 ～26日		玄関・会場	3枚	-	-	体育館
第22回全国社会人オープンレスリング選手権大会 兼 第11回社会人段別レスリング選手権大会 東京都新宿区・財スポーツ会館	17年11月19日 ～20日		会場	3枚	-	-	体育館
天皇杯・平成17年度全日本レスリング選手権大会 東京都渋谷区・国立代々木第2体育館	17年12月21日 ～23日	282名	大会事務局	2枚	-	-	体育館
第14回少年少女レスリング東京選手権大会 兼 第10回全国少年少女選抜レスリング東京大会 東京都渋谷区・国立オリンピック記念青少年総合センター	18年1月14日 ～15日	56クラブ ／572名	玄関ホール	5枚	-	-	体育館
ジャパンパジャクィーンズカップ2006 東京都世田谷区・駒沢体育館	18年3月28日	126クラブ ／408名	玄関ホール、 他	10枚	-	-	体育館

2. 機関誌での啓発活動

大会以外では、本協会の機関誌（年4回発行）において、表2の部分にポスターの内容を掲載するとともに、上記の活動内容を写真入で掲載し啓発活動を行った。

2. 事務局内における環境活動

1. 失敗したコピー用紙は、裏面を再利用する。
2. 配布する資料は両面印刷を行い、コピー用紙の削減に努める。
3. 使用済み用紙は再生利用へ分別する。
4. 文具品は環境に配慮した製品を選びグリーン購入に努める。

3. 課題とこれからの活動

1. 環境委員会の設置

本年度は協会事務局が中心となって活動してきたが、これからは各傘下団体に協力を仰ぎ、環境委員会を設置してもらい、この活動の輪を少しずつ広げて行きたい。

2. コピー用紙の削減

大会要項から始まり、大会結果など、大会関係者およびプレスの方々に配布する際に大量のコピー用紙を使用する。これらを如何にペーパーレス化の方向へ推進していくか、これが大きな検討課題である。



(財)日本陸上競技連盟 スポーツ環境啓発活動について

JOCスポーツ環境委員 久保田 克彦
(財)日本陸上競技連盟 理事/総務委員長

専門委員会の環境担当業務委員が地球環境問題の啓蒙活動を始めて以来、全国的な競技会でスポーツ環境啓発活動を積極的に実施してまいりましたが、本年は、日本陸上競技連盟が環境問題の啓発活動を含め、実践活動を具体的に展開すべきであるとして東京陸上競技協会主管の競技大会でも選手、観客、関係役員等にも協力を求める活動を行った。

スポーツと環境問題に日本陸上競技連盟として、具体的にどう取り組むかを検討するプロジェクトチームを専門委員会の一部に設置し、陸上競技が環境に影響する諸問題を改善するため環境指針と環境方針の提案。そして加盟団体が環境問題を認識されているかを調査推進し、地球環境改善に貢献出来るような競技規則を規定することが可能か検討をすすめる。

加盟団体が環境問題を積極的に実践されている大会もありますが、今後は、より多くの加盟団体が各陸上競技大会に環境担当役員を配置し、大会企画段階から環境に配慮することは勿論、マラソン等の道路競技での車輛、競技施設、用器具のリサイクルなどより良い環境活動の確立を目指しております。

日本陸上競技連盟の環境活動実施競技会

大会名	期 日	会 場	活動内容
日本陸上競技選手権大会	6月2日 ～6月5日	東京 国立競技場	ポスター20枚
全国小学生陸上競技交流大会	8月26日 ～8月28日	東京 国立競技場	ポスター20枚 パンフレット80枚
スーパー国際陸上	9月19日	横浜 日産スタジアム	ポスター30枚 神奈川陸協協力依頼
レディース陸上競技大会	11月3日	東京 国立競技場	ポスター20枚
東京国際女子マラソン	11月20日	東京 国立競技場	ポスター20枚
福岡国際マラソン	12月4日	福岡 平和台競技場	ポスター20枚
大阪国際女子マラソン	1月29日	大阪 長居陸上競技場	ポスター20枚
びわ湖毎日マラソン	3月5日	滋賀 皇子山総合運動場	ポスター20枚
名古屋国際女子マラソン	3月12日	名古屋 瑞穂公園陸上競技場	ポスター20枚

東京陸上競技協会関連の環境活動実施競技会

東京陸上競技選手権大会	4月29日 ～4月30日	東京・新宿区 国立競技場	ポスター10枚
都民体育大会陸上競技大会	5月22日	東京・世田谷区 駒沢オリンピック公園	ゴミ持ち帰り運動
東京女子陸上競技大会	9月3日	東京・品川区 大井ふ頭公園競技場	ゴミ持ち帰り運動

バレーボールのスポーツ環境保全・啓発活動

JOC スポーツ環境専門委員 西脇克治

(財)日本バレーボール協会 運営理事／スポーツ環境小委員長

1. バレーボール競技の環境特性と対応

バレーボールには、インドアスポーツのバレーボール（6・9人制バレーボール、ソフトバレーボール）とアウトドアスポーツのビーチバレーボールがあります。

インドアスポーツの場合、通常の競技会では、各体育館に設置されている設備、備品を使いますので、競技会の度に新たに使用する使い捨てのものは限られていますが、使い捨てのものとして、ラインテープ、選手の使用するアスレチック用テープ類、スプレー類、資料などの紙類などが会場のゴミになりますが、分別収集により環境負荷を軽減しています。

アウトドアの場合も、設備、備品などは再利用されており、ラインテープも布製などですので再利用されています。むしろ、ビーチバレーボールでは、使用する海岸の砂浜自体の環境を維持、改善することが重要です。

競技会には競技に携わる役員・関係者および観客が集まりますので、さまざまなゴミが出ます。参加者一人一人が環境に配慮し、ゴミの分別収集、アウトドアでのゴミの持ち帰り、使用場所の環境の維持、改善を心掛けることが、環境を保全する最良策だと思います。

2. 平成17年度の環境保全・啓発活動

日本バレーボール協会（JVA）のスポーツ環境活動として、継続してJVA主催の各種全国競技会、および日本で開催される国際バレーボール連盟（FIVB）世界大会でゴミの分別活動を実施しました。

JVAでは、3R（Reduce、Reuse、Recycle）の理念に基づき、Vリーグなどの大会で使用する看板、競技コート周囲のADボード、観客席や会場装飾に使用する布製のバナー（横断幕）などについて、各開催地の間を配送し、持ち回り利用することで省資源に貢献しています。

また、JVA事務局においても、入口のカウンターに配布用パンフレットスタンドを置き、パンフレットの配布を行い、啓発活動に結び付けています。

3. 今後の活動の展開

現在までに、環境保全のためにゴミの分別収集については定着し、バレーボールに携わるほとんどの方々が実施しています。

今後の活動の課題は、啓発活動からもう一歩進んだ環境保全意識の醸成だと考えていますので、この活動を更に定着していくために、スポーツ環境小委員会の委員の増強と活動の強化を行っていく予定です。

— 以上 —

日本スケート連盟環境保全・啓発・実践活動

JOC スポーツ環境専門委員 平松純子

(財)日本スケート連盟／フィギュア部常任委員

財団法人日本スケート連盟にスポーツ環境委員会の組織が立ち上がってから2シーズンが経過しました。

昨シーズンは、スポーツ環境委員長、各委員の下に、主要国内大会や、日本国内で行われた国際競技大会にスポーツ環境担当委員を設け、昨年よりよりきめ細かい啓発、実践活動に努めました。

主要国内大会では、	スピード	——	全日本距離別選手権大会 全日本選手権大会 全日本スプリント選手権大会 全日本 Jr 選手権大会
	ショートトラック	——	全日本距離別選手権大会 全日本選手権大会 全日本 Jr 選手権大会
	フィギュア	——	全日本 Jr. 選手権大会 全日本選手権大会
	日本開催国際大会	フィギュア	——

の各会場、第61回国民体育大会冬季大会スケート競技においてもスポーツ環境ポスターの掲示を行いました。※(財)日本スケート連盟参照(P.27)

又、3Rの推進では、

リデュース	エネルギーや資源を大切にするため、大会でも電力消費量、印刷物の削減、プロトコールなどのDVD化などを実施して紙の使用量を減らす事につとめました。
リユース	競技役員が大会中使用する紙コップなどは名前を書いて再使用することなどを促しました。
リサイクル	ごみの分別の徹底により新しい資源を生み出す事への手助けの推進をおこないました。

今後の課題、目標としてスケート連盟の全員がスポーツと環境問題、保全に対してより積極的に取り組んで行きたいと思っています。

スポーツと環境保全・実践・啓発活動報告

JOC スポーツ環境専門委員 平田竹男

(財)日本サッカー協会 ジェネラルセクレタリー

日本サッカー協会（以下、「JFA」）では、平成17年度において地球環境問題に対する重要性を認識し、環境保全活動および本協会の活動に関わる人々（サッカーファミリー＝選手、指導者、審判、運営スタッフ、そしてファン・サポーター）への広報活動を実施しました。主な活動拠点であるJリーグ、日本代表試合における活動を以下のとおり報告いたします。

■活動例

◇Jリーグ

①ゴミの分別回収

ほとんどのクラブがスタジアムで分別回収を実施している。

②リユースカップ

5クラブがリーグ戦等で実施（専用カップを利用しデポジット込みで販売、返却時にデポジットを返金、カップ洗浄で再利用）。

③マイカップ

9クラブがリーグ戦等で実施。平成16年度3クラブから6クラブ増加（クラブオリジナルカップを販売。利用者は、カップ代の値引き受ける）。

◇JFA

①クリーンサポーター

日本代表関連9試合、なでしこジャパン2試合、天皇杯決勝の計11試合で実施（試合終了後、ファン・サポーターのボランティアによるスタンドのゴミ回収と分別回収）。

・総参加者数：1,924名（除く天皇杯決勝）

＊1試合平均175名

＊最大参加者数520名（5/22キリンカップ日本代表 vs ペルー代表
新潟スタジアム）

②紙コップの分別回収とリサイクル

日本代表関連8試合、なでしこジャパン1試合の計9試合で大会スポンサーであるキリン社との協同で実施（紙コップと専用ゴミ箱を会場に設置、回収リサイクルまで）。また平成18年1月からは、飲み残しを捨てるゴミ箱も設置した。

・総回収数：約93,000個

＊1試合平均10,333個

＊最大回収数約24,000個（9/7日本代表 vs ホンジュラス代表宮城
スタジアム）

以上、ご報告いたしました。今後も積極的に地球環境問題への取り組みを継続することにより「信頼され、尊敬されるスポーツ界」といわれるよう努めていきたいと考えています。

日本テニス協会における活動

JOC スポーツ環境専門委員 **松岡修造**

(財)日本テニス協会

日本テニス協会では、平成17年度より普及指導本部の中に環境委員会を新設し、JOCの地球環境問題から競技団体での環境問題に至るまでを考え、活動をしています。委員会の設立が初年度ということもあり、JOCスポーツ環境委員会と連携を取り自然環境保全の観点から、調査、啓発、情報収集活動を行ないました。

【活動内容】

1. テニス用品メーカーへの環境保全に関するアンケート調査の実施

環境保全の活動をテニス関係者全てで進める観点から、ラケット・ボール・ストリングスなどのテニス用品メーカーに協力をお願いし2005年秋に実施した。内容は商品の3R活動、環境問題に関する企業としての考え方について。各社とも環境問題への関心は高いと言えるが、リサイクル、リユースの取り組みについては差があり、今後テニス協会とのより一層の連携が必要である。

2. 砂入り人工芝コートの廃棄に関する調査

ここ数年、全国的に砂入り人工芝のサーフェスが增加している。テニスの普及面、競技力向上からの観点に加え、環境面からも検討した。現状では、使用済みの砂入り人工芝のサーフェスは、リサイクルが不可能で、巨大な産業廃棄物となっている。産業廃棄物の最終処分場の視察も行なったところ、廃棄処理のコスト削減と、廃棄そのものをしないでその上にクレーの素材を乗せて、クレーコートとして、使用している例（香川県屋島テニスクラブ）もあった。

3. 使用済みボールのリユースとNPOグローバルスポーツアライアンス

ボールのリユースについて先進的な活動を進めてきたNPOグローバルスポーツアライアンスの活動を各地に紹介した。また同法人の多彩な環境保全の活動に関して情報の提供をお願いし、各委員に紹介した。

4. JOCスポーツ環境委員会との連携

JOCの横断幕「この星にスポーツを」やポスターの掲出（写真次頁）について、昨年までの当協会主催大会に加え、2005千葉きらめき総体、関東ジュニア選手権大会、指導者講習会などでPRし啓発活動の一助とした。また「第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー」および「第2回スポーツと環境担当者会議」に中原委員、橋爪委員長が出席し、JOCおよび各競技団体の環境保全への取り組みに関して交流を深め委員会にフィードバックした。

5. 環境レポートの発行

上記の活動およびその他各委員の調査活動について「環境レポート」（6月1日）を作成し、全国の地域および地方協会に配布した。

6. 会議の開催・その他

上記の活動を円滑にまた創造的に進めるため、全国委員会を2回（5月&2月）、常任委員会を2回（9月&2月）に開催した。

《第23回全国小学生テニス選手権大会》



平成17年7月28日（木）～7月30日（土）
東京都・第一生命相模園総合グラウンドテニスコート
大会参加者数：128名
ポスターの掲示場所／枚数：大会本部ドローボード、
休憩室各2枚

《全日本ジュニアテニス選手権大会》



平成17年8月4日（木）～8月16日（火）
大阪府・靱テニスセンター
大会参加者数：960名
ポスターの掲示場所／枚数：大会ロビー2ヶ所各2枚

《第32回全国中学生テニス選手権大会》



平成17年8月19日（金）～9月24日（水）
愛知県・東山公園テニスセンター
大会参加者数：736名
ポスターの掲示場所／枚数：大会本部2枚

《全日本テニス選手権大会 80th》



平成17年11月13日（日）～11月20日（日）
東京都・有明コロシアム
大会参加者数：544名
ポスターの掲示場所／枚数：
コロシアム西口インフォメーションセンター8枚

《トヨタジュニアトーナメント》



平成17年3月30日（水）～4月2日（土）
愛知県・東山テニスセンター
大会参加者数：192名
ポスターの掲示場所／枚数：大会本部前、会場ロビー

《デビスカップアジア／オセアニアゾーングループI 1回戦プレーオフ「日本 vs タイ」》



平成17年7月15日（金）～7月17日（日）
大阪府・なみはやドーム
大会参加者数：8名
ポスターの掲示場所／枚数：大会本部前3枚

全日本柔道連盟の環境への取り組み

JOC スポーツ環境専門委員 山口 香

(財)全日本柔道連盟 ルネッサンス／国際／強化委員

全日本柔道連盟には、環境委員会は設置されておられません。しかし、ルネッサンス委員会を中心に環境への取り組みを実施しています。また、国際委員会においては、リサイクル柔道着の活動をはじめ、発展途上国に向けて、善意の交流を継続的に行っています。柔道は日本で始まり、いまや200カ国近い国々に広がっています。競技においてはもちろん、環境問題においても日本がリーダーシップをとり、世界に発信していけるようにと努力しております。

1. リサイクル柔道着

1990年より活動を開始しました。授業で使用した柔道着や小さくなってしまったり、少し古くなってしまったものを全国から回収、整理し、要望のある国や地域に向けて発送しています。これまで、129カ国におよそ3万着を送ることができました。最近では、「海外青年協力隊やシニアボランティアなどで海外で指導されている（日本人）方々から、柔道着がなくて困っている。是非送って欲しい。」といった声にも対応しています。「今までは体操服やシャツでやっていたが、柔道着でやると感覚が全然違った。これからも稽古を頑張りたい。」などといった心温まるお手紙を多数頂戴し、こちらの活動にも力が入ります。今後も世界中に環境作りの輪を広げていきたいと思っています。

2. 柔道ルネッサンス活動

柔道ルネッサンス活動は、嘉納治五郎が提唱した「柔道と人づくり」をもう一度見直そうとといった趣旨でスタートした全日本柔道連盟と講道館との合同プロジェクトです。主な活動の柱は、人づくり・キャンペーン活動、教育・推進活動、ボランティア活動、障害を持つ人たちとの交流活動の4つです。環境への取り組みとしては、大会会場においては「来た時よりもきれいに」を合言葉に、試合後にトップ選手たちが率先してゴミの収集、分別などを国内、海外を問わず行っています。また、啓発活動としましては、同じくトップ選手、コーチ達が会場に向けて「ルネッサンススピーチ」で呼びかけを行っています。はじめのうちは言われなければやらなかった選手達が今では、試合が終わると自然に練習場や試合場などの清掃に取り組むようになりました。また、こういったトップ選手たちの行動はジュニア選手や観客にも大きな影響を与えています。

3. 今後の取り組みについて

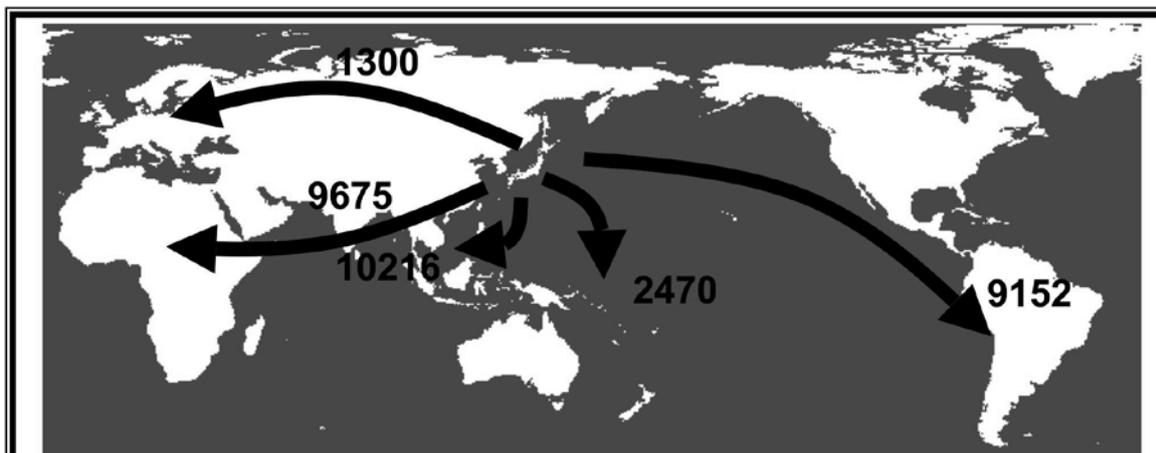
環境への取り組みは、現代に生きる私達ひとりひとりの使命であり、終わりのない取り組みでもあります。そのことから、私達は、個人と組織レベルでの意識改革と教育活動、そして啓発活動を含めた実践活動に取り組んでいます。すべての柔道人が人にも自然にも優しい心で接することができるようになればと願っています。また、こういった取り組みや活動を日本から世界に向けて発信し、柔道界の中で環境のネットワークを作っていきたいとも考えています。



世界に広がるリサイクル柔道衣運動

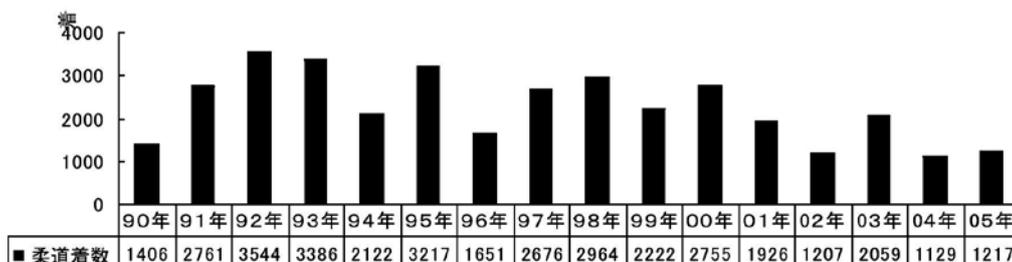
世界136カ国に33,063着を送る

2006年3月現在



1990年より国際柔道連盟(IJF)教育コーチング委員会、全日本柔道連盟及び東海大学・筑波大学の合同事業として古柔道衣のリサイクル運動が行われてきました。本年3月までに世界136カ国、33,063着を送ることができ、世界各国の柔道家たちに喜ばれています。しかし、世界の国々にはまだ柔道衣が足りない国がたくさんあります。もし、現在使用していない柔道衣がありましたら、あなたもぜひこの運動に参加してみませんか？ 多くの人たちのご協力を期待しています。

リサイクル柔道衣受入一覧表



《リサイクル柔道衣の送り先及びお問い合わせは》
 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117
 東海大学柔道研究室
 TEL:0463-58-1211 (内線 3524) 担当 : 川戸 円
 E-MAIL:judo3524@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp

平成 17 年度のスポーツと環境に関する啓発・保全活動について

JOC スポーツ環境専門委員 別所 恭一
佐川急便株式会社 管理本部 CSR 環境推進部

■ JOC 共催「スポーツ発電リレー」



オリンピックデーラン参加者にスポーツを通じ環境保全の大切さを体感していただくために「スポーツ発電リレー」を開催。これは環境に配慮したリユース自転車をこいで発電をしていただき、普段何気なく使っている電気を自分で作るにはいかに大変であるか、又環境配慮を一人ひとりが実践しないと今後のスポーツへも悪影響があることを知っていただくことを目的とした。

また、トリノオリンピックに当社スキークラブに所属している女子モーグル選手畑中みゆきが出場。温暖化によって生じるウィンタースポーツへの影響などについて「環境・社会報告書」でコメント。

■ 佐川急便環境行動

平成 17 年度も引き続き、環境保全に対する意識の高揚を目的とした「佐川急便環境行動」を制定し年間を通じて実施した。



平成 17 年度より新たに数点追加制定した。「環境標語（地球温暖化に関する）」として、環境について考える機会を持つと共に、グループ全社員の環境保全に関する意識の高揚を図る

(実施要領) テーマを「地球温暖化」として標語を募集

(結果) 10,336 点の応募。

金賞「ありますか？ あなたの心にエコマーク」

■ 「エコドライブ推進運動」として安全と環境は密接な関係であり安全運転の励行で環境負荷を低減できる事から地球に優しい運転をテーマに、9 月度をエコドライブ推進運動強化月間としてアイドリングストップをはじめ、安全速度の遵守等のエコドライブ教育を再徹底する。

(実施要領) ①資料を活用し、営業車及びマイカーでのエコドライブの実施を再徹底する。

・「環境・社会活動リーフレット」

・エコドライブのすすめ」

・エコドライブ啓発掲示資料

②アイドリングストップ検証日での目標履行率 100%

(結果) アイドリングストップ履行率 99.9%達成

■「環境・社会活動報告書教育推進運動」環境・社会活動報告書を使用し、環境教育を実施することにより、環境保全の推進や環境意識の高揚をはかる。また営業ツールとしても活用出来るよう当社が行っている環境保全活動についての知識を習得する。

(実施要領)「環境・社会活動リーフレット」を活用し、環境教育を実施する。

環境教育の実施方法については店毎に検討

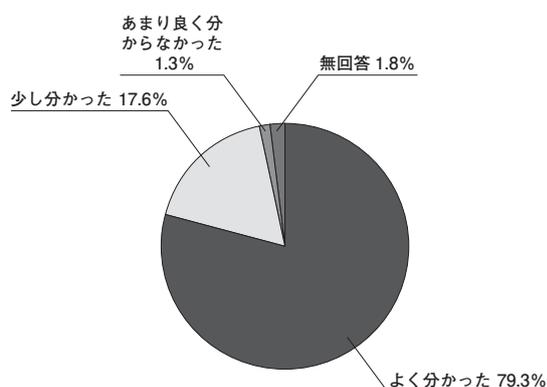
(添付資料の当社環境保全活動についてのクイズを利用する等)

■「ゴミ分別徹底運動」として循環型社会を形成していくために、リデュース（ゴミを減らす）、リユース（再利用する）、リサイクル（再資源化する）、リペア（修理する）の「4R」の取り組みが重要である。1月度を循環型社会構築月間として、ゴミの分別を再度徹底する。

(実施要領)『分別徹底ポスター』『佐川急便 排出物標準分別一覧表』を各営業店、事務所に掲示し、排出物の分別を社員に周知させる。

■佐川スポーツフェスティバル

社内スポーツイベント「佐川スポーツフェスティバル」において、例年通り環境コーナーを設置。地球温暖化の仕組みの理解と、地球温暖化防止に向けた京都議定書の意義と佐川急便の



環境取り組みの理解を目的として、イベントカーを用いて会話形式による「地球温暖化」や「佐川急便の環境問題への取り組み」のワークショップを開催。環境活動ワークショップのアンケートでは、全体の約97%から「地球環境を守る大切さについて理解できた」との回答があり、環境啓発活動が実を結んでいることが伺えた。

参加者数：環境プレゼンテーション（計6回）408人

ワークショップ佐川急便環境編（計4回）273人

ワークショップ地球温暖化編（計4回）278人



また、テント内ではヨシの紙すきやネーチャー工作を実施。

「JOC スポーツ発電リレー」実施概要報告

<事業目的> スポーツに関する環境保全の啓発・実践活動の具体的プログラムとして、一般の人に、日頃意識することなく消費される電力エネルギーの大切さを体感させること、また、一見エネルギー消費とは無関係に見えるスポーツも貴重なエネルギーによって支えられていることを認識させることを目的に実施。

<事業概要> 共 催：財団法人日本オリンピック委員会、佐川急便株式会社
開催場所：オリンピックデーラン茨城大会（ひたちなか市）／喜多方大会（福島県）／熊本大会（熊本市）
開催時間：オリンピックデーラン参加者受付時から終了時まで
実施内容：オリンピックデーランでの一つのプログラムとして以下を実施。
リサイクル自転車による発電体験、本会及び佐川急便環境活動紹介パネル展示、参加証配布、環境アンケート
事業紹介：第18回オリンピック冬季競技大会（2006／トリノ）期間中にトリノ市内に設置したJOCトリノ本部（ジャパンハウス）内ブースに、本プログラム実施についての紹介パネルを展示。

- <事業報告>**
- ①オリンピックデーラン茨城大会
日時：2005年10月30日（日）
場所：ひたちなか市総合運動公園
参加人員：284名（オリンピックデーラン参加数：1,693名）
 - ②オリンピックデーラン喜多方大会
日時：2005年11月3日（祝・木）
場所：喜多方市押切川公園体育館
参加人員：352名（オリンピックデーラン参加数：1,350名）
 - ③オリンピックデーラン熊本大会
日時：2005年11月23日（祝・水）
場所：熊本県営総合運動公園陸上競技場（KK WING）
参加人員：180名（オリンピックデーラン参加数：1,258名）

以上

各団体の活動報告

(財) 日本セーリング連盟 環境委員会

日本セーリング連盟は、2004年に環境委員会を発足させました。

これにはいくつかのきっかけがありました。

まず、2002年5月から2003年10月にかけて日本一周フラッグリレーを開催しました。

- 1) 海をきれいに！ 安全に！
- 2) 海で遊ぼう！ DISCOVER SAILING
- 3) アテネの海に日の丸を！

の3つのスローガンを掲げ、これを旗にしてクルーザー型ヨットに掲揚し、全国の港を歴訪、スローガンの趣旨を広く知らしめようというものでした。全国64港に寄港し、のべ1万6千人が参加しましたが、セーラーの環境に対する関心の高さがこのキャンペーンで実感できました。

次に、先のキャンペーンの目標の一つでもあった2004年のアテネオリンピックで、セーリング連盟は銅メダルを獲得したのですが、そのオリンピックのセーリング競技の競技規則に「海にゴミを捨ててはならない」という1項目が明記されているのです。オリンピックには多くの競技がありますが、競技規則のなかに環境に配慮した項目のあるスポーツはそれほど多くはありません。そこで日本セーリング連盟では、海をフィールドに競技する団体としてこの精神を最大限に活かし、環境に対して何らかの行動を起さねばならないという気持ちを高めました。

環境との接点という視点からすると、セーリングの特徴は、

風という再生可能なエネルギーを利用する点で、環境に与えるダメージが少ない

常に海に接していることで自然を観察できる

海から陸を見る視点により、地球＝陸上の変化に敏感になる

ということなどが考えられます。

そこで、日本セーリング連盟は環境に対して静かに行動を起こそうと考え、前述のように環境委員会を立ち上げ、環境キャンペーンに着手いたしました。

今後の方針

キャンペーンを立ち上げた初年度としては、様々なことができたと考えておりますが、対象が環境問題だけに、一過性で終わるはずもなく、半永久的につづけていかなくてはならない活動だと感じております。環境保護に関して、「できることを、今すぐにやる」がその精神であると痛感しています。

今後は、ビーチクリーンの励行や海上浮遊物の回収などを日常的に行い、広報誌「J-SAILING」による積極的なアピールを続けようと考えております。

また、とくに子ども（ジュニアセーラー）たちに対しては、セーリングの技術だけではなく、環境を大切にする考え方を自然に身につけられる指導を行いたいと考えています。

最後に、日本セーリング連盟会長山崎達光が先の環境シンポジウムで行ったいくつかの発言をご紹介します。これが、今後の日本セーリング連盟環境委員会の活動の指針となることと思

われます。

『優れたスポーツマンは優れた社会人であり、環境意識も高いはずです。

日本セーリング連盟は、メダルを取れるセーラーを育てると同時に、環境に対するメッセージを発信できるような知的レベルの高いセーラーを育てたいと思います。

セーラーの海への接し方はそれぞれです。だから、こうしろと決めつけるのではなく、自然を大切に作る心や海を汚さない気持ちを共有するシステムを作りたいと考えています。

世界のヨット界で、海の環境に関するリーダーシップは日本がとっていきたいと考えています。そして、

子どもたちに残したいのはきれいな海、これだけです。

私たちはかけがえのない地球を大切に、海の環境を良好に保つように活動していきます。』

2005年 JSAF 環境キャンペーン賛同レース

- ・愛・地球博記念 国際セーリングシリーズ (4月4日～9月25日、愛知県蒲郡市)
- ・テザー級世界選手権大会 (7月1日～8日、オーストラリア・ダーウィン)
- ・全日本自治体職員ヨット大会 (7月16日～17日、神奈川県八景島)
- ・全日本ヨットマッチレース (7月16日～18日、神奈川県葉山町)
- ・茅ヶ崎海岸クリーンアップ (7月17日～18日、神奈川県茅ヶ崎海岸)
- ・鳥羽パールレース (7月22～24日、三重県五箇所湾～江の島)
- ・全国高等学校総合体育大会 (8月4日～8日、千葉県稲毛)
- ・全日本 FJ 級選手権大会 (8月19日～21日、富山県海竜)
- ・全日本シーホッパー級選手権大会 (8月19日～21日、香川県小豆島)
- ・全日本シーホッパー級 SR 選手権大会 (8月19日～21日、香川県小豆島)
- ・全日本女子シーホッパー級選手権大会 (8月19日～21日、香川県小豆島)
- ・国民体育大会セーリング競技 (9月10日～9月13日、岡山県瀬戸内市牛窓)
- ・国体リハーサル大会 (10月7日～10月10日、兵庫県西宮市)
- ・外洋南九州選手権大会 (10月8日～10日、鹿児島県錦江湾)
- ・全日本シーホース級選手権大会 (10月8日～10日、神奈川県江の島)
- ・全日本シーホース級女子選手権大会 (10月8日～10日、神奈川県江の島)
- ・全日本メルジェス 24 級選手権大会 (10月15日～16日、大阪府淡輪)
- ・全日本ソリング級選手権大会 (10月15日～16日、長野県諏訪湖)
- ・全日本 29er 級選手権大会 (10月29日～30日、佐賀県唐津)
- ・全日本シードスポーツ級選手権大会 (10月29日～30日、神奈川県江の島)
- ・全日本 49er 級選手権大会 (10月下旬、神奈川県江の島)
- ・全日本 OP 級選手権大会 (11月3日～6日、宮城県閑上)
- ・全日本レーザー級選手権大会 (11月2日～6日、長野県野尻湖)
- ・全日本学生ヨット選手権大会 (11月2日～11月6日、神奈川県江の島)
- ・全日本ファイヤーボール級選手権大会 (11月5日～6日、神奈川県江の島)
- ・全日本 470 級 & 470 級女子選手権大会 (11月23日～27日、和歌山県和歌山市)

(その他、北海道セーリング連盟、長崎県セーリング連盟から協力の申し出がありました)

(財) 日本バドミントン協会

財団法人日本バドミントン協会では11月25日に行われたスポーツ環境担当者会議に出席してから、残念ながら、やっと、この活動を認識したのが現状です。

今までではポスターを事務所に貼っている程度でありました。しかし、この会議をきっかけにさっそく、次の理事会においてスポーツ環境委員会を設置し、委員長に今井茂満事務局長、委員に千葉健夫、近岡昭、池田公子、柴田博樹の5名にて活動していくことになりました。

このような状況のため、実際の活動はまだ報告できるような状況にありません。

しかし、その後において、環境問題の啓発について意識して大会運営を考える方向にもっていくことにしました。バドミントン競技はすべて体育館にておこなわれるため、大会時においてのゴミの分別、体育館によってはすべてのゴミを持ち帰ることが条件の場合もあります。

大会運営側にて分別袋等を用意して、ゴミの管理を積極的におこなうことにしました。

また、禁煙についても運営期間内の禁煙を徹底させております。

まだ、はじめばかりですが今後より良い方向に向けて活動していきたいと思っております。

(財) 日本バドミントン協会
事務局長 今井茂満

(財) 日本ハンドボール協会

「スポーツと環境保全について」ハンドボール協会では、まだ委員会レベルとなっていないが、総務委員会の中にスポーツ環境担当を設け活動を行っている。

環境保全の啓発活動として、主要全国大会会場にスポーツと環境ポスターの掲示、同横断幕の掲示を行い、各都道府県協会へは、パンフレットの送付を行った。また、競技会において使用する公式球（ボール）については、ボール製作会社とも綿密な協議をし、高性能のボールを開発して貰い、全種別について、天然皮革貼りのボールから人工皮革貼りのボールを公認球とすることになった。

また、事務局においてはペーパーレス化と経費削減に心掛け、FAX機・コピー機導入変更に伴い、各事務局員PCから直接FAXやプリンターとして利用できるようにし、さらに両機にはPDFファイル作成機能もつけ、メール添付することでペーパーレス化と経費削減に効果があったと思われる。

今後は、スポーツにおける環境問題は大きいと捉えており、独立した委員会を設置し啓発活動の全国展開を考えている。

(財) 日本ハンドボール協会
スポーツ環境担当 兼 子 真 (事務局長)

(財) 日本スケート連盟 スポーツ環境委員会

(財) 日本オリンピック委員会が推進する「環境に健全な活動」を積極的に行うため、理事会でスポーツ環境委員会推進委員を選出するとともに、活動の対象となる競技会を定めた。

委員長 松本充雄 (専務理事)
委員 亀岡寛治 (スピード部長)
小野長久 (フィギュア部長)
須貝安博 (スピード副部長)

対象競技会

- (1) スピードスケート
 - ① 第 12 回全日本距離別スピードスケート選手権大会
 - ② 第 74 回全日本スピードスケート選手権大会
 - ③ 第 32 回全日本スプリントスピードスケート選手権大会
 - ④ 第 29 回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会
- (2) ショートトラック
 - ① 第 16 回全日本距離別ショートトラックスピードスケート選手権大会
 - ② 第 29 回全日本ショートトラックスピードスケート選手権大会
 - ③ 第 25 回全日本ジュニアショートトラックスピードスケート選手権大会
- (3) フィギュアスケート
 - ① 2005ISU ジュニアグランプリフィギュアスケート競技会岡谷大会
 - ② 2005ISU グランプリシリーズ NHK 杯国際フィギュアスケート競技大会
 - ③ 第 74 回全日本フィギュアスケート選手権大会

活動内容

- (1) 競技会プログラムへ担当する役員を明記
- (2) 競技会場・選手宿舎等へのポスター掲出
- (3) 競技会場でのチラシ配布
- (4) 会場のゴミ分別収集

この活動は、まだまだ啓発周知等が主であり、第一歩がスタートしたところである。今後更に活動を推進するため関係者のご指導ご支援を賜りたいと存じます。

(財) 日本スケート連盟専務理事
スポーツ環境委員会委員長 松 本 充 雄

(社) 日本近代五種・バイアスロン連合

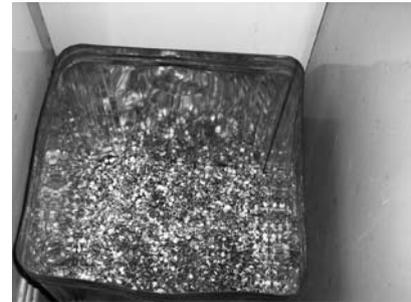
近代五種

1. 全般

近代五種競技の練習・大会における環境に関する啓発事業としましては、大きくは「射撃における廃弾（鉛）の処理」・「弁当等における塵の処理」について、積極的に実施しています。前者の廃弾（鉛）の処理につきましては100%回収を、後者の塵につきましては「出さない」をモットーとし出した場合は各人で持ち帰ることを原則として推進しています。

2. 細部実施事項

- (1) 射撃における廃弾（鉛）の処理について
 - ア 基本的技術を向上させてから実射を実施
 - イ 回収可能な射場において実施
 - ウ 各日の射撃毎、回収作業を実施
 - エ 集積が定量に達したら確実に業者を通じて処置
 - オ 添付写真参照（朝霞射場・自衛隊体育学校屋内射場）
- (2) 弁当等における塵の処理について
 - ア 大会期間の昼食等は、プラスチック容器等再利用可能な物を使用した業者に委託（完全回収）
 - イ 競技間、各選手が出す塵については必ず「持ち帰り」を徹底



3. 今後の活動について

近代五種競技につきましては、今後も環境に留意して大会・練習等を実施していく所存であります。

バイアスロン

○バイアスロン競技の取り組み

バイアスロン競技における環境に関する取り組みは、射撃場における廃弾（鉛）の処理と弁当・看板等の処理です。

バイアスロンの競技場は国内では4箇所と少なく、札幌市の自衛隊真駒内競技場と岩手県八幡平市の田山バイアスロン競技場、秋田県大館市の大子内競技場、富山県南礪市のダカンボ競技場のみです。

バイアスロン競技は大会開催・選手数も他の射撃競技（ライフル・クレー）に比較し、少なく廃弾数も少量のため、常設射撃場は設置者である八幡市等が、十年に一度程度、バックストップの土嚢の入れ替えの際に廃弾処理を行っています。

また、冬季国体の競技場は、臨時の射撃場を設置し、国体を開催することから、廃弾の飛散範囲にビニールシートを敷き、施設設置者（自治体）にお願ひし、廃弾の回収を行うとともに、

一度きりで使用済みとなる看板類については、八幡平市の看板を借用し、産業廃棄物を出さないようにしています。

弁当等の処理につきましては、各選手の持ち帰りを原則として、屑箱等を設置することなく、毎回選手にお願いし、お持ち帰り頂いております。

役員の弁当につきましては、近年は再生可能な容器を業者をお願いし、回収していただいております。

今後につきましても、施設設置者とともに環境に留意しながら、大会の開催を実施していく所存です。

(財) 日本ラグビーフットボール協会 施設環境整備委員会

これまで、18を数える日本ラグビー協会の委員会の中に、「環境」と名のつく部門はありませんでしたが、この4月から組織見直しに着手、従来の委員会を統廃合した中で、新たに特別委員会として「施設環境整備委員会」を立ち上げました。これは、日本スポーツ振興センターなどと連携を取りながら、東京・秩父宮ラグビー場や国立競技場など神宮外苑一帯の再開発等を検討するプロジェクト。実現すれば、当然、最大限に環境に配慮したスタジアムや商業施設を含む高層ビルが建設されます。日本ラグビー協会としては、より「環境」を意識した協会運営に力を注ぎます。

このほか、スタジアム内での禁煙はさらに徹底され、スタンドで喫煙する光景は皆無とっていいほど、マナーは向上しました。ゴミも大半が場内に設置された大きなゴミ集積ボックスに捨てられるようになりました。今後もトップリーグや高校・大学委員会などあらゆる機会をとらえて、環境問題について啓発活動を続けていきたいと思っております。

全日本アマチュア野球連盟 スポーツ環境委員会

○日本野球界としての取組み

北海道にあるアオダモの木は、バット材として世界一と言われております。ただし、バット材として適するまでには70年以上もかかるため、将来的な木製バットの安定供給について危惧されておりました。

しかしながら、近年、北海道大学大学院農学研究課や北海道森林管理局の調査、研究により植林技術が確立され、平成14年には「NPO法人アオダモ育成の会」を設立することができました。

これにより、植林技術者と各種野球団体の代表者が中心となって、毎年計画的に苗木を植林して将来の野球バット用材の確保を図るとともに、植林や草刈りなどをおして植栽環境保全にも貢献できるようになりました。

野球界としては、野球を愛する人々の熱意で北海道の大自然の環境保全に貢献しながら、世紀を越えて“バットの森”を育てていきたいと願っております。

○全日本アマチュア野球連盟における活動

弊連盟では、平成 17 年度よりスポーツ環境委員会を新設しました。これによって、アマチュア野球界全体で環境保全を推進するための啓発活動を幅広く積極的に実践できるようになりました。

今年度は、学生野球や社会人野球の全国規模の大会において、ポスターの貼付やパンフレットを配布しながら、球場内でのゴミ分別の協力について啓蒙することが主な活動でした。

今後は地方や県レベルでの大会についても、同様な活動ができるよう努めていきます。

全日本アマチュア野球連盟事務局次長
スポーツ環境委員会委員長／NPO 法人アオダモ育成の会事務局長 内 藤 雅 之

日本セパタクロー協会

はじめに、本協会の事務所移転（平成 17 年 3 月）にともない、郵便物の転送手続きに不備があり、スポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動関連のポスター及びパンフレットを受領することが出来ておりませんでした。従いまして、平成 17 年度当協会主催の大会、イベントにおいて、ポスターの掲示及びパンフレットの配布を行うことが出来ませんでしたことを、この場をお借りしてお詫び申し上げます。平成 18 年度は、積極的にスポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動を推進していく所存です。

以下のとおり、本協会環境委員会を中心に取り組んできた、平成 17 年度の環境問題に関する活動を報告させていただきます。

平成 17 年度、当協会主催の国内大会を 5 回（全日本選手権、全日本オープン、全日本学生選手権、全日本学生オープン、JOC ジュニアカップ）開催し、全ての大会においてゴミの分別または持ち帰り運動を展開してまいりました。また、排気ガス削減のため、参加者に公共交通機関の利用を徹底致しました。

事務局では、CO2 削減のため事務室内の温度調節を夏は 28 度、冬は 20 度に設定するよう心がけ、資源節約のためコピー用紙を両面使用したり、ゴミの分別を徹底したりするなどの対策を講じてまいりました。

当協会では、平成 18 年度もスポーツと環境保全に関わる啓発・実践活動を積極的に推進していく所存であり、新たな取り組みとしては、環境省が推進している『チーム・マイナス 6%』のメンバーとなり、地球温暖化対策の大切さについても呼びかけていく予定です。

以上

日本セパタクロー協会
事務局長 三 澤 勝

(2) 本会加盟団体スポーツ環境担当一覧

団体名	設置年月	委員会・担当委員会等	役職	氏名
(財) 日本陸上競技連盟	平成 11 年 4 月	総務委員会	総務委員長	久保田 克彦
(財) 日本水泳連盟	平成 17 年 4 月	スポーツ環境委員会	委員長	佐野 和夫
(財) 全日本スキー連盟	平成 10 年 10 月	スポーツ環境委員会	委員長	瀬尾 洋
(財) 日本テニス協会	平成 17 年 4 月	環境委員会	委員長	橋爪 功
(社) 日本ボート協会				
(財) 日本バレーボール協会	平成 13 年	スポーツ環境小委員会	委員長	西脇 克治
(財) 日本体操協会	平成 15 年	環境委員会	委員長	遠藤 幸一
(財) 日本スケート連盟	平成 16 年 10 月	スポーツ環境委員会	委員長	
(財) 日本レスリング協会	平成 18 年度	スポーツ環境委員会	委員長	鎌賀 秀夫
(財) 日本セーリング連盟	平成 17 年 4 月	環境問題特別委員会	委員長	岡田 達雄
(財) 日本ハンドボール協会	平成 16 年度	総務委員会	委員長	村松 眞
(財) 日本卓球協会	平成 17 年 4 月	環境委員会	委員長	原田 宜亮
(財) 全日本軟式野球連盟	平成 17 年 5 月	環境担当委員会	委員長	野々市 孝
(社) 日本馬術連盟	平成 17 年	環境委員会	委員長	土橋 武雄
(社) 日本フェンシング協会	平成 15 年	総務委員会の部会	委員長	高橋 英一
(財) 日本ソフトボール協会	平成 15 年	スポーツ環境委員会	委員長	鈴木 征
(財) 日本バドミントン協会	平成 17 年	スポーツ環境委員会	委員長	今井 茂満
(社) 日本ライフル射撃協会	平成 17 年 11 月	総務部会環境担当		田村 恒彦
(社) 日本近代五種・ バイアスロン連合	平成 18 年度	環境委員会 (近代五種部門)	委員長	荒木 大三
		環境委員会バイアスロン部門	委員長	渋谷 幹
(社) 日本山岳協会	昭和 61 年 4 月	自然保護委員会	委員長	若月 東兒
(社) 日本カヌー連盟	平成 17 年 4 月	環境対策委員会	委員長	甲斐 信幸
(社) 日本クレー射撃協会	平成 14 年	鉛問題対策委員会	委員長	高橋 義博
(財) 全日本ボウリング協会	平成 16 年度	普及開発委員会	委員長	榎本 隆明
全日本アマチュア野球連盟	平成 17 年度	環境委員会	委員長	内藤 雅之
(社) 日本トライアスロン連合	平成 14 年	環境委員会	委員長	和田 恵子

平成 18 年 6 月 20 日現在

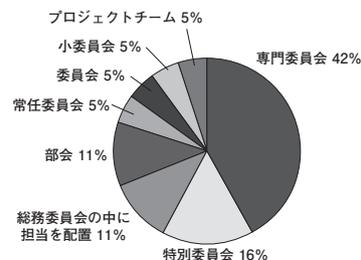
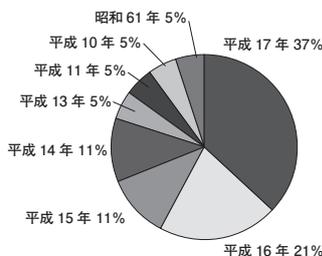
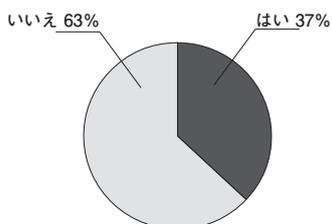
委員会委員	事務局／役職	氏名
総務委員		
委員：木原 光知子、岩崎 恭子、加藤 安司、秋山 隆司、齋藤 由紀、中村 康英、岡田 奉代、草分 容子、長谷川 雪江、泉 正文、有久 暢、小川 知伸	事務局員	小川 知伸
副委員長：村里 敏彰		
委員：池上 三紀、五十嶋 博文、笠谷 幸生、上野 満、林 辰男、平川 仁彦		
副委員長：宗 中正		
委員：武田 整、中嶋 丈史、秋山 英宏、飯田 剛、緒方 うらら、中原 かおり、野村 元、野地 俊夫、水野 加余子、沢松 奈生子、松岡 修造、吉田 友佳		
	事務局長	小森 健二
委員：大久保 正明		
副委員長：柳 善二郎、関田 史保子		
委員：塚原 光男、三輪 康廣、山口 彦則、池田 敬子、池田 真喜子、小竹 英雄、関野 智史		
委員：		
委員：菅 芳松		
副委員長：荒居 達雄	事務局長	武村 洋一
スポーツ担当：兼子 真	事務局長	兼子 真
担当理事：竹内 敏子		
委員：渋谷 五郎、若尾 輝夫、佐藤 正喜、折居 克春	事務局長	白川 誠之
委員：大山 則夫、吉田 麻実	事務局員	吉田 麻実
副委員長：木村 スガ子		
委員：松田 潔		
総務委員	事務局長	藤原 義和
委員：笹田 嘉雄	事務局長	横田 博之
委員：千葉 健夫、近岡 昭、池田 公子、柴田 博樹		
	事務局員	塚越 ゆかり
副委員長：角館 昭二、梅原 弘史	事務局長	菊池孝之
委員：伊丹、横井、伊東、田中英一、成田 寛志		
副委員長：浅見 豊		
常任委員：青木 敏雄、石井 清一、梅山 義弘、小高 令子、椎名 宏子、徳永 邦光、藤井 謙昌、三ツ木 達男、山口 定男、山口 泰雄		
委員：本田 泉		
副委員長：太田 豊秋、渡辺 幹也	事務局長	大江 直之
委員：笹田 矩史、千葉 守男、杉井 幸蔵、柳 一郎、松尾 博		
副委員長：松下 秀雄		
担当理事：相澤 隆也	事務局員	宮田 久美子
委員：黒川 敏一、金安 利和、山下 哲郎、荻野 和男、一江 拓生		
委員：柴田 穰、中尾 裕希		
副委員長：松生 治子		
委員：鈴木 信之、森重 寛、松尾 孝之、志村 博、松本 裕之、辻谷 博之、豊原 秀史、加納 秀幸、清水 正博、亀井 由美子、滝 豊水、野口 隆平	事務局長	中山 正夫

(3) スポーツと環境に関するアンケート集計結果について (加盟競技団体)

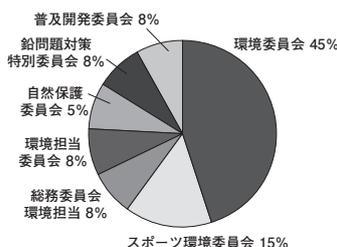
1. 貴団体にスポーツ環境委員会あるいは環境保全プロジェクト等がありますか

それはいつ設置されましたか

組織の中の位置づけ



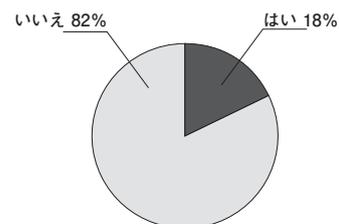
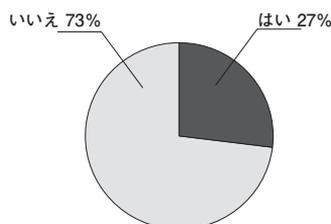
その名称



2. 貴団体に環境保全啓発のため実施されている活動について

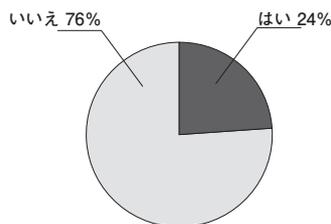
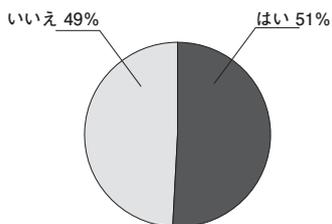
ア. 団体・組織にかかわる人々にマニュアルなどで啓発している

イ. 選手・コーチにマニュアルなどで啓発している



ウ. トップ選手や影響力のある人々に機会があれば環境保全のアピールをするよう進めている

エ. 環境に配慮した用品・用具を使用し、また選手に推奨している



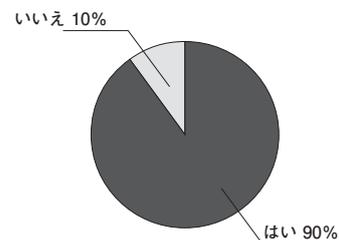
オ. その他 事例をご記入下さい

- ポスターの掲示。
- 「チームマイナス 6%」に加盟、協力活動を行なっている。
- テニス用品のリサイクルの調査、環境レポートの発行。
- 事務局受付にて JOC スポーツ環境冊子の配布。
- 競技会での活動・シンポジウムの開催。
- ソフトボールと環境についての「環境標語」を全国から募集、10 月末に応募作品の中から最優秀作「ホームラン入ったスタンドゴミはなし!」を選考。今後、表彰を行い、作品を表示した横断幕を作成、主要大会の外野

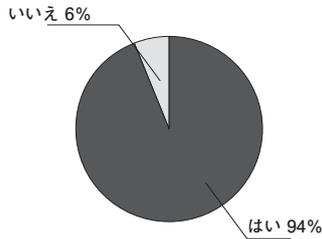
- フェンスなどに掲示し、協会作成の印刷物に活用、啓発を進める。不要金属バットの回収再生利用をめざし、「日本金属バット工業会」と協議を開始している。日本リーグなどの大会で、日本ソフトボール協会の環境問題への取り組みを場内放送で PR している。
- 協会独自の自然保護指導員制度を設け、山岳環境保全に努めている。清掃登山の実施。
- 平成 15 年度に環境に関する分析・調査を民間会社へ委託し、報告書にて協会内外へ報告

3. 競技会における環境保全のため実施されている活動について

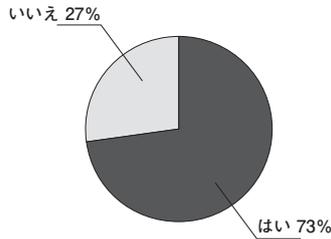
ア. 競技者にできるだけ良い環境で競技をさせるよう配慮をしている



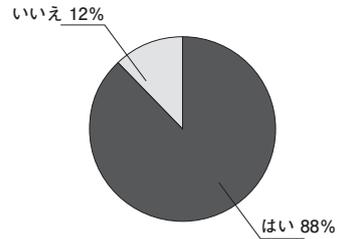
イ. ゴミの分別を実施している



ウ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



エ. 今後競技会場建設が計画されるときは環境保全に配慮する

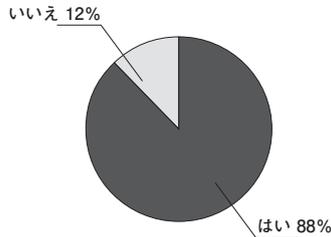


オ. その他 事例をご記入下さい

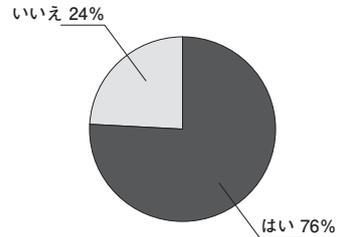
- パンフレットの配布。
- リユースカップ、マイカップの実施、紙コップリサイクル、クリーンサポーター（ファンによるゴミの分別回収協力）。
- おかやま国体時バスケットボール会場にポスター貼付。
- フラッグ、ステッカー、ゴミ袋の配布。
- ゴミ軽量化（ペットボトルをつぶす）、飲み残し飲料水の廃棄、ゴミの持ち帰り（お願い）周辺のゴミ片付け。
- 現在射撃競技に鉛弾を使用しているが、適正に処理されている。
- 全日本登山体育大会等、各コースへの参加者の分散化を図る。
- ゴミは出さないよう（持ち帰るよう）をお願いしている。

4. JOC スポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している

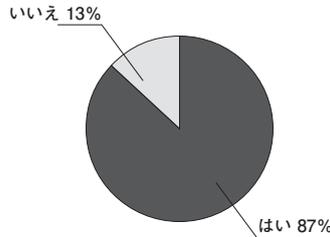


5. 最後に、スポーツと環境についてご意見等がございましたらお書きください。事例をご記入下さい

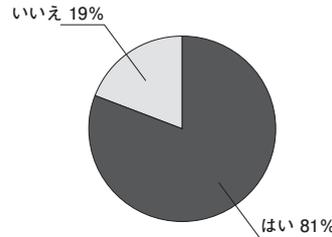
- 啓発活動から実践できるものに移行しつつありますが、スポーツと環境といっても広範囲な問題であるので具体化することが困難と感じている。
- スポーツの持つ“クリーンで誠実、人々に夢と希望と感動を提供する”というブランドイメージをさらに信頼できるものにする重要な要素の一つに環境問題への取り組みがあると思います。一般へ大きな影響力を持つスポーツ界が率先して活動するとともにPR機能を活用してもらうことで貢献できるのではないのでしょうか。
- 体協に呼びかけ、すべての公認指導者に対し、スポーツと環境へのアピール、誰にでもできる具体的な環境保全活動例の指導、環境をテーマに取り入れた教本の作成や講習を行なっている。
- スポーツ団体が環境保全に注意を払い保全に努めること、又、努めるよう教育すること、そしてそういう姿を社会に知ってもらうことは大変素晴らしいことです。
- 先般行われた大阪での環境セミナーなど様々な取り組みが紹介され刺激になる。
- 現在委員会発足に向けて準備を進めております。
- 遅れているが、委員会を立ち上げる努力をしたい
- 平成17年度より環境委員会が新設され、全国大会会場にゴミ分別を行なうためのゴミ箱の設置及びJOC環境ポスターの掲示などにより、環境保全活動に取り組み始めた。まず、「できることからやろう」の精神で確実に実行していきたいと考えている。他団体の取り組みについて情報を得たい。
- 今年、委員会を設置したので平成18年度から実質的な活動を行います。
- 今回、平成16年度の報告書のように競技団体独自に取り組んでいる内容の報告書を掲載していただき、ありがとうございます。失礼を顧みず申し上げますが、「報告書」の内容がどれもポスター、分別ゴミ箱役員等というのはワンパターン化しているように思います。コピーの両面コピーや、不要な紙の再利用、部屋、事務所の無駄な照明の消灯など、日常、当然のことのようにしているものも報告書に取り上げてはいかがでしょうか。
- オリンピックの競技種目の採択の判定基準の一つに「環境への取り組み」が掲げられており、競技団体として取り組まなければならない課題であるが、意識啓発活動以外の面では、行政との調整が必要で、競技会などの開催では事前に取り組まなければならない。一体となった活動事例の紹介を望みます。JOCの環境関係のスポンサー「オフィシャルパートナー」を増やし、且つそれらの企業と競技団体との提携による活動も必要。これらの企業の後援が得られると、競技団体としても活動が一層進展すると思われる。
- 2006年3月に環境保全プロジェクト設置が本年11月14日の理事会で承認された。
- 今後あらゆる機会を通じて環境問題に関して力を注ぎたいと思います。
- 登山は全て自然環境のもとで行動することから、環境保全のための行動に努めている。ゴミの持ち帰り他、山中でのトイレ問題等を通じ、動植物に影響をできるだけ与えないように（ローインパクト）、また、水質悪化防止に寄与できるように、登山界全体として取り組んでいる。
- 競技会の開催に当たっては、既存の施設（サッカー場陸上競技場等）を利用することが多いので、その施設の運用規則に従っています。設営・撤収時には、環境保護に注意を払うよう心がけています。
- 野球においては木製バットが多く使われています。当然、木を伐採し、伐採された木を原材料とするわけであり、伐採したまま放置すれば自然環境を破壊することにつながる。そこで、野球界ではNPO法人「あおだもの会」を設立し、植林事業を行い、環境破壊を防ぐよう取り組んでいる。
- 当協会は直接“スポーツ競技”に関係してはませんがスポーツ文化の立場から今後協会の関係する諸行事の際に適時“スポーツと環境”をPRしていきたいと思っています。
- 他の競技団体の取り組みについて情報交換の機会を希望します。

スポーツと環境に関するアンケート集計結果 (JOC パートナー)

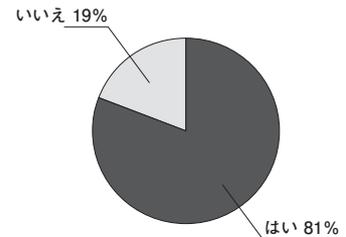
1. 貴社は環境保全・啓発活動を実践していますか



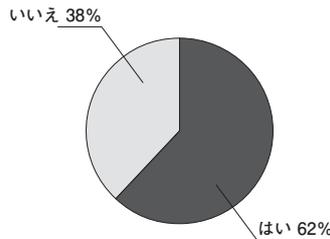
2. 貴社に環境担当部署あるいは環境保全担当部署はありますか



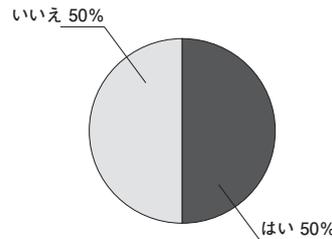
3. 貴社は ISO などの環境マネジメントシステムの規格を認証取得（審査登録）していますか



4. 国際オリンピック委員会にスポーツと環境委員会が設置されているのをご存知ですか



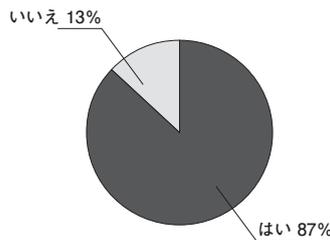
5. JOC は国際標準化機構の ISO 14001 に認証登録しているのをご存知ですか



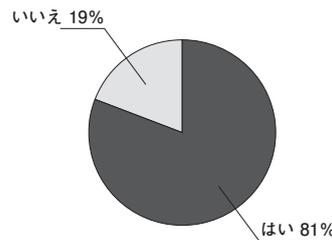
その登録名をお書きください
HSE、コーポレート・リレーション本部環境部、法務部グローバル CSR 室、環境保全推進センター、法務部 CSR 推進チーム、環境推進部、環境管理部、広報部・総務部 共管、CSR 環境推進部、社会環境推進部、環境社会貢献部、環境品質保証室、総務部、企業倫理推進部

6. 貴社で環境保全啓発のため実施されている活動について

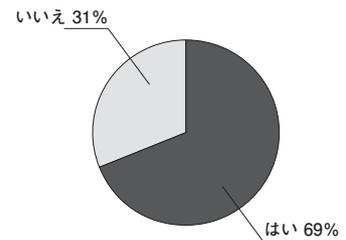
ア. 社員及び関係者にマニュアルなどで啓発している



イ. ポスター貼付など何らかの方法で環境保全を啓発している



ウ. セミナー開催など広く啓発活動をしている



エ. その他 事例をご記入下さい

- 環境報告書等
- CSR-Reportの配布、社内報での啓発(年3~4回)
- CSR報告書、Crew21パンフレットの作成、活用

⇒ホームページにも掲載して、利害関係者に積極的に開示するとともに社員が閲覧できるよう配慮しています。

※ Crew21とは Conservation of Resources and Environmental Wave21の頭文字をとったもので、当社が独自に取り組んでいる地球環境保全活動の名称です。

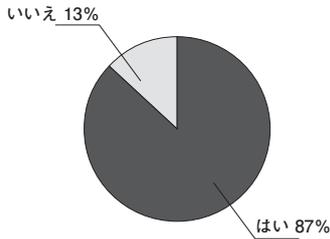
大阪本社、東京本社、主力工場のエントランススペースに当社の環境活動の具体例を常設展示し、来客はもとより社員の啓発にも役立っています。(環境に配慮した商品、環境活動の歩み等)

全社員を対象に、テキストを作成して定期的に環境教育を実施しています。(隔月実施)
地球環境週間を設定し(6/1~6/7の1週間)、国内外すべての事業所で建物周辺、通勤道路等の清掃を実施しています。

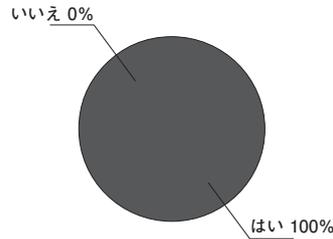
- エコオフィス、クールビズ
- ビジネスの中で取り組んでおります。
- オリンピックデーラン会場等へブース出展、環境社会報告書作成、配布
- eラーニングを活用した環境一般研修、産業廃棄物処理研修などを実施し、社員啓発に努めている。
- 環境絵本の機内搭載、機内誌への環境保全啓発記事掲載他
- 社内掲示板にて環境情報を伝達
- ISO14001の定期的な審査への全社的対応

7. 貴社内における環境保全のため実施されている活動について

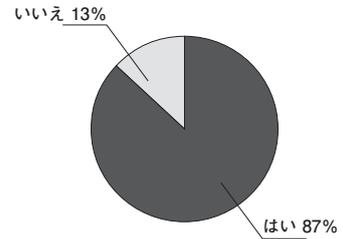
ア. 社内のゴミの分別を徹底している



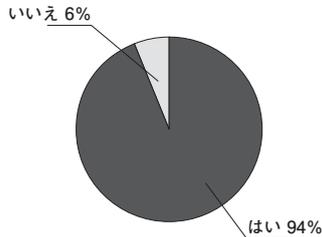
イ. エネルギー、資源の節約を促している



ウ. 環境に配慮したオフィス用品を使用している



エ. 環境に良いものは積極的に取り入れている

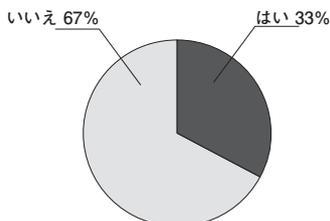


オ. その他 事例をご記入下さい

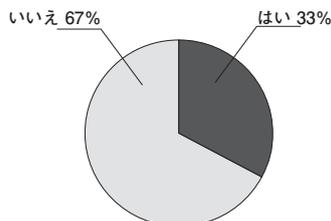
- 食品廃棄物 2001～2004年 34%削減 CO2 1990～2004年 14%削減
- ISO14001 活動の一環として「環境方針」を設定し、環境保全につながる16項目の全社目的・目標に取り組んでいます。
- 電力、ガス、ガソリン・軽油・灯油の使用量削減（以上、省エネ関連）
- コピー用紙、ダンボール、帳票・伝票、印刷物、水の使用量削減、環境に配慮した商品開発（以上、省資源関連）
- 産業廃棄物、紙ゴミ、NOXの排出量削減（以上、汚染の予防関連）
- 製造部門のグリーン購入、オフィス用品等のグリーン購入（以上、グリーン購入）
- 当社が主催、協賛、協力するイベントでの環境保全実施（その他環境保全活動）
- 環境に配慮した商品開発への取り組み、再生材料を使用した商品（ウエア、シューズ、バッグなど）
- 再生工程で環境に配慮した商品
- ロングライフ設計の商品（かかと取替え可能なウォーキングシューズ、打球部取替え可能な野球用バット）
- 省エネ貢献型商品（涼感素材アイスタッチ、発熱素材プレスターサーモ採用のウエア）
- 全工場でのゼロエミッションへの取り組み
- 2003年3月に国内全工場でゼロエミッションを達成し継続しています。使用済み蛍光灯、使用済み乾電池の回収～リサイクル、全事業所から排出される使用済み蛍光灯を大阪本社に集め、リサイクル業者に委託して再利用しています。
- 大阪本社から排出される使用済み乾電池について、リサイクル業者に委託して再利用しています。
- 低公害車の導入
- 通常業務で使用する社用車を順次低公害車に切り替えるとともに（2005年3月時点で約65%）、国内の全支社・営業所の支社長・営業所長車をハイブリッドカー（プリウス）に切り替えています。（2005年3月現在、支社・営業所全16箇所中3台導入済み）
- モーダルシフトの導入
- 2005年1月より、東京⇄大阪の物流センター間にモーダルシフト（貨物のトラック輸送から鉄道輸送への切り替え）を導入しています。
- グリーン購入の実施
- アイドリングストップ、クリーンアップ、省エネルギー運動等一年を通して環境行動を制定し、実施
- 「チームマイナス6%」活動の推進、グリーン購入の拡大

8. JOCスポーツ環境委員会活動報告書は活用されていますか

ア. 活動の参考として参照している



イ. いつでも閲覧できるように設置している



(4) 国際大会での啓発活動

日本代表選手は見られています。

私たちは太陽系第三惑星「宇宙船地球号」の乗組員です。私たちはこの地球から外に出て生きていく事は出来ません。スポーツマンを含む地球に住むもの全員がこの美しい私たちの宇宙船をきれいに保っていく努力をしなければなりません。

20世紀になって人類は文明を発展させ、石油や石炭をエネルギー源とし、あらゆる物質を資源として使い、私たちの生活がとても便利になった反面、地球の環境は破壊され続けています。

環境保全はスポーツに関る人達も率先して推進すべきであると1990年代初頭から国際オリンピック委員会サマランチ前会長が提唱し、スポーツと環境委員会が編成され、スポーツ界の環境保全活動を積極的に行っています。

ではスポーツ界における環境保全とは具体的にどのような活動をするのでしょうか？基本的には二つ、一つはスポーツ界でも環境保全活動を推進すべきである事を皆さんに知って貰う啓発活動です。二つ目は余計なエネルギー、資源を節減しモノを大切に使いまわし、使わなくなったものはリサイクルに回す事、そしてゴミは必ず分別し資源として再び我々の生活に使えるようにする事です。

「混ぜればゴミ、分ければ資源」という表現の通り、我々が廃棄するものを全て細かく分別すれば、再利用できる資源になるのです。私たちが毎日の生活の積み重ねとして日々資源エネルギーを節減したり、ゴミを分別する事を実行すればその総量は大変なものになります。

さて、日本を代表して競技大会に参加する選手の皆さんは、各種メディアを始め、観客やスポーツにあこがれる周りの多くの子供たちに見られています。代表選手になる事は子供たちの模範になる義務も同時に負う事を認識してもらいたいと思います。

皆さんが環境保全に協力される事と大会でのご健闘を心より期待します。

(財)日本オリンピック委員会
スポーツ環境委員会

第4回東アジア競技大会



皆さんは競技以外でも見られています。

第20回オリンピック冬季競技大会（2006／トリノ）でのご健闘を心より期待いたします。自ら培った力の限りを尽くすよう競技に臨んでいただきたいと思います。

近年、冬の降雪量が減ってきています。日本に襲来する台風の数が増え、勢力も大きくなって風水害が増えています。また、降雨量の極端に多いことから未曾有の水害や、逆に雨が全く降らない干ばつの被害など、極端な異常気象が起こっています。これら異常気象には多くの原因がありますが、その大きな要因は地球温暖化です。人間社会は20世紀に文明を急速に発展させ、我々の生活は過ごしやすくなった反面、環境汚染、環境破壊を起こしています。

環境問題は地球温暖化のみならず、酸性雨、オゾン層の破壊、野生生物種の減少、森林の減少、地球規模の砂漠化、海洋汚染、有害廃棄物の越境移動などが起こり、我々の日常生活に大きな影響を与えているのです。

スポーツ界に携わるアスリート、役員、関係者も地球に生きる市民として環境保全に力を尽くす義務があると、国際オリンピック委員会（IOC）は1990年代初頭に、オリンピック運動の柱であるスポーツ、文化に続くものとして環境を加え、スポーツ界の環境保全活動を主導することを決めました。

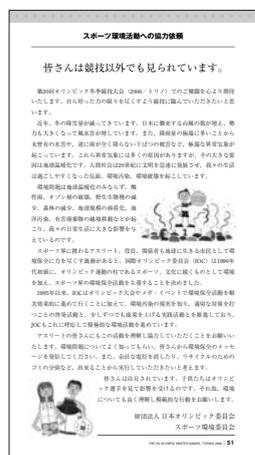
1995年以来、IOCはオリンピック大会やメガ・イベントで環境保全活動を順次効果的に進めて行くことに加えて、環境汚染の現実を知り、適切な対策を打つことの啓発活動と、少しずつでも成果を上げる実践活動とを推進しており、JOCもこれに呼応して積極的な環境活動を進めています。

アスリートの皆さんにもこの活動を理解し協力していただくことをお願いいたします。環境問題についてよく知ってもらい、皆さんから環境保全のメッセージを発信してください。また、余計な電灯を消したり、リサイクルのためのゴミの分別など、出来ることから実行していただきたいと考えます。

皆さんは注目されています。子供たちはオリンピック選手を見て影響を受けるのです。それ故、環境についても良く理解し模範的な行動をお願いします。

(財) 日本オリンピック委員会
スポーツ環境委員会

第20回オリンピック冬季競技大会



(5) 環境省との連携について

COOL BIZ コレクション 2006 に 竹田会長が参加

2005年2月に発効した京都議定書で、日本は地球温暖化防止を目的に「温暖化ガス排出マイナス6%」という目標を掲げている。その実現のために環境省が主体となって国内の企業、個人が参加する環境保護プロジェクト「チーム・マイナス6%」が2005年5月に発足。

平和の祭典「オリンピック」を地球環境について考える絶好の機会として認識し、国際オリンピック委員会（IOC）の活動にも呼応して、スポーツと環境をテーマに環境保全活動に積極的に取り組んでいる日本オリンピック委員会（JOC）は、「チーム・マイナス6%」の理念に賛同し、その一員となっている。

「チーム・マイナス6%」の活動の第一歩として、高温多湿の日本において冷房に頼りすぎることなく、室温を28度に設定することを呼びかけた今夏のCOOL BIZ（クール・ビズ）は、来る2006年の夏にも継続して呼びかけられる。その中で、より快適な生活と仕事の間を求めめるために、国内のアパレルメーカーがCOOL BIZのための男性ファッションを提案。2005年12月8日（木）に、そのお披露目ともいえるファッションショー「COOL BIZ コレクション2006」が、第9回繊維総合見本市（2005年12月7日～9日・東京ビッグサイト）会場内の特設会場で行われた。モデルはチーム・マイナス6%登録企業・団体の関係者のほか、スペシャルゲストモデルとして竹田JOC会長も参加。総勢44名のモデルにより、5社11ブランドのCOOL BIZファッションが紹介された。

ショーの後に行われた記者会見で、主催者側の環境省・江田康幸副大臣のチーム・マイナス6%を日本の常識として定着させていきたいという挨拶に続き、竹田会長は、チーム・マイナス6%に参加する組織の責任者としてCOOL BIZ コレクション2006に参加したこと、スポーツと自然環境には深い関係があること、さらにオリンピックが自然環境保護を呼びかけ、競技会場などにおいてゴミの分別収集などの活動を行っていることを紹介。今後も自然環境保護に向けて積極的に活動していきたいと挨拶した。



スペシャルゲストモデルとして
COOL BIZ コレクション2006
に参加した竹田会長。

小池環境大臣が、トリノ冬季オリンピック 日本代表選手に「もったいないふろしき」に よるごみ減量活動の実践等の協力を依頼!!

2006年1月22日（日）、都内で行われた「第20回オリンピック冬季競技大会（2006／トリノ）日本代表選手団壮行会」に小池環境大臣が出席。日本代表選手団に、ごみ減量活動の実践等の協力を依頼しました。



村主章枝選手に「もったいないふろしき」を手渡した小池環境大臣

当日、小池環境大臣は、日本代表選手団を激励するとともに、選手を代表してステージに上がった日本代表選手団副将の村主章枝選手（フィギュアスケート）に「もったいないふろしき」を渡り、選手団のみなさんにレジ袋を使用する代わりに、物を大切にすることを象徴ともいえる「ふろしき」を使用することで、ごみ減量活動を実践すること、そしてオリンピックという国際的祭典で「ふろしき」文化を通して、多くの人々に地球環境を考えるきっかけを与えて欲しいことをお願いしました。

「もったいないふろしき」とは、日本の伝統文化である「ふろしき」が循環型社会を考えるきっかけになるのではないかと考え、レジ袋や紙袋に代わるものとして、小池環境大臣がプロデュースしたものです。ペットボトルを再生利用した布地に、江戸時代の画家、伊藤若冲（いとうじゃくちゅう）の花鳥図があしらわれています。この日は、会場内に設けられた（財）日本オリンピック委員会ブースにも、「もったいないふろしき」が展示され、関係者の注目を集めていました。

なお壮行会には、小泉純一郎首相をはじめ、小坂憲次文部科学大臣、森喜朗日本体育協会会長などが出席。選手は、240人の選手団のうち、海外遠征などで不在の者を除く約110人の選手、役員らが参加しました。



（財）日本オリンピック委員会の竹田恒和会長（左）と小池環境大臣と国際オリンピック委員会の猪谷千春副会長（右）



日本代表選手団・遅塚研一団長（左）と小池環境大臣と（財）日本オリンピック委員会の水野正人スポーツ環境専門委員長（右）

写真提供：フォート・キシモト
環境省ホームページより

(6) スポーツと環境についてのレクチャー原稿

短い一言のご挨拶の機会がある時は次の一言をお願いします。

私達スポーツを愛するものも環境保全の大切さを理解して、出来る事から実行しましょう。

スポーツと環境について5分レクチャー原稿

5分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. スポーツと環境についての理解

(1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人。

- ① スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです。
- ② 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります。

(2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。

- ① 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです。
- ② ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです。
- ③ よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません。

(3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)。

- ① 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
- ② そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達に出来る事は身の回りの細かなことです。

2. 協力依頼

(1) まず、環境でどのような問題があるかを理解して貰いたいのです。

(2) 自然、資源、エネルギーを大切にしましょう。

- ① モノを大切にすること。3 R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行。
 - a. 削減 (Reduce) エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)。
 - b. 再使用 (Reuse) 同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
 - c. リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです (例：金属バット→飲み物の缶)。
- ② 夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる。
 - a. 冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。
 - b. 夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。
- ③ ゴミは分別してリサイクルをしやすいように工夫する。
 - a. 「ゴミは全て資源」の言葉通り、廃棄物を資源として再利用やリサイクルが可能なのです。
 - b. そのキーワードは分別です。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも平等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 15分レクチャー原稿

15分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします。

1. 私達は全員地球人です（宇宙船地球号の乗組員）

- ① 地球形成から46億年です。
- ② 300万年前に人類出現しました。
- ③ 1万年前に大家族制による農業革命が occurred しました。
- ④ 20世紀は人類の転換期（文明の急速発達）でした。
- ⑤ 便利な社会になった反面、化石燃料を燃やしつづけ我々の地球環境は破壊され、中でも自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます。
- ⑥ 環境問題を列記してみましょう。
 - a. 地球温暖化。
 - b. オゾン層破壊。
 - c. 酸性雨。
 - d. 野生生物種の減少。
 - e. 森林の減少。
 - f. 地球規模の砂漠化。
 - g. 海洋汚染。
 - h. 有害廃棄物の越境移動。
 - i. 大気汚染。

2. スポーツと環境についての理解

- ① スポーツを愛する私たちも皆、地球人。
 - a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです。
 - b. 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります。
- ② 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にすることを義務があります。
 - a. 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです。
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです。
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません。
- ③ think globally, act locally（地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する）。
 - a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです。
 - b. そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達に出来る事は身の回りの細かなことです。

3. スポーツと環境活動の経緯を見て見ましょう

- ① 1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林。

- ② 1976年デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題）。
- ③ 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた。
- ④ 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）。
- ⑤ 1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名。
- ⑥ 1994年第12回オリンピックコンGRESS（IOC創立100周年記念）でスポーツと環境分科会開催・パリ
- ⑦ 1995年IOCにスポーツと環境委員会設置。
- ⑧ IOCスポーツと環境世界会議開催（Lausanne1995, Kuwait1997, Rio1999）。
- ⑨ 1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議でOlympic Movement's Agenda21（オリンピック運動の環境保全規約書）を採択、IOCで承認された。
- ⑩ 2001年4月IOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始。
- ⑪ 2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催。
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda21の実践。

4. 協力依頼

- (1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べて見ましょう。
- (2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」。
 - ① 『持続可能な開発』は92年のリオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスが丁度いい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。
 - ② 『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。
- (3) 循環型社会の形成。
 - ① これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
 - ② 例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約25日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
 - ③ 各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
 - ④ これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。
- (4) ゼロ・エミッション。
 - ① ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
 - ② 循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物を分別回収すれば、それらは又資源となるのです。
 - ③ 特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。
- (5) モノを大切にする。3R（Reduce, Reuse, Recycle）の実行。
 - ① 削減（Reduce）エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。（例：電気や紙の削減）。

- ② 再使用 (Reuse) 同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう
 - ③ リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです (例: 金属バット→飲み物の缶)。
- (6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる。
- ① 冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。
 - ② 夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください。

スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

スポーツと環境について 30分レクチャー原稿

30分間のレクチャーの機会がある時は次の話をお願いします

1. 私達は全員地球人 (宇宙船地球号の乗組員)

- (1) 地球形成から 46 億年です
- (2) 300 万年前に人類出現しました
- (3) 1 万年前に大家族制による農業革命がおこりました
- (4) 20 世紀は人類の転換期 (文明の急速発達) でした
- (5) 便利な社会になった反面、化石燃料を燃やしつづけ我々の地球環境は破壊され、中でも自然の破壊、環境の汚染がすすんでいます。

2. 環境問題を列記し問題とその影響を見てみましょう

I. 地球温暖化

二酸化炭素などの「温暖化ガス」が増加する事によって地球の平均気温が上昇

- (1) 海面水位上昇による土地の喪失
- (2) 豪雨や干ばつなどの異常気象の増加
- (3) 生態系への影響や砂漠化の振興
- (4) 農業生産や水資源への影響
- (5) マラリアなど熱帯性の感染症発生数の増加

II. 大気汚染と酸性雨

化石燃料の燃焼などにより生じる硫黄酸化物や窒素酸化物などが大気中で酸性の化合物となり、雨などに取り込まれ地上に降る現象

- (1) 森林の衰退
- (2) 湖沼や河川などの酸性化とそれによる生態系への影響
- (3) 歴史的な遺跡や建造物などへの影響

Ⅲ．オゾン層の破壊

「CFC」などの人工化学物質が地球を取り巻く「成層圏」に存在しているオゾン層を破壊する事

- (1) 皮膚がんや白内障の増加
- (2) 免疫抑制などによる人の健康への影響
- (3) 動植物の生育阻害など生態系への影響
- (4) 大気汚染などの影響

Ⅳ．野生生物の減少

森林（熱帯林）の破壊、海洋汚染、砂漠化、地球温暖化、酸性雨によって野生の動植物が減少し種の絶滅問題

- (1) 遺伝子資源の減少
- (2) 観光・レクリエーション資源の減少
- (3) 生態系の破壊
- (4) 食物連鎖の破壊

Ⅴ．森林の減少

焼畑耕作や放牧地・農地への転換、過度の薪炭材採取、不適切な商業伐採などによる熱帯雨林、ロシア、カナダの北方針葉樹林の減少問題

- (1) そこに生息する野生生物種の減少
- (2) 土壌（表土）の流失
- (3) 森林に蓄積された炭素がCO₂となって放出される事による温暖化の進行
- (4) 水源の涵養機能や熱循環、海と陸との相互作用機能の低下

Ⅵ．地球規模の砂漠化

干ばつなどの気候的要因のほかに、放牧地の再生能力を超えた家畜の放牧や薪炭材の過剰採取などによる砂漠化

- (1) 食糧生産基盤の悪化
- (2) 生物多様性の喪失
- (3) 貧困の加速
- (4) 気候変動への影響
- (5) 都市への人口の集中
- (6) 難民の増加

Ⅶ．海洋汚染

タンカー事故や海洋への汚染物質の投棄、河川などを通じた陸起源の汚染物質の流入、沿岸の開発など様々な人為的要因により進行

- (1) 生態系の破壊
- (2) 漁業資源や観光資源の喪失
- (3) 有害物質汚染による海洋生物への影響と海洋生物経由の人体への影響

Ⅷ．有害廃棄物の越境移動

海洋に投棄されたり、沿岸から流出する汚染物質や工業廃棄ガスなどが海や大気の流れにより世界中に広がる問題

3. スポーツと環境についての理解

- (1) スポーツを愛する私たちも皆、地球人

- a. スポーツマンはいつも爽やかなイメージを持ち、スポーツをするものは環境と関係がないように思う人が居るかも知れないがそれは幻想なのです
 - b. 人間として社会生活をしているものは全て環境を考え、環境保全を実行する義務があります
- (2) 私達の宇宙船「地球号」の乗組員として環境を大切にする義務があります
- a. 地球に生きる全ての動植物は地球の外では生きて行く事は不可能なのです
 - b. ほんの一握りの人間が科学技術の恩恵により地球外で生きても地球からのバックアップなしには生き続けられないのです
 - c. よって、我々の宇宙船を汚すことなく大切に使うために環境保全を実行しなくてはなりません
- (3) think globally, act locally (地球規模で考え、身の回りの出来る事を実行する)
- a. 環境保全を推進するにあたり大切な事はまず地球規模でどのような汚染・問題があるかを、又その原因がどこにあるかをしっかり知ることです
 - b. そして、地球規模の現実的な問題を考えつつ実行しますが、しかし私達が出来る事は身の回りの細かなことです

4. スポーツと環境活動の簡単な経緯を見てみましょう

- (1) 1972年札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林
- (2) 1976年デンバーオリンピック大会開催返上 (経済・環境問題)
- (4) 1990年までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
- (5) 1990年代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた (スポーツ・文化・環境)
- (6) 1992年バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加国署名
- (7) 1994年第12回オリンピックコンGRESS (IOC創立100周年記念) でスポーツと環境分科会開催・パリ
- (8) 1995年IOC、オリンピック憲章に環境保全実行を明記
- (9) 1995年IOCにスポーツと環境委員会設置
- (10) IOCスポーツと環境世界会議開催 (Lausanne 1995, Kuwait 1997, Rio 1999)
- (11) 1999年第3回IOCスポーツと環境世界会議でOlympic Movement's Agenda 21 (オリンピック運動における環境保全の規約書) を採択、IOCで承認された
- (12) 2001年4月JOCにスポーツ環境委員会設置、活動を開始
- (13) 2001年11月第4回IOCスポーツと環境世界会議を長野で開催
“Give The Planet A Sporting Chance” Olympic Movement's Agenda 21の実践
- (14) 2003年12月第5回IOCスポーツと環境世界会議をトリノで開催
“Partnerships for Sustainable Development”
- (15) 2005年11月第6回IOCスポーツと環境世界会議をナイロビで開催
ナイロビ宣言

5. 協力依頼

- (1) まず、環境保全のキーワードを列記し、その意味を述べてみましょう。
- (2) 「持続可能な開発」と「持続可能性」
 - ① 『持続可能な開発』は92年のリオ・サミットの頃のキーワードでした。すなわち経済の発展が過ぎれば環境破壊は壊滅的に進む。片や環境保全を厳しく実行すると経済

が疲弊して社会システムが崩壊する。そこで経済の発展と環境保全のバランスがちょうどいい所に折り合いをつけて、人類が持続可能な開発をしようというものです。

- ②『持続可能性』は逆に人類を地上に持続させる為にはどのような仕組みを作るべきかを考える方法です。いずれにせよ後のような要素もどこかで折り合いをつける必要があるのです。

(3) 循環型社会の形成

- ①これは消費財や食品などの廃棄物を全て資源としてリサイクルし、新しい製品にしてそれを消費して行くという循環型の社会形成を目指すものです。
- ②例えば、食品の生ゴミを酵素である一定期間（約 25 日）処理をすると素晴らしい肥料になります。これを用いて野菜を育成すると食品は循環している事になります。
- ③各種プラスチック製品、金属製品を上手く分別回収、リサイクル処理をすると再び資源として製品の原材料になります。
- ④これを繰り返す事により新しい資源の節減が図られるのです。

(4) ゼロ・エミッション

- ①ゼロ・エミッションとは排出物ゼロと言う意味です。
- ②循環型社会形成には不可欠の考え方で社会は排出物を出さない。すなわち今までの排出物の分別回収をすれば、それらは又資源となるのです。
- ③特に製品を生産している工場は原材料の切れ端や削りカスなどを今までは廃棄物としていましたが、上手く分別して新しい資源として工場から運び出せば、その工場の排出物はゼロになるのです。

(5) モノを大切にする。3R (Reduce, Reuse, Recycle) の実行

- ①削減 (Reduce) エネルギーや資源を大切にするために、まず身の回りで使っているエネルギー、資源を削減することです。(例：電気や紙の削減)
- ②再使用 (Reuse) 同じモノを出来るだけ多い回数使うように工夫をすることです。例えばサイズの問題で着る事が出来なくなったウェアを使える人に回してはどうでしょう。
- ③リサイクル (Recycle) 使えなくなったものを上手く分解して素材ごとにリサイクルし他の物資にして使用することです (例：金属バット→飲み物の缶)

(6) エネルギーを節減する工夫、夏は涼しく、冬は暖かく過ごす工夫をして冷暖房の負荷を下げる

- ①冬には暖かい下着を着たり、もう一枚重ね着をする事で暖房の温度を少し下げることが出来ます。
- ②夏は出来るだけ涼しい服装をしたり、うちわや風の通りを良くして冷房の温度を少し上げる事ができます。

環境保全活動は気の長い活動ゆえに生活習慣として実行してください

6. スポーツと環境に関与する要素には次のようなものがあります

(1) 会場立地

- ①スポーツ施設の立地について、まわりの空気や水が基準以上でなければ選手・コーチの健康を損なう可能性がある。
- ②施設建設が自然を大きく破壊する事がないように配慮する

- ③特に冬のスポーツ施設の立地が天然記念物の生息地に掛からないように配慮する
- (2) 施設
- ①設建設に当たっては自然との調和を図るよう最善を尽くす事
 - ②空調のエネルギー節減のため天窓を上手く配置し、冬は温室効果で暖かく、夏は窓を開放する事で暑い空気を天窓から出す事で涼しさを保つ工夫をする
 - ③アイスアリーナなどはアンモニアの直接製氷法から間接にし、アンモニアの漏れでの環境破壊や選手の競技環境を損なわないように努める
- (3) 運営
- ①スポーツ大会、競技会、スポーツ教室などの運営に当たっては、資源・エネルギーの節減に努める。特にコピーは両面を使い、できればパソコンなどのディスプレイ画面で仕事の処理ができるように努める。
 - ②運営全体での資源・エネルギーの消費量を数値化し計測し、削減に努めるとともに次回にはより削減できるよう工夫をする
- (4) 役員
- ①競技・運営役員はスポーツ環境保全の重要性を認識し、スポーツ界全体の環境保全が実践されるよう啓発活動を行なう。
 - ②役員は身の周りのできる環境保全活動を率先垂範で実践する
- (5) 選手・コーチ
- ①選手・コーチは清潔でクリーンな競技環境で競技や訓練が実施できるよう最善を尽くす
 - ②選手（特にトップ選手）は衆目を集めるので、環境保全に対しての理解を深め啓発活動の一環としてチャンスがあるごとに環境保全の大切さをアピールする
- (6) オフィスワーク
- ①スポーツに拘るオフィスはスポーツ環境の概念を良く理解してオフィスワークに活用する
 - ②資源・エネルギーの削減、またグリーン購入法に基づいて物品購入を行なう。
- (7) 観客
- ①スポーツ競技会の観客にはポスターやパンフレットでスポーツ環境の意義の理解を深める啓発活動を行なう。
 - ②ゴミの持ち帰り運動を推進し、会場清掃量を削減する。又各々の観客が持ち帰ったゴミは分別してリサイクルに回されるのが望ましい
- (8) 用具
- ①スポーツ品メーカーは環境に配慮した製品を企画製造する
 - ②完全リサイクルができる「ナイロン6」素材のもの
 - ③準完全リサイクルは元の原材料には戻らないが形を変えて製品化できるもの
 - ④リサイクル素材の活用。回収ペットボトルから作られた繊維を利用した製品（混紡をするゆえ品質機能には全く問題はない）
 - ⑤製造技術を改善し省資源・省エネでスポーツ品を製造する
 - ⑥有害物質は全く使わない（塩化ビニール・フロンなど）
- (9) メディア
- ①スポーツを報道するメディアにもスポーツ環境の大切さに対する理解を促進し協力を依頼する。

②メディア活動においても省資源・省エネを促進する

7. スポーツ環境の活動に必要な要素を列記しました。この活動にゴールはありません。啓発や実践を地道に継続的に進める忍耐力が必要です。

①気の長さ

②忍耐力

③継続力

④適正なペース

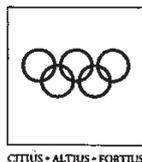
⑤実効性

⑥リーダーシップ

8. スポーツをする人たち、見る人たちも相等しく地球人として環境保全を推進する事が大切です。できればスポーツマンが社会の中で模範的環境保全のリーダーとなるように願っています。

5.IOC スポーツ環境委員会について

(1) IOC スポーツと環境委員会



Commission sport et environnement du CIO *IOC Sport and Environment Commission*

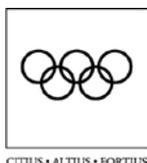
Réunion annuelle/ *Annual meeting*

Nairobi, le 12 novembre 2005, 9h-13h / *Nairobi, 12 November 2005, 9.00 a.m. - 1 p.m.*

ORDRE DU JOUR / AGENDA

1. Bienvenue du président de la Commission / *Welcome by the Commission Chairman*
2. Bienvenue du président du CIO / *Welcome of the IOC President*
3. Présentation des nouveaux membres / *Presentation of the new members*
4. Approbation du procès-verbal du 3 mai 2004 / *Approval of the minutes of 3 May 2004*
5. Rapport général du président de séance / *Overview report by the Commission Chairman*
6. Rapport du directeur du Département de la coopération internationale et du développement / *Report by the Director of the Department of International Cooperation & Development*
7. Guide sur le développement durable dans le sport / *Guide to sustainable development in sport*
8. Prochaines séminaires régionaux / *Next Regional Seminars*
9. Questionnaire sur le sport et l'environnement pour les CNO / *NOC Sport and Environment Questionnaire*
10. Rapport du directeur de la Solidarité Olympique / *Report of the Director of Olympic Solidarity*
11. Rapport du représentant du TOROC / *Report of the TOROC representative*
12. Rapport du représentant du BOCOG / *Report of the BOCOG representative*
13. Rapport du représentant du VANOC / *Report of the VANOC representative*
14. Rapport du représentant de Londres 2012 / *Report of the representative from London 2012*
15. Divers / *Miscellaneous*
16. Analyse de la VI Conférence Mondiale / *Analysis of the VI World Conference*
17. Prochaine réunion de la Commission et Conférence Mondiale/ *Next Commission meeting and World Conference*

(2) IOC スポーツ環境、西アジア地域セミナー



REGIONAL SEMINAR ON SPORT AND ENVIRONMENT

18 - 20 April 2005, Dubai, United Arab Emirates

PROVISIONAL PROGRAMME

Monday 18 April 2005

Afternoon: Arrival of participants – transfer to hotel

19:00 **Opening Ceremony**

Tuesday 19 April 2005

SESSION I: General information

- 9:00-9:15** **1. Introduction by Mr Masato Mizuno, Chairman of the seminar and member of the IOC Sport and Environment Commission**
- seminar objectives and procedure
- presentation of participants
- 9:15-09:30** **2. Overview of IOC actions and policy for sport and environment**
by Mr Edward Kensington, Project Officer and Secretary of the IOC Commission for Sport and Environment
- 9:30-10:30** **3. Sport and sustainable development**
by Mr Tore Brevik, member of the IOC Sport and Environment Commission
- 10:30-10:45** Coffee break
- 10:45-11:45** **4. The role of national Olympic Committees for Sport and Environment – Industry efforts for the environment**
by Mr Masato Mizuno

SESSION II: NOC programmes and actions

- 11:45-12:30** **5. Presentations of national programmes/actions (8-10 min.)**
(actions undertaken by NOC and local authorities since and in relation to the Torino World Conference, success stories, issues to solve, obstacles, supports, future objectives, partnerships, etc.)
- United Arab Emirates, Afghanistan, Saudi Arabia / Discussion
- 12:30-14:00** **Lunch-break**

SESSION II: (continued) NOC programmes and actions

14:00-15:30

- Bahrain, Brunei Darussalam, India / Discussion
- Islamic Republic of Iran, Iraq, Jordan / Discussion
- Kazakhstan, Kyrgyzstan, Kuwait / Discussion

15:30-15:45 Coffee break

15:45-17:30 **6. Presentations of national programmes/actions (8-10 min.)**

- Lebanon, Maldives, Oman / Discussion
- Uzbekistan, Pakistan, Palestine / Discussion
- Qatar, Sri Lanka, Syrian Arabic Republic / Discussion
- Tajikistan, Turkmenistan, Yemen/Discussion

Wednesday 20 April 2005

SESSION III: Evaluation of programmes and actions

09:00-09:15

7. Summary / Analysis of NOC presentations

by Tore Brevik, IOC Sport and Environment Commission member

09:15-10:15

8. Open Discussion: Masato Mizuno

- a) NOC sport and environment activities
- b) Implementation of Torino Commitments – role of NOCs
- c) Specific priorities and national challenges – developing policies in consideration
- e) Partnership & funding mechanisms – framework agreements

10:15-10:30

Coffee break

SESSION IV: Future strategies / recommendations

10:30-12:30

9. Identification of future strategies

12:30-15:00

Lunch-break

15:00-15:45

10. Presentation of recommendations: Masato Mizuno

Closing remarks

IOC スポーツと環境、西アジア地域セミナー出席報告

JOC スポーツ環境委員長 水野正人

IOC からの依頼で JOC スポーツ環境委員長として地域セミナーの議長を指名され出席した。

開催日：2005年4月18日（月）～4月20日（水）

開催地：アラブ首長国連邦、ドバイ

参加国：14ヶ国（アラブ首長国連邦、アフガニスタン、サウジアラビア、バーレーン、インド、イラン、ヨルダン、カザフスタン、レバノン、モルジブ、ウズベキスタン、カタール、スリランカ、タジキスタン）

4月18日 開会式

4月19日 1. セミナーの目的、出席者紹介（議長）

2. スポーツと環境に対する IOC の施策（Edward Kensington, IOC）

3. スポーツと持続可能な開発（Tore Brevik, UNEP）

4. NOC の果たすべき役割、産業の責任（Masato Mizuno, JOC）

5. 西アジアのスポーツと環境の現状（Hbib Elhabar, UNEP west Asia）

6. 参加 NOC 代表から現状と課題発表

4月20日 1. NOC 発表の分析と要約

2. 討議

3. 将来の取り組み手法の策定

4. 指針発表

西アジア・スポーツと環境セミナーの指針（Recommendation）

1. 2003年トリノで開催された IOC スポーツと環境世界会議の決議に従い「持続可能な開発に向けての協働体制（Partnerships for Sustainable Development）」の実現に向けて NOCs、政府機関、地域社会、団体、メディア、産業など関係者が協働しつつ啓発活動、実践活動を通じて継続的に積極的に活動を行う。
2. 啓発活動、実践活動を進めるため、アジア大会などを通じてアスリートの協力も依頼し現実的、効果的で明確な施策立案のためのネットワークの構築をする。
3. スポーツと環境活動の施策を数値化、明確な目標値を設定、定点・定時観測し効果を評価する制度を構築しフィードバックをすることでより一層の効果を上げる。

(3) 第6回IOCスポーツと環境世界会議

WORLD CONFERENCE ON SPORT AND ENVIRONMENT SPORT, PEACE AND ENVIRONMENT Nairobi, Kenya - 9 to 11 November 2005

Provisional Programme

WEDNESDAY 9 NOVEMBER 2005

- 15:00 Entertainment
16:00 to 18:00 Opening Ceremony
18:30 to 20:00 Cocktail & Cultural Event (Kayamba Africa)

THURSDAY 10 NOVEMBER 2005

09:15 - 10:45 OPENING PLENARY (1)

Link between Sport, Peace & Environment and the contribution of sport to sustainable development

10:45 - 11:00 Coffee Break

- 11:00 - 12:30 **PARALLEL A:**
Environmental awareness creation for young people through sport
- 1) Indigenous people and indigenous sport
 - 2) Nature and sports training camp
 - 3) Environment awareness through sport
- PARALLEL B:**
Sport as a tool for sustainable development (business & economic dimension)
- 1) Sport and tourism
 - 2) Corporate social responsibility - promoting environment through sport
 - 3) Sport and youth employment

12:30 - 14:00 Lunch

14:00 - 15:30 PLENARY (2)

The role of the Olympic Movement in Sustainable Development

15:30 - 15:45 Coffee Break

15:45 - 17:45 PLENARY (3)

Human and Environment Legacy

FRIDAY 11 NOVEMBER 2005

- 09:15 - 10:45 **PARALLEL C:**
Sport and civil Society
- 1) Gender empowerment and sport
 - 2) Sport and the Environment - UNEP strategy for sport
 - 3) Role of sports persons in promoting environment
- PARALLEL D:**
Sport as a tool for sustainable development (social dimension)
- 1) Sport, health promotion and HIV / Aids prevention
 - 2) Sport, environment and refugees
 - 3) Sport and post-conflict reconstruction

10:45 - 11:00 Coffee Break

- 11:00 - 12:30 **PARALLEL E:**
Sports facilities and equipment
- 1) Greening the FIFA 2006 World Cup
 - 2) Sports goods and the environment
 - 3) New York 2012 bid legacy
- PARALLEL F:**
Sport and politics
- 1) Sport and politics
 - 2) Sports governance and human values - African Union
 - 3) Sport, youth and leadership

12:30 - 14:30 Lunch

14:30 - 16:00 CLOSING PLENARY SESSION (4)

16:00 - 16:15 Coffee Break

16:15 - 16:45 CLOSING CEREMONY

17:00 Press Conference

『スポーツと平和と環境』 ナイロビ宣言

2005年11月9日～11日 ナイロビ、ケニア UNEP 本部

第6回 IOC スポーツと環境世界会議が『スポーツと平和と環境』をテーマとして国際オリンピック委員会 (IOC)、国際スポーツ連盟 (IFs)、国内オリンピック委員会 (NOCs)、オリンピック組織委員会 (OCOG)、国連環境計画とその他国連機関と環境関連 NGO の代表が参加し、ナイロビ/ケニアにおいて、2005年11月9日から11日まで開催された。

1994年パリで開催された第12回オリンピックコンGRESS IOC100周年記念にて、スポーツ、文化に並んで「環境」を第3の柱とすることと、IOCにスポーツと環境委員会の設置を含め、オリンピック運動が持続可能性の原則へ約束したことを再認識する。

IOCと国連環境計画は1994年以降、スポーツと環境世界会議の機会も含め、スポーツ界での環境の持続性を促進させてきたこと、公式に協力しあってきたことを再認識する。

平和、安全保障と保全是環境の持続的管理と直接的に関連している事を認知する。

主要スポーツ大会での環境負荷削減努力のために、IOCによって作られた模範例の認識を要望する。

また国際サッカー連盟 (FIFA) が手がけている「グリーン・ゴール」計画など、各国際スポーツ競技連盟が努力をしていることを認証する。

来るべき2006年の第20回オリンピック冬季競技大会組織委員会の計画と準備のあらゆる局面において、環境に対する配慮をオリンピックの運営に偏りなく進める努力をしているトリノシティを賞賛する。

2008年北京、2010年バンクーバー、2012年ロンドンの各組織委員会が立てた計画が満足すべきものであることの記録を要請する。そしてこれらの計画と活動が実現されることを期待する。

アフリカ各国オリンピック委員会の環境活動を促進する努力を認証する。

この会議で発表されたスポーツと環境、また持続可能な開発に関するIOCの刊行物に感謝を持って認知する。

国際スポーツ競技連盟、国内オリンピック委員会そして全てのスポーツ競技大会の組織委員会が国連環境プログラム (UNEP) やIOCやその他機関が発刊した持続可能なスポーツに関する資料の内容や価値を含んだアドバイスを利用することを奨励する。

国際スポーツ競技連盟、国内オリンピック委員会、国内スポーツ競技連盟や各クラブが、環境の持続性とスポーツを通じた平和を促進する活動プログラムを奨励することを要請する。

また、国連総会が教育と健康と平和維持のために2005年を「スポーツと体育の国際年」と宣言し、スポーツとオリンピック理念の役割、すなわちオリンピック停戦を通し、平和でより良い世界を構築することを明らかにすることを再認識する。

国連活動はスポーツが2000年計画の達成に役立ち、スポーツが果たす役割の重要性、特にエイズ撲滅と男女平等、女性・少女への役割委任を促進するということを認識する。

また2003年の第5回IOCスポーツと環境世界会議のトリノ宣言に基づく活動と、宣言内容に合致する活動を継続する必要性を記録する。

国際オリンピック委員会、国際スポーツ競技連盟と国内オリンピック委員会はオリンピック招致の過程で実行される環境啓発のための重要な推進力を如何に維持し改善をするかについて、また各大会で維持される啓発と実践のレベルを確定し探求し持続的に精励することを要望する。

リーダーシップとスポーツを通じて環境の持続可能性と平和を向上させる訓練の模範例を共有することと、UNEPが行っている自然とスポーツのキャンプや各国・各地域の方向性を合致させ、触媒の役割を果たす類似した活動をIOC、IFs、NOCs、NFsは認定する。

さらに、IOC、IFs、NOCs、NFsが男女スポーツマン、子供や青年を教育し、また地域で環境の持続可能性の重要性とより良い社会と平和を達成することに連携していることがメディアを通じて啓発されることを鼓舞する。

Environmental Concern on Sports Facilities and Sports Equipment

Masato Mizuno

Nov. 11, 2005 Nairobi, Kenya

According to the Olympic Movement's Agenda 21, a special effort must be made to encourage the best possible use of existing sports facilities, by keeping them in good condition and by increasing safety, to reduce their environmental impact.

The creation of new sports facilities must be confined to cases in which demand cannot be satisfied by using or renovating existing facilities.

There are quite many elements to consider in regard to protect from environmental burdens. Those are as follows;

1. Purpose of facility (out door, indoor)
2. Compliance (Laws and regulations)
3. Location and surroundings (Preservation of the nature)
4. Size (Large scale, temporary additions)
5. Materials (Natural, Synthesized)
6. Noise (Voice, Instrumental)
7. Air Condition System (Mechanical ingenuity)
8. Energy consumption (Saving techniques)
9. Water management (Rain water collection)
10. Waste management (Separation system)
11. Environmental Burdens (All measures)

Here are several examples of sports facilities which adopted quite unique implementations to conserve environment.

M wave skate arena in Nagano, Japan

The facility was used at the Nagano Winter Olympic Games in 1998 for speed skate events, introducing indirect freezing method to make ice. The refrigerant has been changed to alternative substance from Ammonium and/or Fleon. A special heat shield material keeps inside temperature for saving excess energy.

Osaka Central Gymnasium, Osaka, Japan

The unique underground structure of the gymnasium insulates heat and conserves the nature on the top covered by grass. Installation of natural ventilation helps inside temperature constant and saves energy for air condition. Introducing natural lighting also saves energy.

Kita-Kobe Den-en Sports Park, Kobe Japan

This harmonious sports facility surrounded by nature located west side of city Kobe adjacent to Osaka is introducing large scale solar power system for sections that demand electricity in the facility.

Amagasaki 21 century Woods Project

This multi purpose large-scale sports facility project planned for near future will adopt solar energy system and use of rainwater perfectly.

Sports Equipment

Olympic Movementi ´ s Agenda 21

3.2.4 Sports equipment

1. Should give preference to the environmentally-friendly equipment which makes use of renewable products
2. Should minimize expenditure on energy for the transport and distribution of goods
3. Should obtain ISO certification for quality assurance and environmental management

The World Federation of Sporting Goods Industry is willing to abide by the clause of the Olympic Movementi ´ s Agenda 21, the committee on Corporate Social Responsibility is working hard on environment. The environmental conservation is one of the elements to drive in the industry as well as compliance and risk management and so on. Those are:

CSR

1. Corporate governance
2. Compliance
3. Risk management
4. Internal control
5. Environmental conservation
6. Customer satisfaction
7. Stockholders satisfaction
8. Disclosure
9. Employee satisfaction
10. Contribution to the society

Again, environmental measures of spots equipment towards sustainable development are quite same as other sectors of the stakeholders. 3Rs, Reduce, Reuse and Recycle are the basic policy along with saving energy and resources as well as separation of waste that leads to the Zero Emission.

There are 5 ways to develop environmentally concerned products:

1. Development of products using cyclic material
To develop products which are collected after usage to be reprocessed back to the original material then reused. Variety of material used in the product must be limited to one type to make reprocessing easier.
2. Development of products using recycled materials
To develop products using recycled materials in part or whole. The easiest concept to implement, high performance products can be made by combining recycled material with other material.
3. Development of products using semi-cyclic materials
To develop products that are collected and retooled after use in the same manner as products using cyclic materials, but then transformed into a different type of materials before reuse.
4. Development of products that contain any toxic substances
To develop product that contains any harmful toxic substances neither for the environment nor for the health of human being.
5. Development of manufacturing system prevent pollution
To develop products that does not produce any environmentally harmful waste during the production process. To develop products that deliver minimum waste and non-toxic substances while they are manufactured in the factory.

There are several examples of those environmentally concerned sports equipment.

1. Outfit supplied to the 24,000 volunteers are made out of Material “Nylon 6” thermal plasticity. All material of the parts of outfit, surface, insulate, liners, buttons, fasteners, threads are “Nylon 6” that the used and collected outfits become Nylon 6 pallets by heated in vessel, then come back to fiber or other parts again.
2. It is an example of some parts that made out of recycled materials. In this way we can develop products using recycled material.
3. A sequence of pictures shows development of products using recycled materials. Collected PET bottle become chips by a process, and then it becomes thread by melting and injecting process.
4. One example of manufacturing system prevent pollution, some factory make recycle lubricating oil.

5. In order to prevent toxic and harmful substance into the product is one of the essential ways for sustainability. The sporting goods industry is now preventing use of PCV, Fleon and other toxic substances.

The sporting goods industry is introducing environmentally concerned system not only in production system but also in logistic aspect. Using foldable carton box and re-usable cardboard box as well as rationalize the size and shape of cardboard box.

Zero Emission is one of the ideal state of society. The concept of the zero emission is categorized material by separation of waste become resources.

Any factory can achieve zero emission by all the material that carried out from the factory would be the products and resources by separation of industrial waste.

Sporting goods industry has been striving so much effort continuously to implement systems and educate people to conserve the environment for sustainable development towards long future to come.

Report on activities of Sport and Environment Commission of JOC
Dr. Kazuo Sano
Vice Chairman of Sp+Env Commission of JOC
Nov. 11, 2005 Nairobi, Kenya

Ladies and Gentlemen,

It is my great pleasure to report on the activities of Sport and Environment Commission of Japanese Olympic Committee that has been quite active since its foundation in 2001.

“Give the Planet a Sporting Chance” was the theme of the IOC World Conference on Sport and Environment at Nagano, Japan in 2001.

12 members are working in the commission. As you can see in the list, they represent key sports in Japan. We have 5 commission meetings annually along with quite many field activities on environment.

There have been 5 IOC World Conferences in the past on sport and environment, Lausanne, Kuwait City, Rio de Janeiro, Nagano and Torino.

“Partnerships for Sustainable Development” was the theme of the Torino conference. The chart shows the Torino commitment. Today, I would like to report the activities of JOC having partnership with all the stakeholders in the chart, especially strong linkage with National Federations who hosts most of the key events like national championships in Japan.

Now, I would like to report the key activities of JOC Sp+Env. Commission. Awareness and Implementation are the key activities of the commission along with hosting domestic regional seminar, the national conference and maintaining the ISO 14001 registration in the JOC office.

First of all, we have strongly requested all the national sports federations to establish their own Sp+Env Committee in their federation, hang posters and distribute leaflets for awareness and implementation of concrete activities like separation of waste.

One of powerful tools to increase awareness of environment is a poster that you can see on the screen. We launched new version of our posters for this year.

Pamphlets or leaflets, just you can see on the screen are quite strong tool to make everybody understand deeper what it is or what to do. We compile it as simple as possible in order for everybody to understand easily, even fourth grade children can.

The commission of JOC keeps asking to put up the banner and separate waste at the events.

Let me show you some of the examples that the activities of each federation at the top events. First one is Japan Association of Athletic Federation. The bottom shows the activities of Japan Swimming Federation.

Next one is annual JOC Forum to discuss quite important elements. The theme of the last year was Sport and Environment. Pictures at bottom are top event of Japan Gymnastic Association who has a specific problem with very fine powder of Magnesium Carbonate.

Japan Golf Association is quite corporative for environment as well as Japan Soccer Association, Especially; Soccer Association has been promoting the several activities that attracts soccer fans.

Handball and Volleyball are typical indoor sports that bring many fans into gymnasiums. It is quite effective to hang posters and to install waste boxes to separate.

Even Japan Ski Federation carrying forward all the measures of showing banners, posters and separation of waste at the venue.

Japan Amateur Sports Association hosts the national sports festival every year with the scale of ten thousand participants.

Skate events like speed skate, ice hockey and figure skate are popular sports and the federation is working hard for conserving environment.

We welcomed Dr. Pal Schmitt, the president of World Olympians Association to WOA symposium in Osaka, Japan. We put the posters for awareness.

We also displayed the posters at the general meeting of Olympian Association of Japan. Olympians are a group of the most powerful ambassadors to disseminate environmental message to the public.

Now, I go on the report of JOC domestic regional seminar and conference on Sp+Env. We are trying to follow the system of the IOC.

JOC hosted first regional seminar on Sp+Env in Osaka in September with over 200 participants of regional federations and related organizations.

After listening 7 very instructive lectures, most of the participants had become new leaders of Sp+Env in their organizations in the region.

JOC conference on Sp+Env for the national federations and related organizations has held on Nov. 16, 2004 and will be held on Nov. 25, this year.

The representing federations of the Sp+Env commission members made reports on their environmental activities. Every participant learned the importance of Sp+Env.

The commission made a survey on consciousness of 54 national federations. According to the result, about one-fourth of federations have their own commission or have some activities on environment. 40% of them know that JOC has obtained ISO 14001. 26% of them have some program for their officials however only 13% have program for athletes.

44% of them are requesting top athletes to convey environmental message to the public, and 26% are asking athletes to use environmental concerned sports equipment. 81% of the federations are doing their best to arrange environmentally safer venues and 98 % are separating waste.

Half of 54 federations are hanging the posters and 91 % will take measures for next facility construction. About 60% use the JOC report on Sp+Env for better understanding and 56% offers the report to read and see.

JOC has received surveillances twice to keep the ISO 14001 recognition since receiving the recognition in July 2003.

The staffs of JOC Office has been making so much effort on saving energy, saving usage of paper, separation of paper waste and green purchase.

Finally, the commission has been studying hard about the future master plan as you see on the screen. There are many programs to proceed in the future.

We, Commission of the Sp+Env of JOC, welcome you to share information for mutual benefit for conserving the sport environment together in the future.

Thank you very much.

6. 関連資料

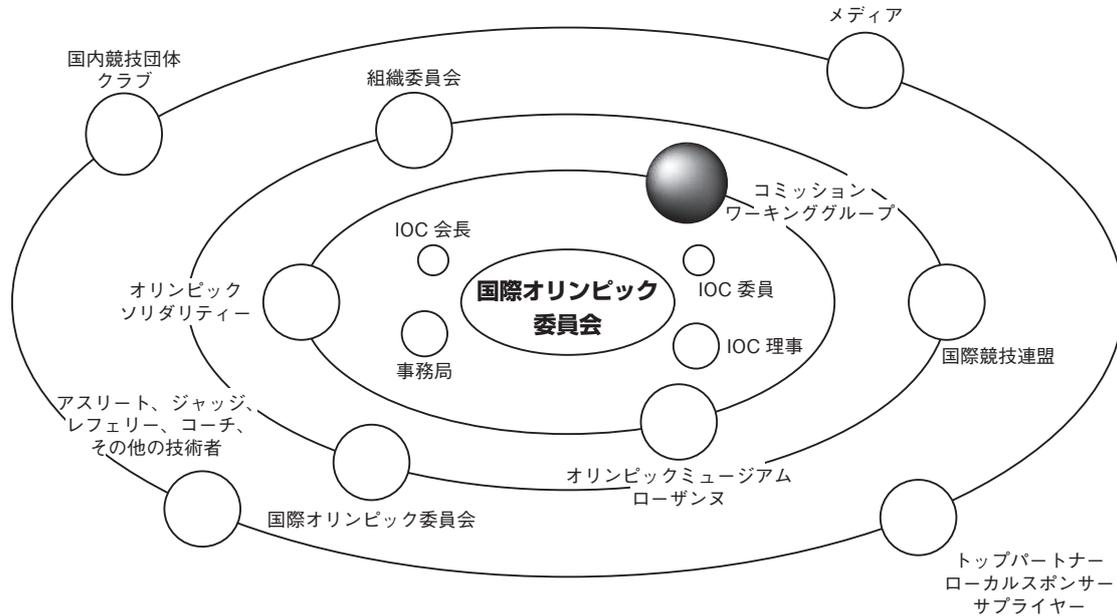
(1) JOC スポーツ環境専門委員会名簿

平成 18 年 6 月 10 日現在

役職名	氏 名	出身団体 (NF) 他	役職 (NF)
委員長	水野 正人	(IOC スポーツと環境委員会委員)	
副委員長	瀬尾 洋	(財)全日本スキー連盟	常務理事／総務副本部長
	佐野 和夫	(財)日本水泳連盟	専務理事／スポーツ環境委員長
委 員	遠藤 幸一	(財)日本体操協会	常務理事／環境委員長
	鎌賀 秀夫	(財)日本レスリング協会	評議員／スポーツ環境委員長
	久保田克彦	(財)日本陸上競技連盟	理事／総務委員会委員長
	西脇 克治	(財)日本バレーボール協会	運営理事／スポーツ環境小委員会委員長
	平田 竹男	(財)日本サッカー協会	専務理事
	平松 純子	(財)日本スケート連盟	フィギュア委員長
	別所 恭一	学識経験者 (佐川急便株式会社 CRS 環境推進部長)	
	松岡 修造	(財)日本テニス協会	理事待遇
	山口 香	(財)全日本柔道連盟	女子強化委員

(2) IOC 組織・機構図

国際オリンピック委員会



各委員会

- ・ 理事会
- ・ 文化・オリンピック教育委員会
- ・ アスリート委員会
- ・ オリンピック競技大会委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 指名委員会
- ・ 女性とスポーツ委員会
- ・ 財務委員会
- ・ 法務委員会
- ・ マーケティング委員会
- ・ 医事委員会
- ・ 報道委員会
- ・ オリンピックプログラム委員会
- ・ ラジオ・テレビ委員会
- ・ ソリダリティー委員会
- ・ スポーツと法律委員会
- ・ スポーツと環境委員会
- ・ スポーツ・フォア・オール委員会
- ・ 第 29 回オリンピック競技大会（北京／2008）調整委員会
- ・ 第 21 回オリンピック冬季競技大会（バンクーバー／2010）調整委員会
- ・ 第 30 回オリンピック競技大会（ロンドン／2012）調整委員会
- ・ 切手・貨幣・記録委員会
- ・ 国際関係委員会
- ・ テレビ・インターネット権利委員会
- ・ 2009 コンgress委員会

スポーツと環境委員会

Chairman	Pál SCHMITT	
Members	Henry Edmund Olufemi ADEFOPE	Masato MIZUNO
	Roland BAAR	Mamadou Diagna NDIAYE
	Tore BREVIK	Moss MASHISHI
	Enrico CARBONE	Sunil SABHARWAL
	Yaping DENG	Shamil TARPISCHEV
	Joseph FENDT	BOCOG Representative
	Zoumaro GNOFAME	VANOC Representative
	Johnson JASSON	LOCOG Representative
	George KAZANTZOPOULOS	
Director in charge	Director of International Cooperation and Development	

(3) IOC スポーツと環境委員会小史

1972年	札幌オリンピック冬季大会、恵庭岳ダウンヒルコース、競技終了後植林
1990年	デンバーオリンピック冬季大会開催返上（経済・環境問題）
1990年	までIOCは環境保全団体からの抵抗運動を受けていた
1990年	代当初、オリンピック運動に環境保全を加えた（スポーツ・文化・環境）
1992年	バルセロナオリンピック大会時に「地球への誓い」全参加NOC署名
1994年	第12回オリンピック・コンGRESS（IOC創立100周年記念）でスポーツと環境分科会開催・パリ
1995年	IOCにスポーツと環境委員会設置 委員長 パル・シュミット 第1回IOCスポーツと環境世界会議開催・ローザンヌ
1996年	委員に就任 岡野俊一郎（1996-2001）、水野正人（1996-現在）
1997年	第2回IOCスポーツと環境世界会議開催・クウェート
1999年	第3回IOCスポーツと環境世界会議開催・リオデジャネイロ オリンピックムーブメントアジェンダ21採択
2001年	第4回IOCスポーツと環境世界会議開催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”
2002年	極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境リージョナルセミナー開催・北京
2003年	第5回IOCスポーツと環境世界会議開催・トリノ “PARTNERSHIPS FOR SUSTAINABLE DEVELOPMENT”
2004年	IOCスポーツと環境・地域セミナー開催・ハバナ
2005年	IOCスポーツと環境・西アジア地域セミナー開催・ドバイ 第6回IOCスポーツと環境世界会議開催・ナイロビ
2006年	IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー開催・クワラルンプール
2007年	第7回IOCスポーツと環境世界会議・北京（予定）

(4) JOC スポーツ環境委員会小史

2001年	JOCスポーツ環境委員会設置 委員長 水野正人 委員 石川徹男、櫻井孝次、佐野和夫、瀬尾洋、早田卓次、平松純子、松岡修造、森健兒 第4回IOCスポーツと環境世界会議主催・長野市 “GIVE THE PLANET A SPORTING CHANCE”（この星にスポーツを！）
2002年	ファーストポスター、パンフレット作成 極東及び東アジア、第1回IOCスポーツと環境・地域セミナー・北京 参加
2003年	7月にISO14001認証登録 セカンドポスター作成 平成14年度スポーツ環境委員会調査研究報告書作成 ISO14001認証登録、IOC加盟NOC202NOCの中で初めて 第5回IOCスポーツと環境世界会議・トリノ、参加 佐野和夫JOCスポーツ環境委員・JOCの活動を報告
2004年	サードポスター作成 平成15年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 第1回スポーツと環境担当者会議開催・JISS 本会関係者、加盟団体、パートナー
2005年	ジョイントポスター・パンフレット（第2版）作成 平成16年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 環境省の「チームマイナス6%」のメンバーとなる 第1回JOCスポーツと環境・地域セミナー開催・大阪 第2回スポーツと環境担当者会議開催・JISS 第6回IOCスポーツと環境世界会議・ナイロビ、参加 佐野和夫JOCスポーツ環境副委員長・JOCの活動を報告
2006年	イラストポスター（5TH）作成 平成17年度スポーツ環境委員会活動報告書作成 ISO14001認証登録を更新 IOCスポーツと環境・アジア地域セミナー・クワラルンプール、参加 遠藤幸一JOCスポーツ環境委員・JOCの活動を報告 第2回JOCスポーツと環境地域セミナー開催予定（長野市） 第3回スポーツと環境担当者会議開催予定（JISS）

(5) オリンピックムーブメント アジェンダ 21 (要約)

OLYMPIC MOVEMENT'S AGENDA 21

1. 一般原則

1. 1 持続可能な開発

1992年にリオデジャネイロで開催された「環境と開発に関する国連会議 (UNCED)、別名「地球サミット」で持続可能な開発を目指す「リオ宣言」が182カ国の創意で採択された。

1. 2 UNCED アジェンダ 21

各国政府がそれぞれの国家戦略、計画、規制、活動を策定する際の青写真としての役割を果たすだけでなく、非政府組織にもこのアジェンダ 21 に基づいた独自のアジェンダ 21 を作成するよう求めている。

2. オリンピックムーブメントにおけるアジェンダ 21 の目標

傘下のメンバー全員 (IOC、IF、NOC、OCOG など) およびスポーツをする全ての人を対象に持続可能な開発を方針に取り入れられる分野を提案し、また、各個人の行動方法についても指摘している。

3. 持続可能な開発に向けてのオリンピックムーブメントの行動計画

3. 1 社会経済条件の改善

全ての個人が文化的・物質的ニーズを満たされなければならない。

3. 1. 1 オリンピズムの価値および持続可能な開発のための行動

持続可能な開発のための国際協力事業を強化し、社会排除と戦う一助となり、新たな消費者習慣を奨励し、健康保護奨励に積極的な役目を果たし、スポーツインフラを振興するに当たり、開発と環境の概念をスポーツの方針に取り入れていく。

3. 1. 2 持続可能な開発に向けての国際協力の強化

環境と開発がもたらす難題は世界的なパートナーシップを確立しなければ克服できない。特に国連環境計画 (UNEP) との協調が大切である。地域レベルでは IOC と NOC とが持続可能な開発に向けて共同歩調をとるべきである。また、スポーツ用品業界では使用する材料や工程を介して持続可能な管理に努め、その活動が環境に及ぼす影響を最小限にとどめるべきである。

3. 1. 3 排除の撲滅

スポーツへの参加を通じて社会的不利な立場にある個人・集団を支援する。

3. 1. 4 消費者習慣の変化

無公害のあるいはリサイクル材料を利用し、原料とエネルギーが節約できるよう製造されたスポーツ用品の使用を奨励する。同時にスポーツ用品・建造物には地域特有の従来型材料を使用するよう働きかける。

3. 1. 5 健康の保護

ドーピング対策はもとより、栄養、衛生、感染症・伝染病防止、弱者グループの保護、都市住民の健康面を大きく取り上げる。

3. 1. 6 人の居住環境および定住

スポーツ施設は土地利用計画に従って、自然・人口を問わず、地域の状況に調和して融けこ

むように建設・改築されるべきである。事前の環境影響調査が条件となっているのが望ましい。また、スポーツイベントで主催者は以前よりも条件的な改善を目指し、地域住民をより多く関与させることも大切である。

3. 1. 7 「持続可能な開発」概念のスポーツ方針への取り込み

各競技運営団体は持続可能な開発の概念をスポーツ界、スポーツ活動およびスポーツイベント企画の方針・規則や管理制度に取り入れる。

3. 2 持続可能な開発のための資源の保全および管理

オリンピックムーブメントは、スポーツと文化に加えて環境をオリンピックの第三の柱としている。その環境保全活動は社会経済条件の改善に必要な天然資源と自然環境の保全と管理に切り替えられている。

3. 2. 1 オリンピックムーブメントに関する環境行動の方法

オリンピックムーブメントによる行動はすべて環境に充分配慮しつつ持続可能な開発の精神に則り、環境教育を推奨し、環境保全の一助となる活動をしなければならない。

3. 2. 2 環境保全区域および田園地帯の保護

スポーツ活動、施設、イベントは環境保全区域、田園地帯、文化遺産と天然資源全体を保護しなければならない。また、これらに関するインフラが環境に与える影響を最小限にとどめるよう配慮しなければならない。

3. 2. 3 スポーツ施設

既存のスポーツ施設をできる限り最大限に活用し、良好な状態に保ち、安全性を高めて環境への影響を減らす。また、新規施設の建造の前提としては、既存施設では修理しても使用できない場合に限る。

3. 2. 4 スポーツ用品

環境に配慮したスポーツ用品の製造だけでなく、商品の輸送・流通のためのエネルギー消費を最小限にとどめ、出来るだけ現地の製品を利用することを奨励する。また、品質保証および環境管理に関する ISO の認証を取得すべきである。

3. 2. 5 輸送

再生不可能なエネルギーの消費などを削減するために無公害の生産手段と公共輸送手段の利用促進を目的とした計画を進める。

3. 2. 6 エネルギー

- ・過剰なエネルギー消費を抑える。
- ・再生可能なエネルギー源の利用とエネルギーの節約を推奨する新技術、用具、施設、慣行の利用を推進する。
- ・再生可能で無公害のエネルギー源を入手することを推奨する。

3. 2. 7 主要スポーツイベントでの宿泊設備及び食事サービス

- ・アジェンダ 21 の 3. 1. 6 節に従った構造を推奨する。
- ・衛生条件を厳守する。
- ・地元住民の発展と環境保護に充分配慮して作られた商品・食料を利用する。
- ・使用済み製品を最大限に再利用することで廃棄物を最小限に抑える。
- ・再利用できない廃棄物を処理する。

3. 2. 8 水の管理

- ・貯水保護および天然水の品質保全を意図した世界的・地域的な活動を奨励し、支援する。

- ・地下水または地上水を汚染する危険を持つ慣行はすべて避ける。
- ・スポーツ活動から生じた排水が必ず処理されるようにする。
- ・単にスポーツ活動でのニーズを満たすために特定の地域での全般的な水の供給を脅かさない。

3. 2. 9 有害な製品、廃棄物、公害の管理

- ・人類にとって有害もしくは有毒である、または環境汚染を引き起こすと認められている製品の使用は避ける。
- ・そのような製品を使用しなければならない慣行、製造、農業手法を奨励しない。
- ・排出・処理される廃棄物の量を最小限にし、廃棄物管理再利用の地域プログラムを推進する。
- ・新規のスポーツ施設の設立、既存施設の改築、新規インフラの構築および主要イベントの企画を利用して、有害なもしくは有毒な製品、汚染物質または廃棄物によって汚染されている敷地を改善する。
- ・あらゆる形態の公害、特に騒音公害を最小限に抑える。公害を低減するために過去のオリンピック競技大会で用いられた慣行・手法の成功例をもとに事を進める。

3. 2. 10 生物圏の質および生物多様性の維持

オリンピックムーブメントは以下の慣行を非難し、反対する。

- ・大気、土壌または水を汚染する。
- ・生物多様性を危険にさらす、または動植物の種を絶滅の危機に陥れる。
- ・森林伐採の原因をつくる、または国土保全に害を及ぼす。

3. 3 主要グループの役割強化

持続可能な開発の成功にはオリンピックムーブメントを構成する全てのグループがこの取組みを積極的に支援すると同時に、これらグループに敬意が払われることが不可欠である。

3. 3. 1 女性の役割の向上

- ・女性のスポーツ振興に邁進する。
- ・従来女性のものだと考えてきた競技種目を他のものと同様に扱う。
- ・特に教育の中核ともなる地域スポーツセンターの構築を通じて女性の教育を推進する。
- ・女性がスポーツに参加しやすくなるよう託児所などの社会的な手段を講じる手助けをする。
- ・男女のスポーツの実施を公平にマスコミが取り上げ、経済面でも公平に扱うようにする。
- ・競技運営団体において女性が責任ある地位に就けるよう奨励する。
- ・関連国際団体と共同で活動にあたる。

3. 3. 2 若者の役割の推進

- ・全ての若い競技者が教育を受けられ、労働生活へと溶け込めることを奨励する。
- ・競技団体内で若者が自分達に関係のある決定を下す際に関与できるようにする。
- ・オリンピックムーブメントが手配した活動で若者が示す動員力を活用する。
- ・若者が特に犠牲となる可能性の高い人権侵害を非難し、対抗する。
- ・子供の人権に関する国連条約（決議 44 / 25）の承認を宣言し施行する。
- ・専門の国際団体と共同で活動する。

3. 3. 3 原住民族の認知および推進

- ・原住民の伝統的なスポーツを振興する。
- ・特に原住民族発祥の地において、環境管理問題では先住民の昔からの知識とノウハウを使うようにし、適切な行動を取る。
- ・これらの原住民がスポーツに参加できるよう推奨する。

オリンピックムーブメントのメンバーによるアジェンダ 21 の誓い

1999年10月に開催された第3回スポーツと環境に関する世界会議の出席者はアジェンダ 21 の実施に向けての一連の行動を定める「リオ宣言」を発表した。

スポーツと持続可能な開発に関するリオ宣言

1. アジェンダ 21 は、オリンピックムーブメントが持続可能な開発に効果的に役立つ分野において全般的な行動を示すための道具である。
2. オリンピックムーブメントの全てのメンバーやスポーツ参加者、スポーツ関連企業は出来る限り現行のアジェンダ 21 の勧告に従うべきである。
3. オリンピックムーブメントの全てのメンバーは持続可能な開発を各々の方針や活動に取り入れ、また関連する個人も自らのスポーツ活動やライフスタイルが持続可能な開発に役立つような行動をすべきである。
4. アジェンダ 21 の実施に当たっては様々な社会・経済・地理・気候・文化・宗教などの事情を尊重しなければならない。
5. 意識向上のため、環境保全についての教育・研修に重点がおかれるべきである。
6. 競技者は環境教育・研修を進める上での貢献が期待され、マスコミもそれ支援していかなければならない。
7. アジェンダ 21 は同様の目標を掲げている他の全ての政府・非政府組織および国内外組織との緊密な協調を経て実施されるべきである。
8. アジェンダ 21 の推進・改訂についての責任は IOC にある。オリンピックムーブメントの全てのメンバーや他の関連団体は、その任務を行なうスポーツ環境委員会を適切に支援するべきである。
9. IOC スポーツ委員会と国連環境計画は共同の作業委員会を設立し、方針について助言・指導するとともにアジェンダ 21 の実施を監視するべきである。
10. 共同の作業委員会はアジェンダ 21 の進捗状況をオリンピックムーブメントのメンバーが出席する会議や今後開催されるスポーツと環境に関する世界会議に提出するべきである。



編集後記

平成 17 年度の活動報告書を発行するにあたり、皆様にご協力をいただき深く感謝いたしております。

また、各団体の環境委員会・プロジェクトの設置は最初のアンケートでは、7 団体でしたが、今回の編集にあたり調査いたしましたところ 25 団体あり、各団体の環境保全活動も年々活動の輪が広がっていることを実感いたしました。

今後ともスポーツ界の環境をよりよいものとするために引き続きスポーツ環境保全のために、啓発・実践活動のご協力をお願いいたします。

佐野和夫 報告書編集担当

平成 17 年度 スポーツ環境委員会活動報告書

平成 18 年 6 月 27 日

編集・発行

財団法人 日本オリンピック委員会

〒150-8050 渋谷区神南 1-1-1

岸記念体育会館内

TEL：03-3481-2313

URL：<http://www.joc.or.jp/eco/index.html>

JOC 啓発活動写真提供社：アフロススポーツ

フォート・キシモト

〈問合せ先〉

〒150-8050 渋谷区神南 1-1-1

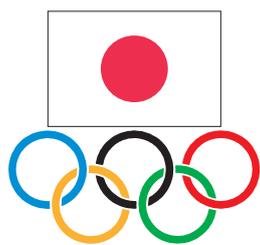
(財)日本オリンピック委員会 事業・広報部

日比野哲郎、山本佳代子、石川宣治、高橋ダニエル克弥

TEL：03-3481-2313

FAX：03-3481-0977

※スポーツ環境ポスター、パンフレット、横断幕送付依頼先：上記
担当者：山本、高橋



財団法人 日本オリンピック委員会
スポーツ環境専門委員会